

秋 田 県

土木工事共通仕様書

平成25年4月1日以降適用

出来形管理基準

【 土 木 編 】

赤字：秋田県独自項目

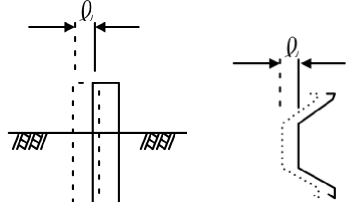
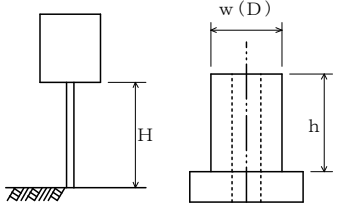
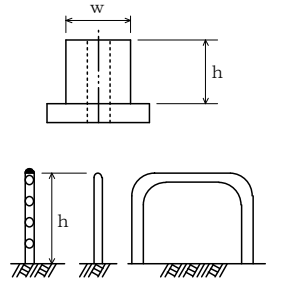
青字：今回改訂部分

(H25.4.1改訂)

— 表紙 (裏) 空欄 —

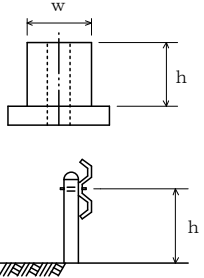
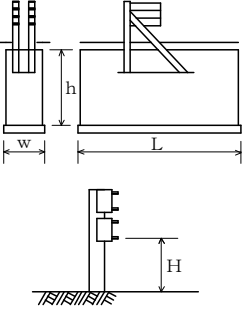
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅型鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ▽	±50	
						根 入 長	設計値以上	
						変 位 ℓ	100	
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延 長 L	－200	
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	
						基礎	幅 w (D)	－30
							高さ h	－30
							根 入 れ 長	設計値以上
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	－30
						高 さ h	－30	
						パイプ取付高 H		+30 －20

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は、施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所、延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 箇所／1 施工箇所		
1 箇所／1 基		
基礎 1 基毎		
単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。		
1 箇所／1 施工箇所		

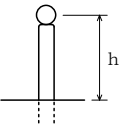
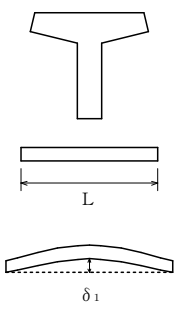
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
							ビーム取付高 H	+30 -20
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
							延 長 L	-100
							ケーブル取付高 H	+30 -20
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	9		区画線工		厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上
							幅 w	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所／施工延長 40m 40m以下のものは、2 箇所／1 施工箇所。 1 箇所／1 施工箇所		
1 箇所／1 基礎毎 1 箇所／1 施工箇所		
各線種毎に、1 箇所テストピースにより測定。		

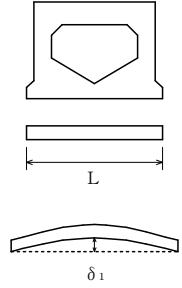
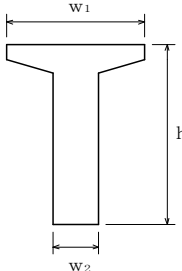
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼 道 路 橋 塗 装・防食便覧 Ⅱ－7 4「表－ Ⅱ．5．5各塗 料の標準使用 量と標準膜厚」 の標準使用量 以上。
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁 長 L	± L /1000
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	±10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所／10 本 10 本以下の場合は、2 箇所測定。		
塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗布作業の開始前に搬入量（充缶数）と、塗布作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。1 ロットの大きさは 500 m ² とする。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L	$\pm 10 \cdots \cdots$ $L \leq 10\text{m}$
						断面の外形寸法	$\pm L/1000$ $\cdots L > 10\text{m}$
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	13		ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	$+10$ -5
						幅 (下) w_2	± 5
						高 さ h	$+10$ -5
						桁 長 支 間 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ : 支間長 (m)		

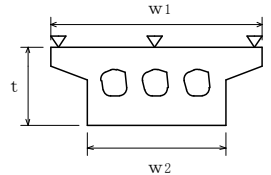
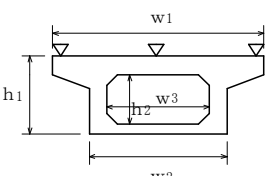
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	13	2	プレキャストセグメント桁製作工 (購入工)	桁 長 ℓ	—
						断面の外形寸法 (mm)	—
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	14		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：スパン長		

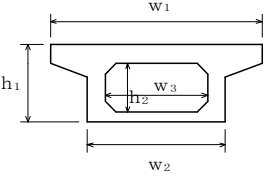
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	15		P C ホロースラブ製作工	基 準 高	±20
						幅 w_1, w_2	+30～-5
						厚 さ t	+20～-10
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	16	1	P C 箱桁製作工	基 準 高	±20
						幅 (上) w_1	+30～-5
						幅 (下) w_2	+30～-5
						内 空 幅 w_3	±5
						高 さ h_1	+10 -5
						内空高さ h_2	+10 -5
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：スパン長		
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：スパン長		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	16	2	P C押出し箱桁製作工	幅 (上) w_1	- 5 ~ + 30
						幅 (下) w_2	- 5 ~ + 30
						内 空 幅 w_3	± 5
						高 さ h_1	+ 10 - 5
						内空高さ h_2	+ 10 - 5
						桁 長 スパン長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ - 30mm 以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：支間長 (m)		

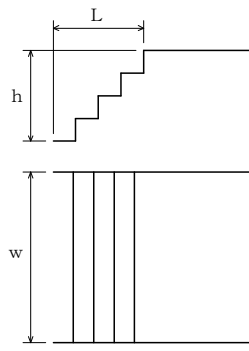
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	17		根固めブロック工	基準 高▽	層 積	±100
							乱 積	± t / 2
						厚 さ t		－20
						幅 w ₁ w ₂	層 積	－20
							乱 積	－ t / 2
						延長 L ₁ L ₂	層 積	－200
							乱 積	－ t / 2
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	18		沈床工	基 準 高 ▽		±150
						幅 w		±300
						延 長 L		－200
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	19		捨石工	基 準 高 ▽		－100
						幅 w		－100
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		
1 組毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

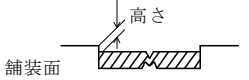
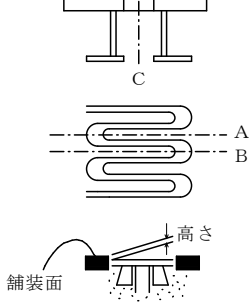
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	20		笠コンクリート工		
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	22		階段工	幅 w	−30
						高 さ h	−30
						長 さ L	−30
						段 数	±0 段

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－4－3法留基礎工に準ずる。		
1箇所／1施工箇所		

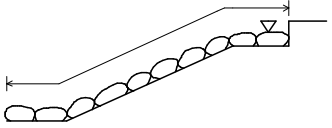
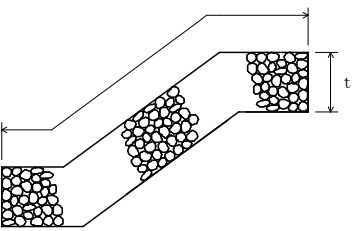
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ		舗装面に対し 0～－2
						表 面 の 凹 凸		3
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0～－2
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高 さ	据 付 け 高 さ	± 3
							車線方向各点誤差 の相対差	3
						表 面 の 凹 凸		3
						歯型板面の歯咬み合い 部の高低差		2
						縦 方 向 間 隔		± 2
						横 方 向 間 隔		± 5
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0～－2

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各 3 点計 9 点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計 3 点。		

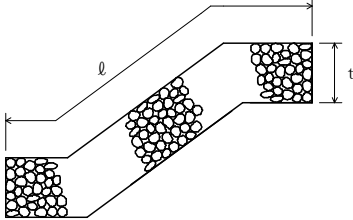
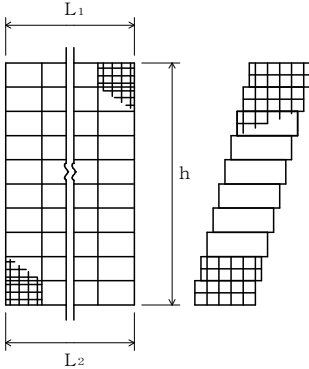
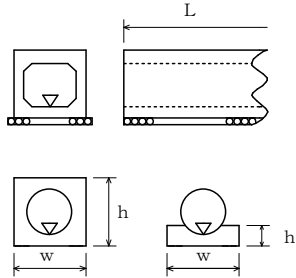
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共 通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り) (巨石積み)	基 準 高 ▽	±500
						法 長 ℓ	－200
						延 長 L	－200
1 共 通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	－100
						厚 さ t	－0.2 t
						延 長 L	－200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

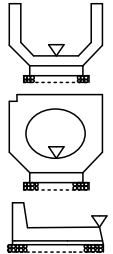
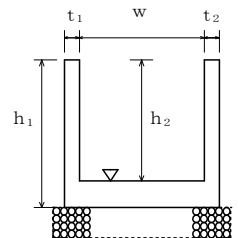
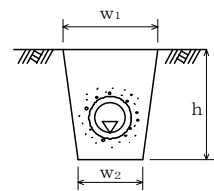
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	27	1	羽口工 (じゃかご)	法 長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚 さ t		-50
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	27	2	羽口工 (ふとんかご) (かご枠)	高 さ h		-100
						延長 L_1, L_2		-200
						基準高		-100
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	28	3	プレキャストカーペット工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基準高 ∇		± 30
						※幅 w		-50
						※高さ h		-30
						延 長 L		-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合		
1 施工箇所毎		

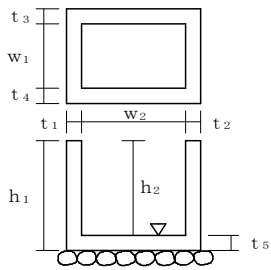
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側 溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	29	2	現場打水路工	基 準 高 ▽	±30
						厚さ t_1, t_2	－20
						幅 w	－30
						高さ h_1, h_2	－30
						延 長 L	－200
1 共通 編	3 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	29	3	暗渠工	基 準 高 ▽	±30
						幅 w_1, w_2	－50
						深 さ L	－30
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所毎／ 1 施工箇所		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	30		集水桝工	基 準 高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20
						※幅 w_1, w_2	－30
						※高さ h_1, h_2	－30
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種	31		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚の平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

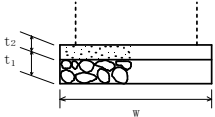
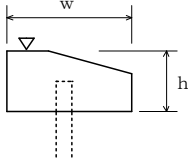
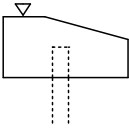
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	3 共通の工種			道路・河川・橋梁・トンネル等の発注者が指定する工種	道路中心点	±25 【x 軸, Y 軸 とも±25】
						河川中心点	±25 【x 軸, Y 軸 とも±25】
					橋梁下部等の発注者が指定する工種	構造中心線（点）及び主要点	±50 【x 軸, Y 軸 とも±50】

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主要測点及び曲線要素点等		「秋田県公共測量作業規程」「秋田県土地区画整理事業測量作業規程」「秋田県土地改良事業測量作業規程」に基づき実施し、設計図書が作成された工事とする。
各構造物の構造中心線（点）及び主要点等		

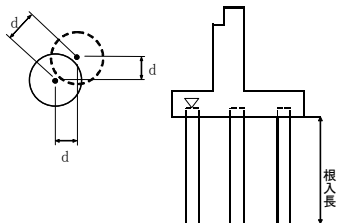
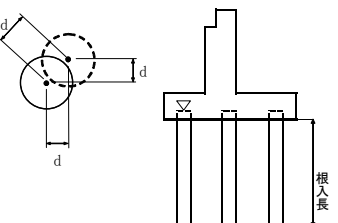
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ t ₁ , t ₂	－30
						延 長 L	各構造物の規格値による
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	1	法留基礎工 (現場打)	基 準 高 ▽	±30
						幅 w	－30
						高 さ h	－30
						延 長 L	－200
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	3	2	法留基礎工 (プレキャスト)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

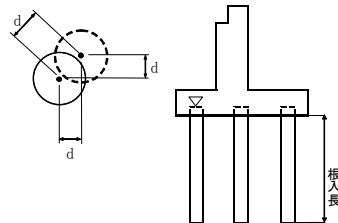
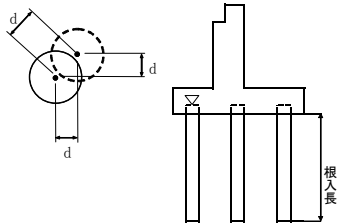
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100 以内
						傾 斜	1/100 以内
1 共通 編	3 一 般 施 工	4 基 礎 工	4		既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	基 準 高 ▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	100 以内
						傾 斜	1/100 以内
						杭 径	設計径以上

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数について杭中心で測定。	$d \approx \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
全数について杭中心で測定。	$d \approx \sqrt{x^2 + y^2}$ 	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100 以内
						傾 斜	1/100 以内
						杭 径	設計径（公称径）-30 以上
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	150 以内
						傾 斜	1/100 以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数について杭中心で測定。		
全数について杭中心で測定。		

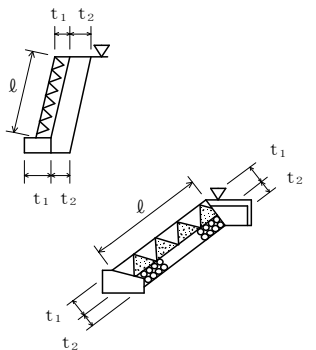
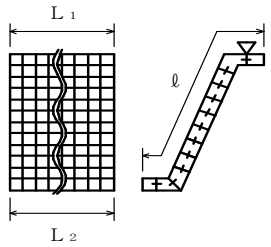
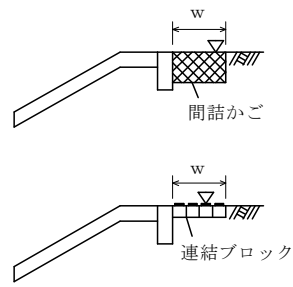
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100
						ケーソンの長さ ℓ	－50
						ケーソンの幅 w	－50
						ケーソンの高さ h	－100
						ケーソンの壁厚 t	－20
						偏 心 量 d	300 以内
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100
						ケーソンの長さ ℓ	－50
						ケーソンの幅 w	－50
						ケーソンの高さ h	－100
						ケーソンの壁厚 t	－20
						偏 心 量 d	300 以内
1 共通編	3 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽	±100
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	300 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
基準高は、全数を測定。 偏心量は、1 基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	

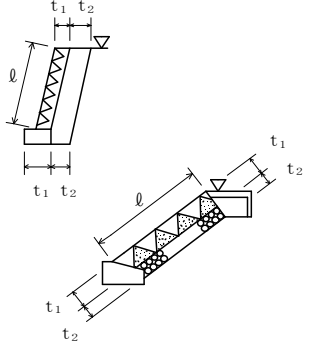
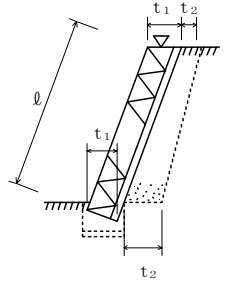
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	1	コンクリートブロック工（コンクリートブロック積） （コンクリートブロック張り）	基 準 高 ▽		±50
						法長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚さ（ブロック積張） t ₁		－50
						厚さ（裏込） t ₂		－50
						延 長 L		－200
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	2	コンクリートブロック工（連節ブロック張り）	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ		－100
						延長 L ₁ , L ₂		－200
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	3	コンクリートブロック工（天端保護ブロック）	基 準 高 ▽		±50
						幅 w		－100
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚さ（ブロック） t ₁	－50	
						厚さ（裏込） t ₂	－50	
						延 長 L	－200	
1 共通編	3 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚さ（石積・張） t ₁	－50	
						厚さ（裏込） t ₂	－50	
						延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	－45	－45	－15	－15
						幅	－50	－50	—	—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安 定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1 箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1 個の割でコアを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 (X ₁₀) について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1 箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1 個の割でコアを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－4
						幅	－25	－25	—	—
						▽基準高	±30		—	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3
						幅	－25	－25	—	—
						平 坦 性	—		3mプロファイルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	－45	－45	－15	－15
						幅	－50	－50	—	—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－8	－10
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
基準高は延長 40m ごとに 1 箇所割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30		—	
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30		—	
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	—	—
						▽基準高	±30		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に1個の割でコアを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－10
						幅	－25	－25	－	－
						平 坦 性	－		3mプロファイルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		－	
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	－	－
						厚 さ	－45	－45	－15	－15
						幅	－50	－50	－	－
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² 毎に 1 箇所の割でコアー を採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割と し、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り 起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。	橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り 起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－ 3
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X ₁₀)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することができる。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	－	－
						▽基準高	±30		－	
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3
						幅	－25	－25	－	－
						平 坦 性	－		3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾐｰﾀｰ (σ)2.4mm 以下 直読式 (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		－	
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	1	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X ₁₀)について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	2	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	－	－
						▽基準高	±30		－	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	11	3	グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3
						幅	－25	－25	－	－
						平 坦 性	－		3mプロファイルメータ (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以 下	
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X_{10})について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコアー を採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X ₁₀)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	—45		—15
						幅	—50		—
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	—25	—30	— 8
						幅	—50		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝 青)安定処理工)	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3
						幅	－25		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが10個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工)	厚 さ	—10		—3.5
						幅	—25		—
						平 坦 性	—		コンクリートの硬化後 3m ² プロファイルメ ーにより 機械舗設の場合 (σ)2.4mm 以下 人力舗設の場合 (σ)3mm 以下
						目地段差	±2		
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	—45		—15
						幅	—50		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	—25	—30	—8
						幅	—50		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1m の線上、全延長とする。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満)	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。 基準高は、延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) セメント（石灰・瀝 青）安定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) アスファルト中間 層	厚 さ	－ 9	－12	－ 3
						幅	－25		—
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工)	厚 さ	－15		－4. 5
						幅	－35		—
						平 坦 性	—		転圧コンクリートの硬 化後、3mプロファイル メータにより(σ) 2.4mm 以下。
						目地段差	± 2		
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1,000 ㎡に 1 個の割でコアを 採取もしくは、掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	
厚さは、各車線の中心付近で型枠据付 後各車線 200m毎に水糸又はレベルに より 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以 上測定、幅は、延長 80m毎に 1 箇所の 割で測定、平坦性は各車線毎に版縁か ら 1 m の線上、全延長とする。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	
隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	－45		－15
						幅	－50		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通 編	3 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3
						幅	-25		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、 厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに1箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	－45		－15
						幅	－50		—
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

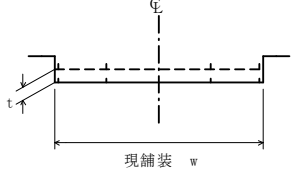
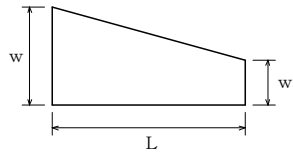
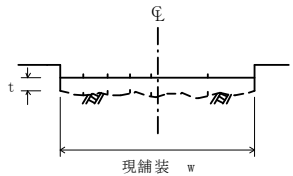
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント（石灰）安 定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
1 共通編	3 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3
						幅	-25		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 ($\bar{X}_{10}$) について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

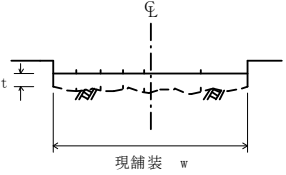
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
							個々の測定値(X)	平均の測定値($\bar{X}_{10}$)
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	15		路面切削工	厚さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	16		舗装打換え工	厚さ t	該当工種	
						幅 w	-50	
						延長 L	-100	
					舗設工	厚さ t	該当工種	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	17	1	切削オーバーレイ工	厚さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						平坦性	—	3mプロファイルメータ(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。 各層毎1箇所／1施工箇所		
		
厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所の割とし、延長40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。 。		

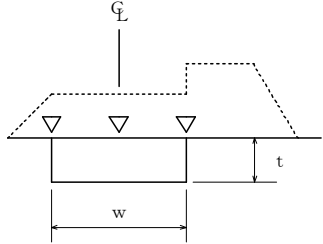
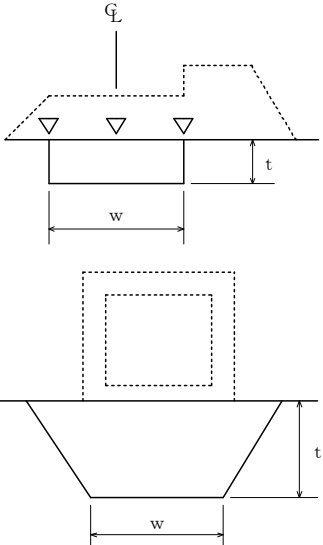
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ($\bar{X}_{10}$)
1 共通編	3 一般施工	6 一般舗装工	17	2	オーバーレイ工	厚さ t	- 9	
						幅 w	- 25	
						延長 L	- 100	
						平坦性	—	3mプロファイルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式 (σ) 1.75mm 以下

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは 40m 毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所/施工箇所とする。 延長 40m 未満の場合は、2 箇所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

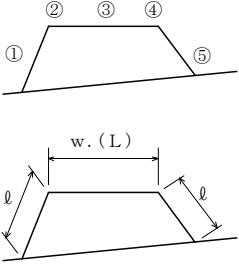
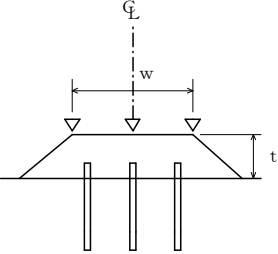
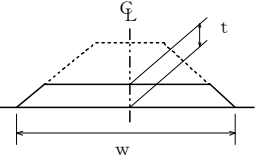
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の 測定値 (X)	平均の 測定値 ($\bar{X}_{10}$)
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	2		路床安定処理工	基 準 高 ∇		± 50
						施工厚さ t		-50
						幅 w		-100
						延 長 L		-200
1 共通 編	3 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	3		置換工	基 準 高 ∇		± 50
						置換厚さ t		-50
						幅 w		-100
						延 長 L		-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
延長 40m 毎に 1 箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。		

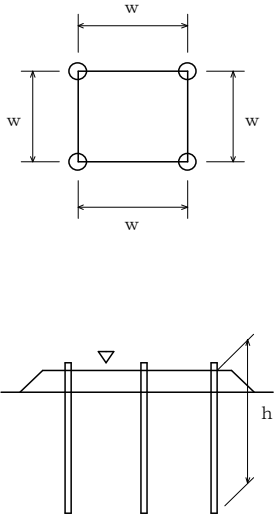
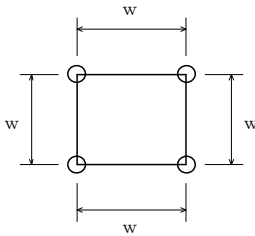
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 ∇	特記仕様書に 明示
						法 長 ℓ	－500
						天 端 幅 w	－300
						天端延長 L	－500
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基 準 高 ∇	±50
						厚 さ t	－50
						幅 w	－100
						延 長 L	－200
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	6	1	サンドマット工	施工厚さ t	－50
						幅 w	－100
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。 w. (L) は施工延長 40mにつき 1 箇所、80m以下のものは 1 施工箇所につき 3 箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		

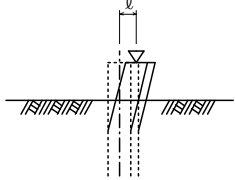
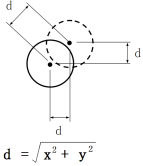
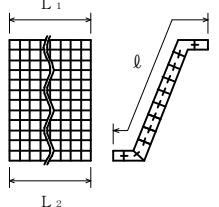
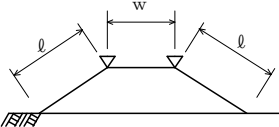
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	7	8	バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔 w	±100
						杭 径 D	設計値以上
						打 込 長 さ h	設計値以上
						サンドドレーン、袋詰式 サンドドレーン、サンド コンパクションパイル の砂投入量	—
1 共通編	3 一般施工	7 地盤改良工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽	－50
						位置・間隔 w	D/4 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 ℓ	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。1 箇所に 4 本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。 全本数		
全本数 計器管理にかえることができる。	※余長は、適用除外	
100 本に 1 箇所。 100 本以下は 2 箇所測定。 1 箇所に 4 本測定。 全本数		

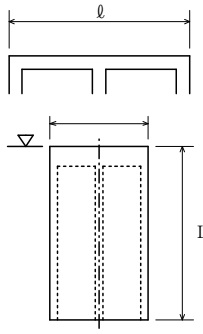
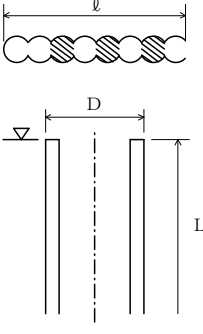
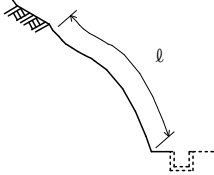
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ▽	±100
						根 入 長	設計値以上
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ ℓ	設計深さ以上
						配 置 誤 差	100
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	－100
						延長 L_1 L_2	－200
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ▽	－50
						天 端 幅 w	－100
						法 長 ℓ	－100
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ▽	－50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所。延長 40 m（又は 50m）以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 （任意仮設は除く）		
全数 （任意仮設は除く）		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 50mにつき 1 箇所。 延長 50m以下のものは 1 施工箇所につ き 2 箇所。 （任意仮設は除く）		
施工延長 50mにつき 1 箇所。 延長 50m以下のものは、1 施工箇所につ き 2 箇所。 （任意仮設は除く）		

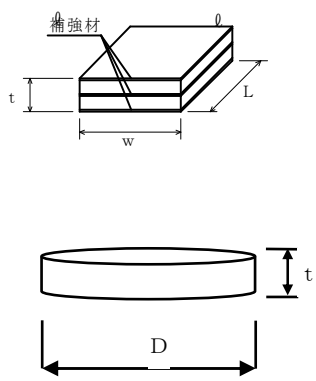
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工（壁式）	基 準 高 ∇	± 50
						連壁の長さ ℓ	-50
						変 位	300
						壁 体 長 L	-200
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	10		地中連続壁工（柱列式）	基 準 高 ∇	± 50
						連壁の長さ ℓ	-50
						変 位	D/4 以内
						壁 体 長 L	-200
1 共通 編	3 一 般 施 工	10 仮 設 工	23		法面吹付工	法 長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$ -50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$ -100
						厚 さ t	$t < 5 \text{ cm}$ -10
							$t \geq 5 \text{ cm}$ -20
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所。延長 40 m（又は 50m）以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m（測点間隔 25m の場合は 25m）につき 1 箇所。延長 20m（又は 25m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
基準高は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所。延長 40 m（又は 50m）以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m（測点間隔 25m の場合は 25m）につき 1 箇所。延長 20m（又は 25m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		D：杭径
施工延長 40mにつき 1 箇所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 200 m ² につき 1 箇所以上、200 m ² 以下は 2 箇所をせん孔により測定。 1 施工箇所毎		

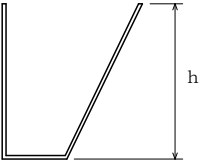
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法		JIS B 0403-95 CT13	
						全移動量 ℓ	ℓ ≤ 300mm	± 2	
							ℓ > 300mm	± ℓ / 100	
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ		± 3
							コンクリート構造用	H ≤ 300mm	± 3
								H > 300mm	± (H/200+3) 小数点以下切り捨て
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※ 1、※ 2		JIS B 0403-95 CT14
							鑄放し肉厚寸法 ※ 1		JIS B 0403-95 CT15
							削り加工寸法		JIS B 0405-91 粗級
							ガス切断寸法		JIS B 0417-79 B 級
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	1	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長さ L 直径 D	w, L, D ≤ 500	0 ～ + 5	
							500 < w, L, D ≤ 1500mm	0 ～ + 1 %	
							1500 < w, L, D	0 ～ + 15	
						厚さ t	t ≤ 20mm	± 0. 5	
							20 < t ≤ 160	± 2. 5 %	
							160 < t	± 4	
						平 面 度		1	

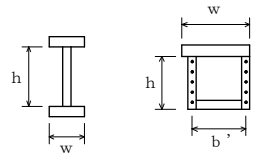
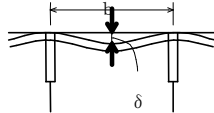
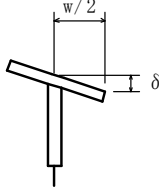
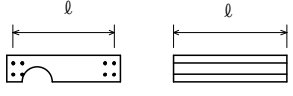
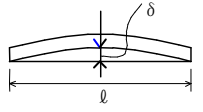
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。 ※1片面削り加工も含む。 ※2ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		
製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t)の最大相対誤差		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	1	4	刃口金物製作工	刃口高さ h (m)		$\pm 2 \cdots \cdots h \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < h \leq 2.0$
						外周長 L (m)		$\pm (10+L/10)$

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共 通 編	3 一 般 施 工	12 共 通 的 工 種	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
							板の平面度 δ (mm)	$h/250$
							箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
							部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$ $\pm 2 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
							圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell/1000$

測 定 基 準		測 定 箇 所	単位：mm 摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。		 I型鋼桁 トラス弦材	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h ：腹板高 (mm) b ：腹板またはリブの間隔 (mm) w ：フランジ幅 (mm)			
原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。			
原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。 ℓ ：部材長 (mm)			
—			

※ 規格値の w , ℓ に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ , フランジの直角度 δ , 圧縮部材の曲がり δ 」の規格値の h, b, w , ℓ に代入する数値はmm単位の数値とする。

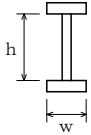
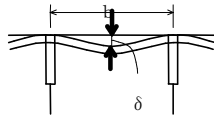
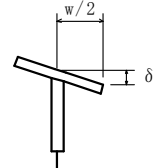
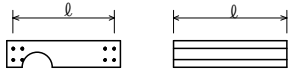
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	仮組立精度	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$
							主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots \cdots B > 2$
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots \cdots h > 5$
							主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots \cdots L \leq 100$ $25 \cdots \cdots L > 100$
							主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots \cdots 80 < L \leq 200$
							主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10
							主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5

測 定 基 準		測 定 箇 所	単位：mm 摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁、主構全数を測定。			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
—	両端部及び中心部を測定。		
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上(m)			
各主桁について 10 ～12m間隔を測定。	各主構の各格点を 測定。		
L: 主桁の支間長(m)	L: 主構の支間長(m)		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
各主桁の両端部を 測定。 L：主桁の高さ(mm)	支点及び支間中央 付近を測定。 L：主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナス 側については設計値以上とする。			

※ 規格値の L, B, h に代入する数値は m 単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値の h に代入する数値は mm 単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
						板の平面度 δ (mm)	$h/250$
						箱桁等の及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
						部材長 ℓ (m) 鋼桁	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要 (仮組立を実施)
主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I 型鋼桁	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板またはリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)		
		
主要部材全数を測定。		

※ 規格値の w , ℓ に代入する数値は m 単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ , フランジの直角度 δ 」の規格値の h , b , w , に代入する数値は mm 単位の数値とする。

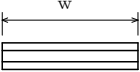
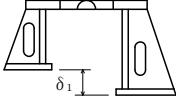
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	3	3	桁製作工 (鋼製えん堤製作工(仮組立時))	部 材 の 水 平 度	10
						堤 長 L	±30
						堤 長 ℓ	±10
						堤 幅 W	±30
						堤 幅 w	±10
						高 さ H	±10
						ベースプレートの高さ	±10
						本 体 の 傾 き	±H/500

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数を測定。	図 a 格子形 鋼製砂防ダム 図 b 鋼製スリット ダム A 型 図 c 鋼製スリット ダム B 型 図 d 鋼製 L 型 スリットダム	

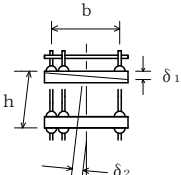
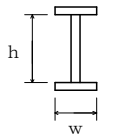
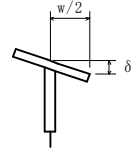
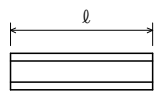
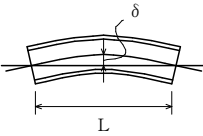
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	4		検査路製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	$0 \sim +30$
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4
							フィンガーの食い違い δ_2 (mm)	± 2
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	6		落橋防止装置製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。	 (実測値) δ_2 	
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	8		アンカーフレーム製作工	上 面 水 平 度 δ_1 (mm)	$b/500$
						鉛 直 度 δ_2 (mm)	$h/500$
						高さ h (mm)	± 5
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	9		プレビーム用桁製作工	部 材	
						フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
						部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	9		プレビーム用桁製作工	仮組立時	
						主 桁 の そ り δ	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸芯上全数測定。		b: ボルト間隔 (mm) h: 高さ (mm)
各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼桁	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について 10～12m 間隔を測定。		

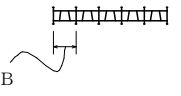
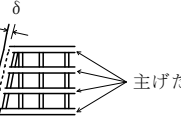
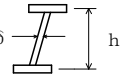
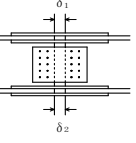
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	10		鋼製排水管製作工	部	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$
						材		$\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
1 共通編	3 一般施工	12 共通の工種	11		工場塗装工	塗 膜 厚		a. ロットの塗膜厚の平均値は目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

単位：mm

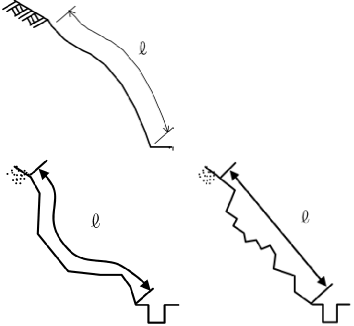
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	3 一般施工	13 橋梁架設工	3		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエクシオン架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全長、支間長	± (20+L/5)
			4			そ り	± (25+L/2)
			5			通 り	± (10+2L/5)
			6			※主桁、主構の 中心間距離B（m）	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots \cdots B > 2$
			7				
			8				
						※主桁、主構の橋端における 出入差δ（mm）	設計値±10
						※主桁、主構の鉛直度 δ（mm）	3+h/1,000
						※現場継手部のすき間 δ ₁ 、δ ₂ （mm）	設計値±5

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m) 主桁、主構を全数測定。		
主桁、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m) 各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
		
各主桁の両端部を測定。 H：主桁・主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ ₁ 、δ ₂ のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

※ 規格値のL,B,に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

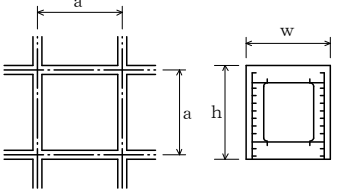
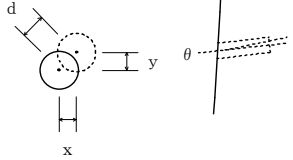
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	14 法面工共通	2	1	植生工 (種子吹付工) (張芝工) (筋芝工) (市松芝工) (植生ネット工) (種子帯工) (人工張芝工) (植生穴工)	切土 法長 ℓ	$\ell < 5 \text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の-4%
						盛土 法長 ℓ	$\ell < 5 \text{ m}$	-100
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の-2%
						延 長 L		-200
1 共通編	3 一般施工	14 法面工共通	2	2	植生工 (厚層基材吹付工) (客土吹付工)	法長 ℓ	$\ell < 5 \text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長の-4%
						厚さ t	$t < 5 \text{ cm}$	-10
							$t \geq 5 \text{ cm}$	-20
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。		
						延 長 L		-200
1 共通編	3 一般施工	14 法面工共通	3		吹付工（仮設を含む） (コンクリート) (モルタル)	法長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚さ t	$t < 5 \text{ cm}$	-10
							$t \geq 5 \text{ cm}$	-20
						但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上		
						延 長 L		-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40mにつき 1 箇所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 施工面積 200 m²につき 1 箇所、面積 200 m²以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 検査孔により測定。 1 施工箇所毎		
施工延長 40mにつき 1 箇所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 測定箇所に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。 200 m²につき 1 箇所以上、200 m²以下は 2 箇所をせん孔により測定。 1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	3 一般施工	14 法面工 共通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法 長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						幅 w		-30
						高 さ h		-30
						吹付枠中心間隔 a		± 100
						延 長 L		-200
1 共通編	3 一般施工	14 法面工 共通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法 長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						延 長 L		-200
1 共通編	3 一般施工	14 法面工 共通	6		アンカー工	削孔深さ ℓ		設計値以上
						配置誤差 d		100
						せん孔方向 θ		± 2.5 度

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 枠延長 100m につき 1 箇所、枠延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		曲線部は設計図書による
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
全数 (任意仮設は除く)		

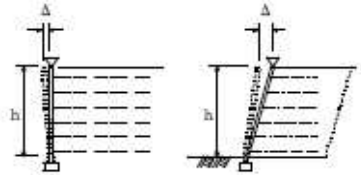
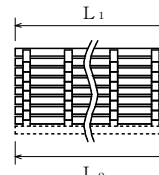
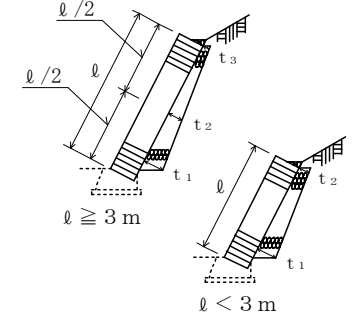
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						厚 さ t	－20	
						裏 込 厚 さ	－50	
						幅 w ₁ , w ₂	－30	
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L	－200	
1 共 通 編	3 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		

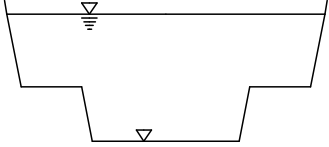
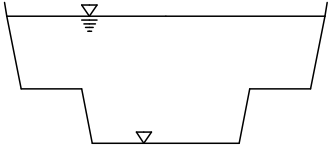
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共 通 編	3 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	3		補強土壁工 (補強土(テールアル メ)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	基 準 高 ▽		－50
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						鉛 直 度 Δ		±0.03h かつ ±300 以内
						控 え 長 さ		設計値以上
						延 長 L		－200
1 共 通 編	3 一 般 施 工	15 擁 壁 工 共 通	4		井桁ブロック工	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≧ 3 m	－100
						厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		－50
						延 長 L ₁ , L ₂		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	 	
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目			規 格 値	
1 共通編	3 一般施工	16 浚渫工共通	1	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)				上限	下限
						基準 高 ▽	電気船	200ps	+200	－ 800
								500ps	+200	－1000
								1000ps	+200	－1200
							ディーゼル船	250ps	+200	－ 800
								420ps 600ps	+200	－1000
								1350ps	+200	－1200
							幅			－200
						延 長			－200	
1 共通編	3 一般施工	16 浚渫工共通	1	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船)	基 準 高 ▽			上限	+200
						幅			－200	
						延 長			－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		

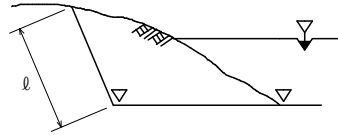
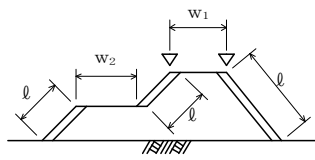
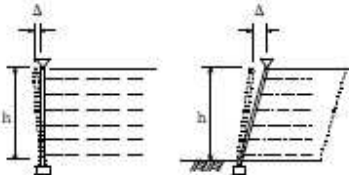
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共 通 編	3 一 般 施 工	18 床 版 工	1		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20
						幅 w	0 ～ +30
						厚 さ t	+20～－10
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋のかぶり	0～+25
						鉄 筋 間 隔	±20
						上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。（床版の厚さは、型枠検査をもつて代える。）		
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		

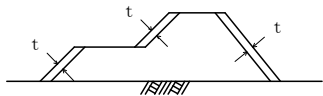
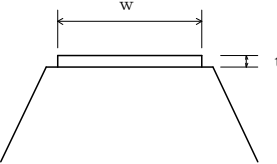
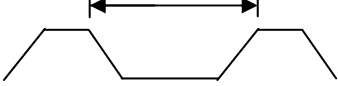
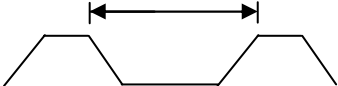
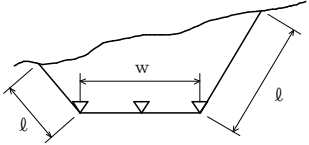
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	2		掘削工	基 準 高 ▽		±50
						法長 ℓ	ℓ < 5 m	－200
							ℓ ≥ 5 m	法長－4 %
						延 長		－200
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	3		盛土工	基 準 高 ▽		－50
						法長 ℓ	ℓ < 5 m	－100
							ℓ ≥ 5 m	法長－2 %
						幅 w ₁ , w ₂		－100
						延 長		－200
1 共通編	4 土工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基 準 高 ▽		±50
						高さ h	h < 3 m	－50
							h ≥ 3 m	－100
						鉛 直 度 Δ		±0.03h かつ ±300 以内
						控 え 長 さ		設計値以上
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は掘削部の両端で測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は各法肩で測定。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		

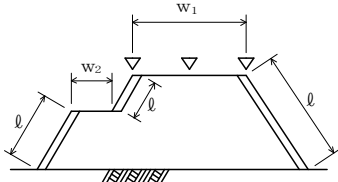
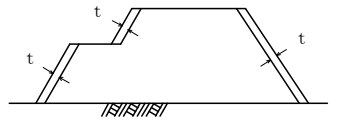
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工（盛土部）	厚 さ t	※－30
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚 さ t	t < 15cm －25
						t ≥ 15cm	－50
						幅 w	－100
1 共通 編	4 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工			川幅（兩岸土羽の場合）	延 長 (川幅 50m 以上)	－300
						延 長 (川幅 50m 未満)	－200
					川幅（両護岸または片護岸）	延 長 (川幅 50m 以上)	－200
						延 長 (川幅 50m 未満)	－100
1 共通 編	4 土 工	4 道 路 土 工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m －200
						ℓ ≥ 5 m	法長－4 %
						幅 w	－100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		
幅は、施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは、施工延長 200m につき 1 箇所、200m 以下は 2 箇所、中央で測定。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m につき 1 箇所、延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		

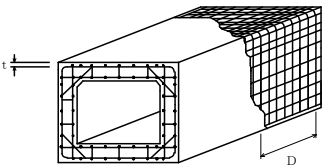
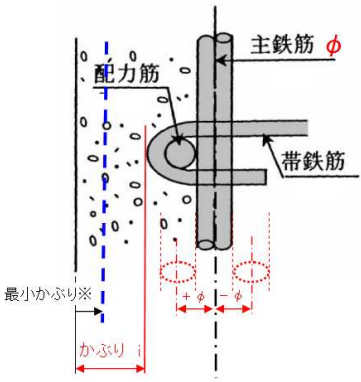
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
1 共通編	4 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基 準 高 ▽		±50
						法長 ℓ	ℓ < 5 m	－100
							ℓ ≥ 5 m	法長－ 2 %
						幅 w ₁ , w ₂		－100
1 共通編	4 土工	4 道路土工	5		法面整形工（盛土工）	厚 さ t		※－30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40mにつき 1 箇所、延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。		
施工延長 40mにつき 1 箇所、延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通編	5 無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋	4 鉄筋の組立て		鉄筋の組立て	平均間隔 d	±φ
						かぶり i	±φかつ 最小かぶり以上
						主鉄筋位置	±φ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
$d = \frac{D}{n-1}$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径 ※重要構造物かつ主鉄筋について適用する 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。		
※重要構造物かつ主鉄筋について適用する 工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編 13.2）参照。但し、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編 6.6）による。 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第1編3-18-1床版・横組工を適用する。		

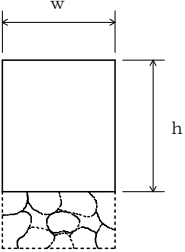
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	3 護岸基礎工	3		法留基礎工		
2 河川編	1 築堤・護岸	3 護岸基礎工	4		矢板工		
2 河川編	1 築堤・護岸	4 矢板護岸工	3		笠コンクリート工		
2 河川編	1 築堤・護岸	4 矢板護岸工	4		矢板工		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	3		コンクリートブロック工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		
第1編3-5-3コンクリートブロック工に準ずる。		

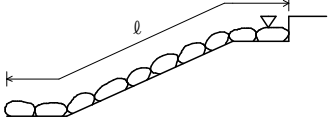
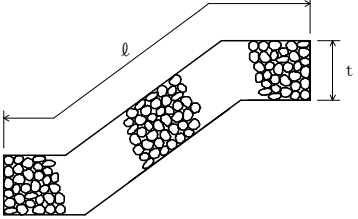
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅 w	－30
						高 さ h	－30
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	5		環境保全型ブロック工		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	6		石積（張）工		
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	7		法枠工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各格子間の中央部 1 箇所を測定。		
第 1 編 3－5－3 コンクリートブロック工に準ずる。		
第 1 編 3－5－5 石積（張）工に準ずる。		
第 1 編 3－3－5 法枠工に準ずる。		

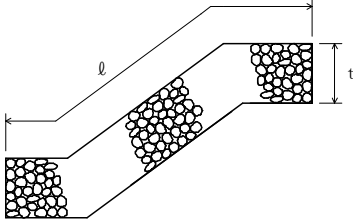
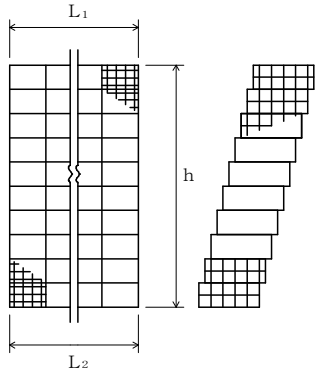
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	5 法 覆 護 岸 工	8	1	多自然型護岸工 (巨石張り) (巨石積み)	基 準 高 ∇	± 500
						法 長 ℓ	-200
						延 長 L	-200
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	5 法 覆 護 岸 工	8	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	-100
						厚 さ t	$-0.2 t$
						延 長 L	-200
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	5 法 覆 護 岸 工	9		吹付工		
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	5 法 覆 護 岸 工	10		植生工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3－14－3 吹付工に準ずる。		
第 1 編 3－14－2 植生工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	11		覆土工			
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	12	1	羽口工 (じゃかご)	法 長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚 さ t		-50
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	12	2	羽口工 (ふとんかご) (かご枠)	高 さ h		-100
						延長 L_1, L_2		-200
						基 準 高		-100
2 河川編	1 築堤・護岸	5 法覆護岸工	12	3	羽口工 (連節ブロック張り)			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編4-3-5整形仕上げ工に準ずる。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第1編3-5-3-2連節ブロック張りに準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	6 擁壁 護岸工	3		場所打擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－20
						裏 込 厚 さ		－50
						幅 w ₁ , w ₂		－30
						高さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	6 擁壁 護岸工	4		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						延 長 L		－200
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	7 根固め 工	3		根固めブロック工	基準 高 ▽	層 積	±100
							乱 積	± t / 2
						厚 さ t		－20
						幅 w ₁ w ₂	層 積	－20
							乱 積	－ t / 2
						延長 L ₁ L ₂	層 積	－200
乱 積	－ t / 2							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		

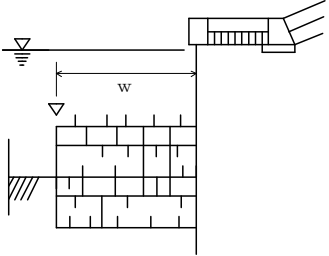
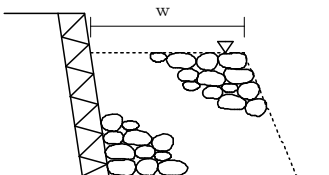
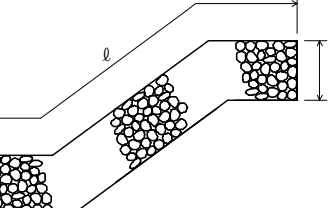
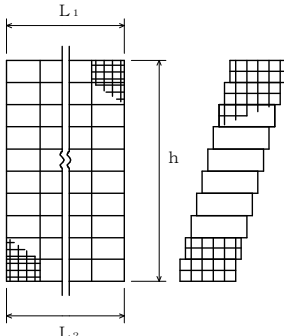
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	5		沈床工	基 準 高 ∇	± 150
						幅 w	± 300
						延 長 L	-200
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	6		捨石工	基 準 高 ∇	-100
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	7	1	かご工 (じゃかご)	法長 ℓ	
						$\ell < 3\text{ m}$	-50
						$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚 さ t	-50
2 河川編	1 築堤・護岸	7 根固め工	7	2	かご工 (ふとんかご)	高 さ h	-100
						延長 L_1, L_2	-200
						基 準 高 ∇	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1組毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

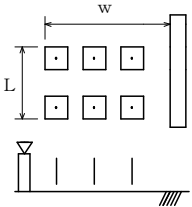
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	8 水 制 工	3		沈床工	基 準 高 ∇	± 150
						幅 w	± 300
						延 長 L	-200
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	8 水 制 工	4		捨石工	基 準 高 ∇	-100
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	8 水 制 工	5	1	かご工 (じゃかご)	法 長 ℓ $\ell < 3\text{ m}$	-50
						$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚 さ t	-50
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	8 水 制 工	5	2	かご工 (ふとんかご)	高 さ h	-100
						延長 L_1, L_2	-200
						基 準 高 ∇	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1組毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	8 水制工	8		杭出し水制工	基 準 高 ▽	±50
						幅 w	±300
						方 向	±7°
						延 長 L	－200
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	3		アスファルト舗装工		
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	4		コンクリート舗装工		
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	5		薄層カラー舗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1組毎		
第1編3－6－7 アスファルト舗装工に準ずる。		
第1編3－6－12 コンクリート舗装工に準ずる。		
第1編3－6－13 薄層カラー舗装工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の 測定値 の平均 (X_{10})
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	9 付 帯 道 路 工	6	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	－45		－15
						幅	－50		—
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	9 付 帯 道 路 工	6	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－8
						幅	－50		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。		

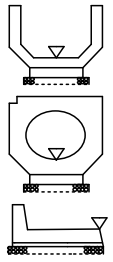
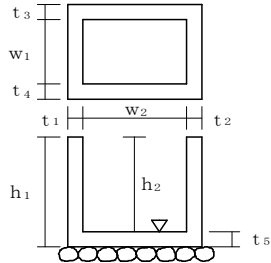
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の 測定値 の平均 (X_{10})
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	9 付 帯 道 路 工	6	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	9 付 帯 道 路 工	6	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5
						幅	－50		—
2 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	9 付 帯 道 路 工	6	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3
						幅	－25		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m ² 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m ² 未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個の割でコアを採取して測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	7		側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	8		集水桝工	基 準 高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20
						※幅 w_1, w_2	－30
						※高さ h_1, h_2	－30
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	9		縁石工		
2 河川編	1 築堤・護岸	9 付帯道路工	10		小型標識工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所毎／ 1 施工箇所		
1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		
第 1 編 3－3－5 縁石工に準ずる。		
第 1 編 3－3－6 小型標識工に準ずる。		

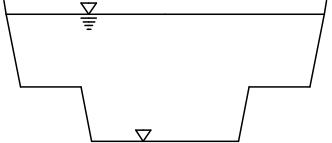
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目			規 格 値	
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	9 付帯道 路工	11		路側防護柵工					
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	9 付帯道 路工	12		区画線工					
2 河川 編	1 築堤・ 護岸	9 付帯道 路工	14		道路付属物工					
2 河川 編	2 浚渫 （川）	2 浚渫工	2		浚渫船運転工 （ポンプ浚渫船）				上限	下限
						基準 高 ▽	電気船	200ps	+200	－ 800
								500ps	+200	－1000
								1000ps	+200	－1200
							ディ ー ゼル 船	250ps	+200	－ 800
								420ps 600ps	+200	－1000
								1350ps	+200	－1200
						幅			－200	
						延 長			－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－3－8 路側防護柵工に準ずる。		
第1編3－3－9 区画線工に準ずる。		
第1編3－3－10 道路付属物工に準ずる。		
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		

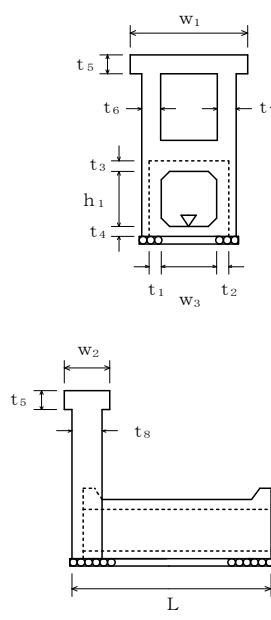
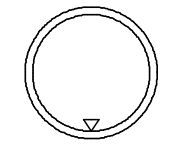
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	2 浚 渫 (川)	3 浚 渫 船	2		浚渫船運転工 (グラブ浚渫船)	基 準 高 ▽	上限 +200
						幅	-200
						延 長	-200
2 河川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	3 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	3		既製杭工		
2 河川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	3 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	4		場所打杭工		
2 河川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	3 樋 門 ・ 樋 管 本 体 工	5		矢板工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		
第1編3-4-4既製杭工に準ずる。		
第1編3-4-5場所打杭工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		

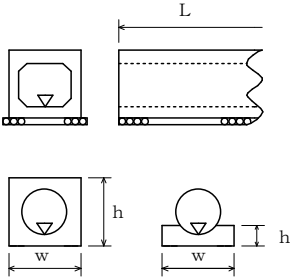
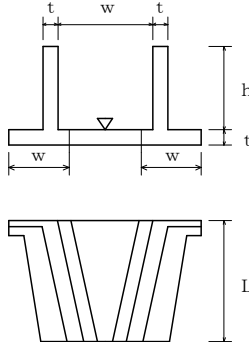
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本體工	6	1	函渠工 (本體工)	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20
						幅 w_1, w_2	-30
						内空幅 w_3	-30
						内空高 h_1	±30
						延 長 L	-200
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管本體工	6	2	函渠工 (ヒューム管) (P C 管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

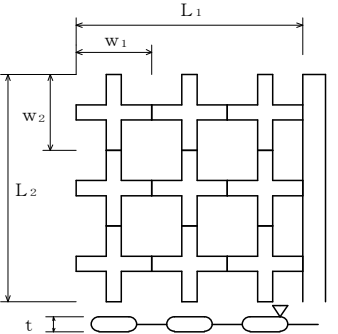
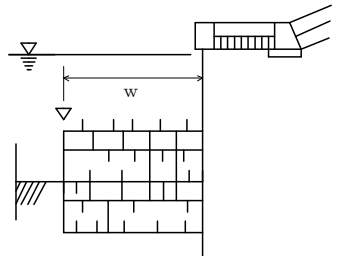
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本体工	6	3	函渠工 (P C 函渠) プレキャストカルハート工 (プレキャストボックス) (プレキャストパイプ)	基 準 高 ▽	±30
						※幅 w	－50
						※高 さ h	－30
						延 長 L	－200
2 河川編	3 樋門・樋管	3 樋門・樋管 本体工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ t	－20
						幅 w	－30
						高 さ h	±30
						延 長 L	－50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合 1 施工箇所毎		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

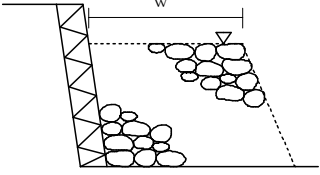
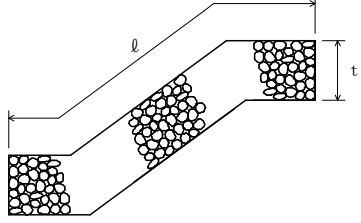
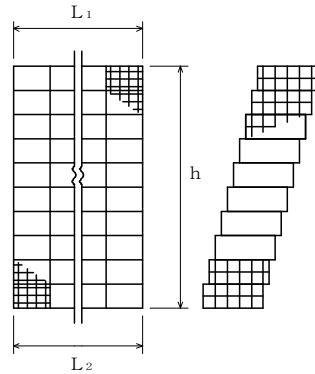
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	4 護 床 工	3		根固めブロック工	基準 高 ▽	層 積	±100
							乱 積	± t / 2
						厚 さ t		－20
						幅 w ₁ w ₂	層 積	－20
							乱 積	－ t / 2
						延長 L ₁ L ₂	層 積	－200
							乱 積	－ t / 2
2 河 川 編	3 樋 門 ・ 樋 管	4 護 床 工	5		沈床工	基 準 高 ▽		±150
						幅 w		±300
						延 長 L		－200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		
1 組毎		

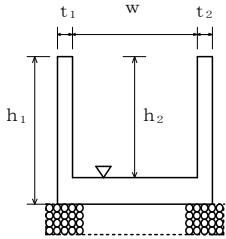
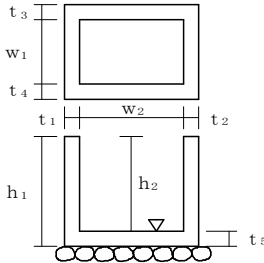
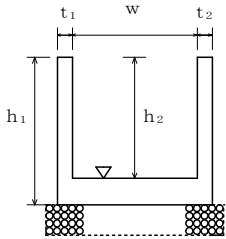
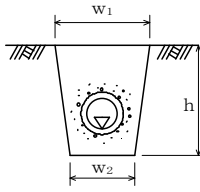
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	6		捨石工	基 準 高 ∇		-100
						幅 w		-100
						延 長 L		-200
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	7	1	かご工 (じゃかご)	法 長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚 さ t		-50
2 河川編	3 樋門・樋管	4 護床工	7	2	かご工 (ふとんかご)	高 さ h		-100
						延長 L_1, L_2		-200
						基 準 高		-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

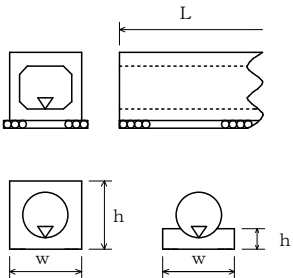
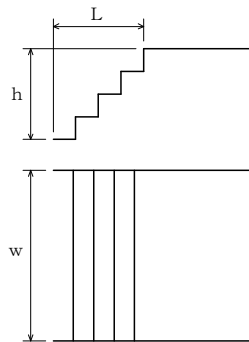
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 水路工	3		側溝工	基 準 高 ∇	± 30
						厚さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
2 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 水路工	4		集水桝工	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
2 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 水路工	5		堤脚水路工	基 準 高 ∇	± 30
						厚さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
2 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 水路工	6		暗渠工	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-50
						深 さ L	-30
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

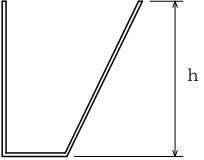
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	3 樋門・樋管	5 水路工	7		樋門接続暗渠工	基 準 高 ▽	±30
						※幅 w	－50
						※高 さ h	－30
						延 長 L	－200
2 河川編	3 樋門・樋管	6 付属物設置工	5		階段工 (現場打階段) (プレキャスト階段)	幅 w	－30
						高 さ h	－30
						長 さ L	－30
						段 数	±0段
2 河川編	3 樋門・樋管	6 付属物設置工	6		防止柵工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。 1 施工箇所毎		
1 箇所／1 施工箇所		
第 1 編 3－3－7 防止柵工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	4 水 門	3 水 門 工	3		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ h	± 30
						延 長 L	-50
2 河 川 編	4 水 門	3 水 門 工	4		扉体、戸当り及び開閉装置		
2 河 川 編	4 水 門	4 水 門 の 塗 装	3		水門塗装		
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	3		刃口金物製作工	刃口高さ h (m) $\pm 2 \cdots \cdots h \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < h \leq 2.0$	
						外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
機械工事施工管理基準（案）参照		
機械工事施工管理基準（案）参照		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

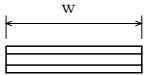
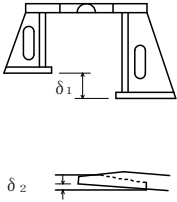
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	4	1	桁製作工		
2 河川編	5 堰	3 工場製作工	4	2	桁製作工 (仮組立による検査を省略する場合)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-12-3桁製作工に準ずる。		
第1編3-3-12-3桁製作工（仮組立による検査を省略する場合）に準ずる。		

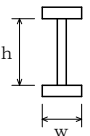
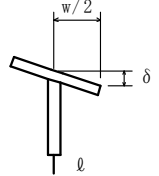
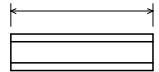
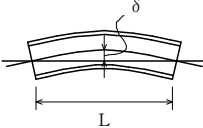
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	5		検査路製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	6		鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長 w (m)	0 ～ + 3 0
						仮 組 立 時	組合せる伸縮装置 との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4
							フィンガーの食い 違い δ_2 (mm)	± 2
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	7		落橋防止装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	8		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

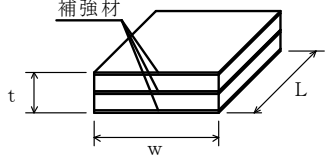
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	9		プレビーム用桁製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
						部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
						仮組立時 主 桁 の そ り δ	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	10		橋梁用防護柵製作工	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各 支 点 及 び 各 支 間 中 央 付	 I 型鋼桁	
近を測定。 各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について 10～12m 間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		

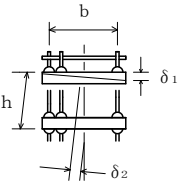
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法		JIS B 0403-95 CT13	
						全 移 動 量 ℓ	ℓ ≤ 300mm	± 2	
							ℓ > 300mm	± ℓ / 100	
						組 立 高 さ H	上、下面加工仕上げ		± 3
							コン ク リ ー ト 構 造 用	H ≤ 300mm	± 3
								H > 300mm	(H/200+3) 小数点以下切り捨て
						普 通 寸 法	鑄放し長さ寸法 ※1、※2		JIS B 0403-95 CT14
							鑄放し肉厚寸法※1		JIS B 0403-95 CT15
							削り加工寸法		JIS B 0405-91 粗級
							ガス切断寸法		JIS B 0417-79 B級
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	11	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長 さ L 直 径 D	w, L, D ≤ 500	0 ～ + 5	
							500 < w, L, D ≤ 1500mm	0 ～ + 1 %	
							1500 < w, L, D	0 ～ + 15	
						厚 さ t	t ≤ 20mm	0 ～ + 1	
							20 < t ≤ 160	0 ～ + 5 %	
							160 < t	0 ～ + 8	
						平 面 度		1	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。 ※1 片面削り加工も含む ※2 ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対しては CT13 を適用する		
製品全数を測定。 平面度：1 個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	12		アンカーフレーム製作工	上面水平度 δ_1 (mm)	$b / 500$
						鉛直度 δ_2 (mm)	$h / 500$
						高さ h (mm)	± 5
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	13		仮設材製作工	部 材	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$
2 河 川 編	5 堰	3 工 場 製 作 工	14		工場塗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸心上全数測定。		b: ボルト間隔 (mm) h: 高さ (mm)
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第 1 編 3 - 12 - 11 工場塗装工に準ずる。		

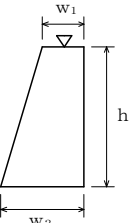
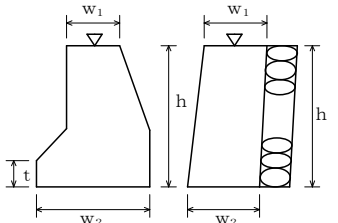
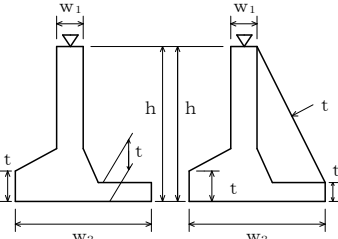
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	3		既製杭工		
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	4		場所打杭工		
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	5		オープンケーソン基礎工		
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	6		ニューマチックケーソン基礎工		
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	7		矢板工		
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	8		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 水叩工 閘門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30
			9			厚 さ t	－20
			10			幅 w	－30
			11			高 さ h	±30
			12			延 長 L	－50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
第1編3－4－7オープンケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－4－8ニューマチックケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－3－4矢板工に準ずる。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

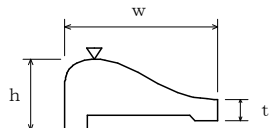
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	5 堰	4 可 動 堰 本 体 工	15		場所打擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－20
						裏 込 厚 さ		－50
						幅 w ₁ , w ₂		－30
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	3		既製杭工			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎	 	
第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		

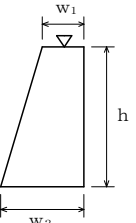
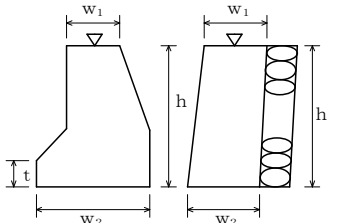
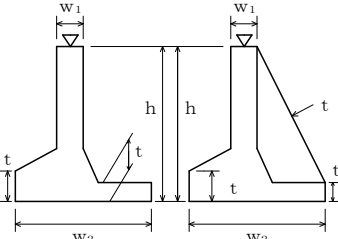
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	4		場所打杭工		
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	5		オープンケーソン基礎工		
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	6		ニューマチックケーソン基礎工		
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	7		矢板工		
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ t	－20
						幅 w	－30
						高 さ h	±30
						堰長 L	
						L < 20m	－50
						L ≥ 20m	－100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
第1編3－4－7オープンケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－4－8ニューマチックケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－3－4矢板工に準ずる。		
基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所で測定。		

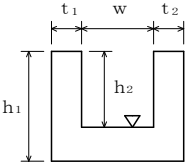
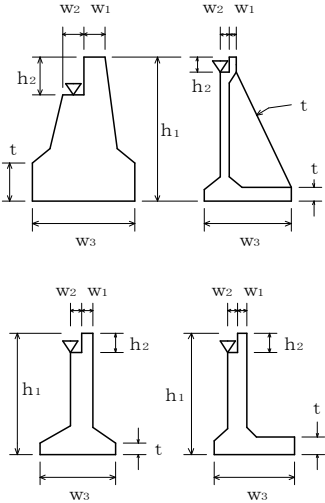
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	5 堰	5 固 定 堰 本 体 工	11		場所打擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－20
						裏 込 厚 さ		－50
						幅 w ₁ , w ₂		－30
						高さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200

単位：mm

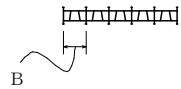
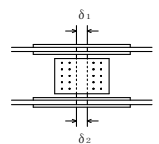
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎	 	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	6 魚 道 工	3		魚道本体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高 さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
2 河 川 編	5 堰	7 管 理 橋 下 部 工	2		管理橋橋台工	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50
						高 さ h_1	-50
						胸壁の高さ h_2	-30
						天 端 長 ℓ_1	-50
						敷 長 ℓ_2	-50
						胸壁間距離 ℓ	± 30
						支 点 長 及 び 中心線の変 化	± 50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 架 橋 上 部 工	4 5 6 7 8 9		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架 設） （ケーブルエレクト ション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレー ン架設）	全長、支間長	$\pm (20+L/5)$	各桁毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
						そ り	$\pm (25+L/2)$	主桁、主構を全数測定。		
						通 り	$\pm (10+2L/5)$	主桁、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
						※主桁、主構の 中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						※主桁、主構の橋端にお ける出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h：主桁・主構の高さ(mm)		
						※現場継手部のすき間 δ_1 , δ_2 (mm)	設計値 ± 5	主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ_1 , δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナス 側については設計値以上とする。		
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

※ 規格値の L, B, に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値の h に代入する数値は mm 単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 理 橋 上 部 工	10		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※±5
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 理 橋 上 部 工	11		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗 膜厚の平均値 は目標塗膜厚 合計値の90% 以上。 b. 測定値の最 小値は、目標 塗膜厚合計値 の70%以上。 c. 測定値の分 布の標準偏差 は、目標塗膜 厚合計値の 20%を超えな い。ただし、 測定値の平均 値が目標塗膜 厚合計値より 大きい場合は この限りでは ない。
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 理 橋 上 部 工	12		床版・横組工	基 準 高 ∇	±20
						幅 w	0～+30
						厚 さ t	+20～-10
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋のかぶり	0～+25
						鉄 筋 間 隔	±20
						上記、鉄筋の有効高 さがマイナスの場合	±10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、 各点の測定は5回行い、その平均値を その点の測定値とする。		
基準高は、1 径間当たり2箇所（支点 付近）で、1 箇所当たり両端と中央部 3点、幅は1 径間当たり3箇所、厚さ は型枠設置時におおむね10 m ² に1 箇所 測定。（床版の厚さは、型枠検査をもっ て代える。） 1 径間当たり3 断面（両端及び中央） 測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。 1 径間当たり3 箇所（両端及び中央） 測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全 数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎 に2 mの範囲を測定。		

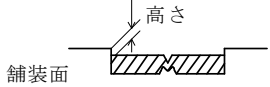
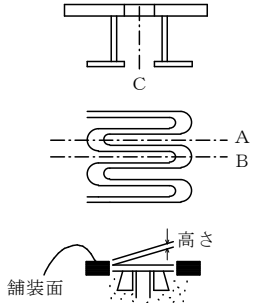
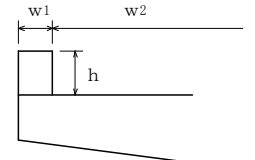
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
							コンクリート橋	鋼橋
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 理 橋 上 部 工	13	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10	
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100
							橋 軸 直 角 方	
						可動支承の橋軸方 向のずれ 同一支 承 線 上 の 相 対誤差	5	
可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量計算 値の 1/2 以上							
2 河 川 編	5 堰	8 鋼 管 理 橋 上 部 工	13	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10	
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)	± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300
							橋 軸 直 角 方	
						可動支承の橋軸方 向のずれ 同一支 承 線 上 の 相 対誤差	5	
可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量計算 値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面、及びゴム支承と台座モルタルと の接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすことを 確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		

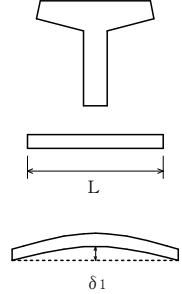
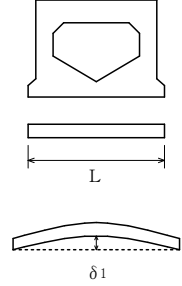
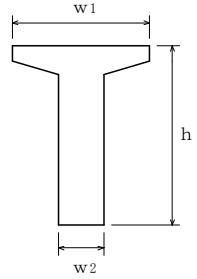
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	5 堰	8 鋼 管 管 理 橋 上 部 工	14	1	橋梁付属物工 (伸縮装置工) ゴムジョイント	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0～-2
						表 面 の 凹 凸	3
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～-2
2 河川 編	5 堰	8 鋼 管 管 理 橋 上 部 工	14	2	橋梁付属物工 (鋼製フィンガージョ イント)	高 さ	据 付 け 高 さ ±3
							車線方向各点誤差 の相対差 3
						表 面 の 凹 凸	3
						歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2
						縦 方 向 間 隔	±2
						横 方 向 間 隔	±5
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～-2
2 河川 編	5 堰	8 鋼 管 管 理 橋 上 部 工	14	3	橋梁付属物工 (地覆工)	地覆の幅 w_1	-10～+20
						地覆の高さ h	-10～+20
						有効幅員 w_2	0～+30
2 河川 編	5 堰	8 鋼 管 管 理 橋 上 部 工	14	4	橋梁付属物工 (橋梁用防護柵工) (橋梁用高欄工)	幅	-5～+10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の3点。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		

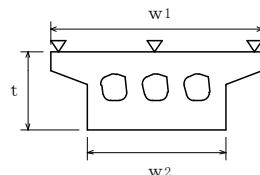
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	2	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁 長 L	$\pm L/1000$
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	2	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L	$\pm 10 \cdots \cdots$ $L \leq 10\text{m}$ $\pm L/1000$ $\cdots L > 10\text{m}$
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	3		ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	$+10$ -5
						幅 (下) w_2	± 5
						高 さ h	$+10$ -5
						桁 長 支 間 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ : 支間長 (m)		

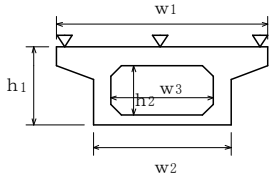
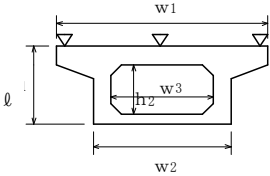
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	4		プレキャストセグメント桁製作工 (購入工)	桁 長 ℓ	—
						断面の外形寸法	—
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	5		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 スパン長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	6		P C ホロースラブ製作工	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	$-10 \sim +20$
						幅 w_1, w_2	$-5 \sim +30$
						桁 長 支 間 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、一般図の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：支間長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1 径間当たり両端と中央部の3箇所。 横方向最大タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：支間長 (m)		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	7		P C箱桁製作工	基 準 高 ∇	± 20
						幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$
						内 空 幅 w_3	± 5
						高 さ h_1	$+10$ -5
						内空高さ h_2	$+10$ -5
						桁 長 スパン長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	7		P C押出し箱桁製作工	幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$
						内 空 幅 w_3	± 5
						高 さ h_1	$+10$ -5
						内空高さ h_2	$+10$ -5
						桁 長 支 間 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	8 9 10		架設工 (コンクリート橋)	全 長 ・ 支 間	—
					(クレーン架設) (架設桁架設)	けたの中心間距離	—
					架設支保工 (固定) (移動)	そ り	—
					架設桁架設 (片持架設) (押出し架設)		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：支間長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：支間長 (m)		
各桁毎に全数測定。		
一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
主桁を全数測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	11		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20
						幅 w	0 ～ +30
						厚 さ t	－10 ～ +20
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋のかぶり	0 ～ +25
						鉄 筋 間 隔	±20
						上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10

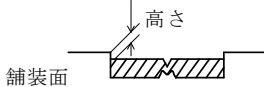
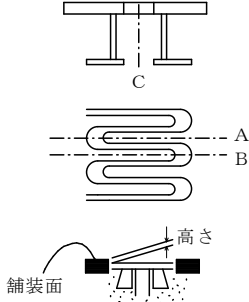
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
							コンクリート橋	鋼橋	
2 河 川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	12	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100	
							橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量 計算値の 1/2 以上							
2 河 川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管 理 橋 上 部 工	12	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300	
							橋軸直角方向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量 計算値の 1/2 以上							

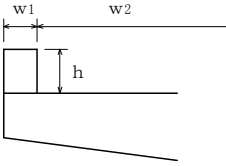
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 4) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 5) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。 注 6) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面、及びゴム支承と台座モルタルと の接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 4) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 5) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすことを 確認する。 注 6) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	13	1	橋梁付属物工 (伸縮装置工) ゴムジョイント	据 付 け 高 さ		舗装面に対し 0～－2
						表 面 の 凹 凸		3
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0～－2
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	13	2	橋梁付属物工 (鋼製フィンガージョイント)	高 さ	据 付 け 高 さ	± 3
							車線方向各点 誤差の相対差	3
						表 面 の 凹 凸		3
						歯型面の歯咬み合い部の 高低差		2
						縦 方 向 間 隙		± 2
						横 方 向 間 隙		± 5
						仕 上 げ 高 さ		舗装面に対し 0～－2

測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 要mm
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の3点		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	13	3	橋梁付属物工 (地覆工)	地覆の幅 w_1	-10～+20
						地覆の高さ h	-10～+20
						有効幅員 w_2	0～+30
2 河川編	5 堰	9 コンクリート管理橋上部工	13	4	橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅	-5～+10

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		

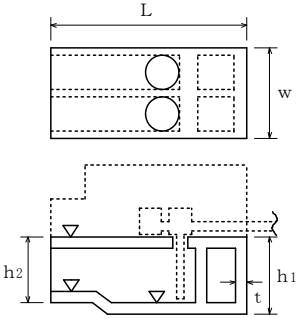
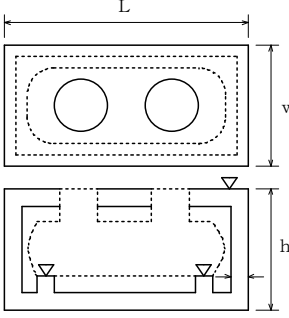
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	5 堰	9 コン クリ ート 管理 橋上 部工	14		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗 膜厚の平均 値は目標塗 膜厚合計値 の 90 % 以 上。 b. 測定値の 最小値は、 目標塗膜厚 合 計 値 の 70%以上。 c. 測定値の 分布の標準 偏差は、目 標塗膜厚合 計値の 20% を 超 え な い。ただし、 測定値の平 均値が目標 塗膜厚合計 値より大き い場合はこ の限りでは ない。
2 河川 編	6 排水 機場	3 機場 本 体 工	3		既製杭工		
2 河川 編	6 排水 機場	3 機場 本 体 工	4		場所打杭工		
2 河川 編	6 排水 機場	3 機場 本 体 工	5		矢板工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、 各点の測定は 5 回行い、その平均値を その点の測定値とする。		
第 1 編 3 - 4 - 4 既製杭工に準ずる。		
第 1 編 3 - 4 - 5 場所打杭工に準ず る。		
第 1 編 3 - 3 - 4 矢板工に準ずる。		

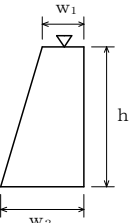
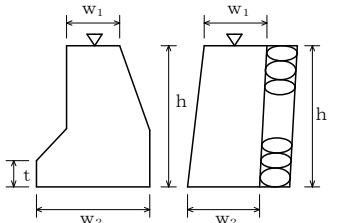
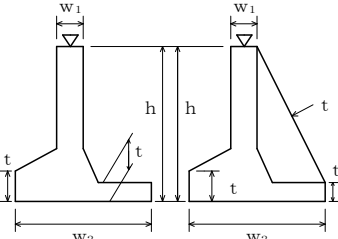
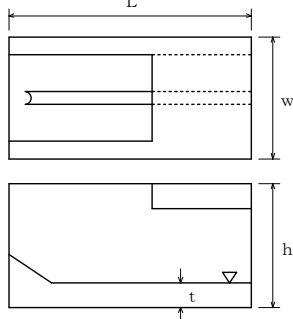
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	6 排水機場	3 機場本 体工	6		本体工	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ t	－20
						幅 w	－30
						高さ h ₁ , h ₂	±30
						延 長 L	－50
2 河川編	6 排水機場	3 機場本 体工	7		燃料貯油槽工	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ t	－20
						幅 w	－30
						高 さ h	±30
						延 長 L	－50
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	3		既製杭工		
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	4		場所打杭工		
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	5		矢板工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の表示箇所にて測定。		
図面の表示箇所にて測定。		
第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
第1編3－3－4矢板工に準ずる。		

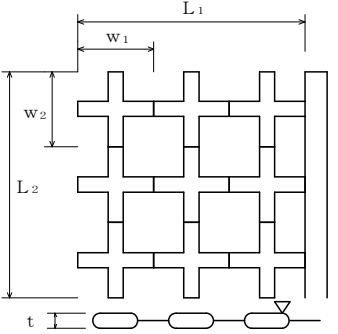
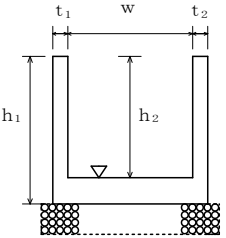
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
2 河 川 編	6 排 水 機 場	4 沈 砂 池 工	6		現場打擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						厚 さ t	－20	
						裏 込 厚 さ	－50	
						幅 w ₁ , w ₂	－30	
						高さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L	－200	
2 河 川 編	6 排 水 機 場	4 沈 砂 池 工	7		コンクリート床版工	基 準 高 ▽	±30	
						厚 さ t	－20	
						幅 w	－30	
						高 さ h	±30	
						延 長 L	－50	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
		
図面の表示箇所で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	8		ブロック床版工	基準 高▽	層 積	±100
							乱 積	± t / 2
						厚 さ t		－20
						幅 w ₁ w ₂	層 積	－20
							乱 積	－ t / 2
						延長 L ₁ L ₂	層 積	－200
							乱 積	－ t / 2
2 河川編	6 排水機場	4 沈砂池工	9		現場打水路工	基 準 高 ▽		±30
						厚さ t ₁ , t ₂		－20
						幅 w		－30
						高さ h ₁ , h ₂		－30
						延 長 L		－200
2 河川編	6 排水機場	5 吐出水槽工	3		既製杭工			
2 河川編	6 排水機場	5 吐出水槽工	4		場所打杭工			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
第 1 編 3－4－4 既製杭工に準ずる。		
第 1 編 3－4－5 場所打杭工に準ずる。		

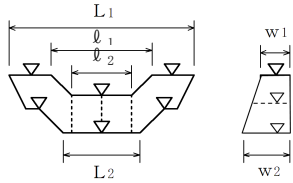
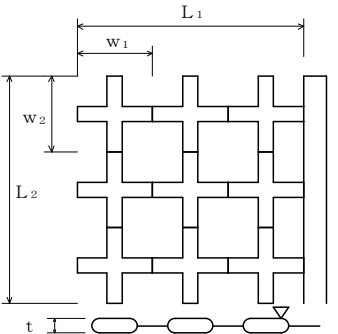
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	6 排水 機場	5 吐出 水槽 工	5		矢板工		
2 河川 編	6 排水 機場	5 吐出 水槽 工	6		本体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高さ h_1, h_2	± 30
						延 長 L	-50
2 河川 編	7 床止 め・ 床固 め	3 床止 め工	4		既製杭工		
2 河川 編	7 床止 め・ 床固 め	3 床止 め工	5		矢板工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第1編3-4-4既製杭工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		

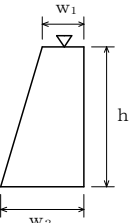
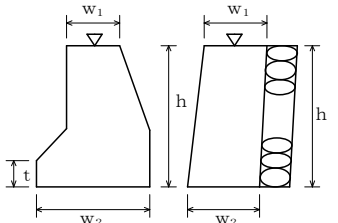
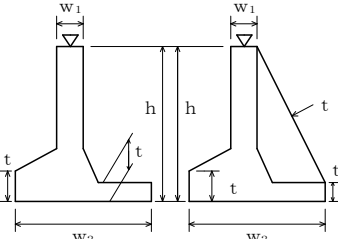
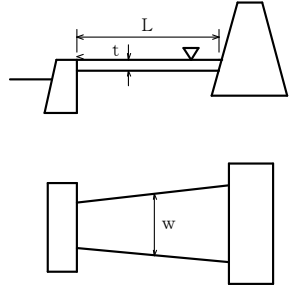
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	7 床止め・床固め	3 床止め工	6	1	本體工 (床固め本體工)	基 準 高 ∇	± 30
						天 端 幅 w_1	-30
						堤 幅 w_2	-30
						堤 長 L_1, L_2	-100
						水通し幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50
2 河川編	7 床止め・床固め	3 床止め工	6	2	本體工 (植石張り)		
2 河川編	7 床止め・床固め	3 床止め工	6	3	本體工 (根固めブロック)	基 準 高 ∇	層 積 ± 100
							乱 積 $\pm t/2$
						厚 さ t	-20
						幅 w_1	層 積 -20
						w_2	乱 積 $-t/2$
						延長 L_1	層 積 -200
						L_2	乱 積 $-t/2$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面に表示してある箇所にて測定。		
第1編3-5-5石積（張）工に準ずる。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		

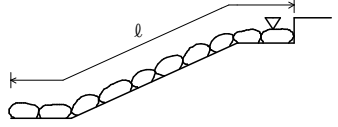
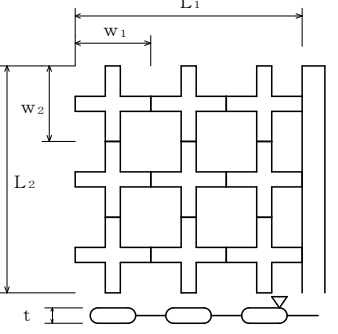
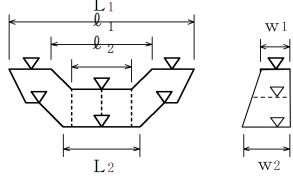
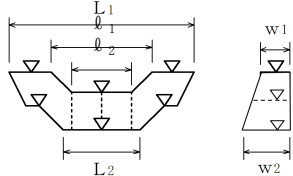
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	3 床 止 め 工	7		現場打擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－20
						裏 込 厚 さ		－50
						幅 w ₁ , w ₂		－30
						高 さ h	h < 3 m	－50
							H ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200
2 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	3 床 止 め 工	8	1	水叩工	基 準 高 ▽		±30
						厚 さ t		－30
						幅 w		－100
						延 長 L		－100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
		
基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		

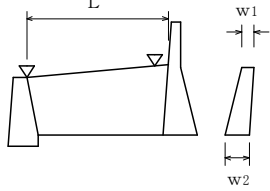
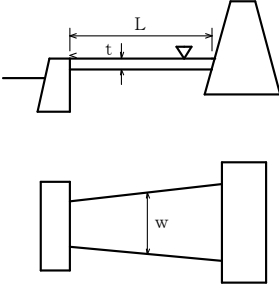
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	3 床 止 め 工	8	2	巨石張り、巨石積み	基 準 高 ∇	± 500
						法 長 ℓ	-200
						延 長 L	-200
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	3 床 止 め 工	8	3	水叩工 (根固めブロック)	基 準 高 ∇	± 100
						乱 積	$\pm t/2$
						厚 さ t	-20
						幅 w_1	層 積 -20
						w_2	乱 積 $-t/2$
						延長 L_1	層 積 -200
						L_2	乱 積 $-t/2$
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 固 め 工	4		本堤工	基 準 高 ∇	± 30
						天 端 幅 w_1	-30
						堤 幅 w_2	-30
						堤 長 L_1, L_2	-100
						水通し幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 固 め 工	5		垂直壁工	基 準 高 ∇	± 30
						天 端 幅 w_1	-30
						堤 幅 w_2	-30
						堤 長 L_1, L_2	-100
						水通し幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		1 施工箇所毎
図面に表示してある箇所で測定。		
図面に表示してある箇所で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	7 床止め・床固め	4 床固め工	6		側壁工	基 準 高 ∇	± 30
						天 端 幅 w_1	-30
						堤 幅 w_2	-30
						長 さ L	-100
2 河川編	7 床止め・床固め	4 床固め工	7		水叩工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-30
						幅 w	-100
						延 長 L	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。厚さは目地及びその中間点で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 山 留 擁 壁 工	3		コンクリート擁壁工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－20
						裏 込 厚 さ		－50
						幅 w ₁ , w ₂		－30
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200
2 河 川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 山 留 擁 壁 工	4		ブロック積み擁壁工			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
第1編3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 山 留 擁 壁 工	5		石積み擁壁工		
2 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 山 留 擁 壁 工	6		山留擁壁基礎工		
2 河川 編	8 河川 維 持	7 管 理 用 通 路 補 修 工	3		天端補修工		
2 河川 編	8 河川 維 持	7 管 理 用 通 路 補 修 工	4		コンクリート舗装補修工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-5-5 石積（張）工に準ずる。		
第1編3-4-3 法留基礎工に準ずる。		
第1編4-3-6 天端敷砂利工に準ずる。		
第1編3-6-12 コンクリート舗装工に準ずる。		

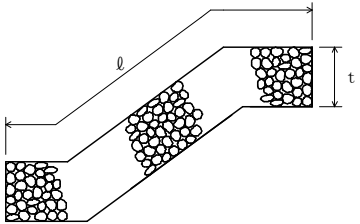
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川 編	8 河川 維持	7 管理 用通 路補 修工	5		アスファルト舗装補修工		
2 河川 編	8 河川 維持	7 管理 用通 路補 修工	6		付属物復旧工		
2 河川 編	8 河川 維持	9 植栽 維持 工	3		樹木・芝生管理工		
2 河川 編	9 河川 修繕	3 腹付 工	2		覆土工		
2 河川 編	9 河川 修繕	3 腹付 工	3		植生工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-6-7アスファルト舗装工に準ずる。		
第1編3-3-8路側防護柵工に準ずる。		
第1編3-14-2植生工に準ずる。		
第1編4-3-5整形仕上げ工に準ずる。		
第1編3-14-2植生工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
2 河川編	9 河川修繕	4 側帯工	2	1	縁切工 (じゃかご工)	法 長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚 さ t		-50
2 河川編	9 河川修繕	4 側帯工	2	2	縁切工 (連節ブロック張り)			
2 河川編	9 河川修繕	4 側帯工	2	3	縁切工 (コンクリートブロック張り)			
2 河川編	9 河川修繕	4 側帯工	2	4	縁切工 (石張り)			

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		
第 1 編 3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		
第 1 編 3-5-5 石積（張）工に準ずる。		

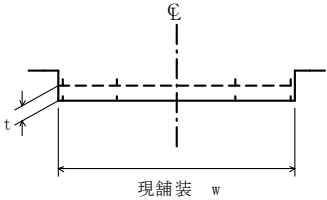
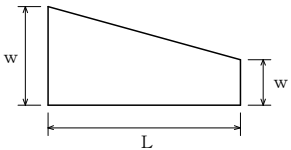
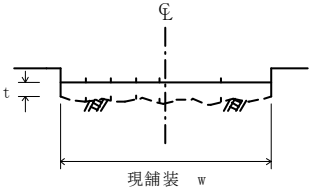
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河川編	9 河川修繕	4 側帯工	3		植生工		
2 河川編	9 河川修繕	5 堤脚保護工	3		石積み工		
2 河川編	9 河川修繕	5 堤脚保護工	4		コンクリートブロック工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-14-2 植生工に準ずる。		
第1編3-5-5 石積（張）工に準ずる。		
第1編3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		

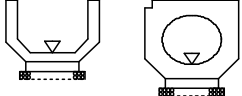
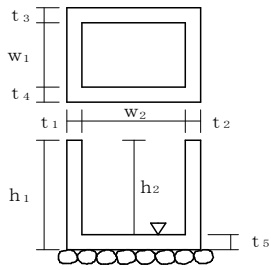
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ($\bar{X}_{10}$)
2 河川編	9 河川修繕	6 管理用通路修繕工	2		路面切削工	厚 さ t	－7	－2
						幅 w	－25	—
2 河川編	9 河川修繕	6 管理用通路修繕工	3		舗装打換え工	路盤工	幅 w	－50
							延長 L	－100
							厚さ t	該当工種
						舗設工	幅 w	－25
							延長 L	－100
							厚さ t	該当工種
2 河川編	9 河川修繕	6 管理用通路修繕工	4		オーバーレイ工	厚 さ t	－9	
						幅 w	－25	
						延 長 L	－100	
						平 坦 性	—	3mプロファイルメーター (σ) 2.4mm 以下直読式 (足付き)
								(σ) 1.75mm 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは 40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎 1 箇所／1 施工箇所		
厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、延長 80m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	6 管 理 用 通 路 修 繕 工	5	1	排水構造物修繕工 (プレキャストU型側 溝・管(函)渠)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	6 管 理 用 通 路 修 繕 工	5	2	排水構造物修繕工 (集水柵工)	基 準 高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20
						※幅 w_1, w_5	－30
						※高さ h_1, h_5	－30
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	6 管 理 用 通 路 修 繕 工	6		防護柵修繕工 (ガードレール) (ガードパイプ)		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長(測点間隔25mの場合は50m) につき1箇所、延長40m(又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇 所。 1箇所／1施工箇所		
1箇所毎 ※は現場打ち部分のある場合		
第1編3-3-8路側防護柵工に準ず る。		

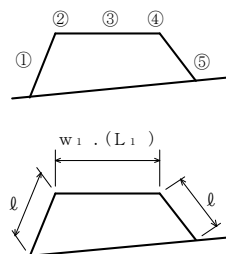
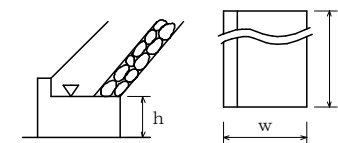
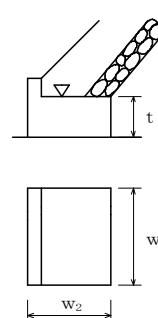
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	6 管 理 用 通 路 修 繕 工	7		道路付属施設修繕工 (歩車道境界ブロック)		
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	7 現 場 塗 装 工	3		現場物塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗 膜厚平均値 は、目標塗膜 厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最 小値は、目標 塗膜厚合計 値の 70%以 上。 c. 測定値の分 布の標準偏 差は、目標塗 膜厚合計値 の 20%を超 えない。ただ し、測定値の 平均値が目 標塗膜厚合 計値より大 きい場合は この限りで はない。
2 河 川 編	9 河 川 修 繕	7 現 場 塗 装 工	4		コンクリート面塗装工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-5 縁石工に準ずる。		
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、 各点の測定は 5 回行い、その平均値を その点の測定値とする。		
第1編3-3-11 コンクリート面塗装 工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	3		捨石工	基 準 高 ▽	±50
						幅 w	±100
						高 さ h	±500
						延 長 L	±300
						法 長 ℓ	±500
						天 端 幅 w_1	±300
						天 端 延 長 L_1	±500
						天 端 延 長 L_1	±300
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	4		場所打コンクリート工	基 準 高 ▽	±30
						幅 w	±30
						高 さ h	±30
						延 長 L	±200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	5		海岸コンクリートブロック工	基 準 高 ▽	±50
						ブロック厚 t	±20
						ブロック縦幅 w_1	±20
						ブロック横幅 w_2	±20
						延 長 L	±200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
ブロック個数 40 個につき 1 箇所の割で測定。基準高、延長は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

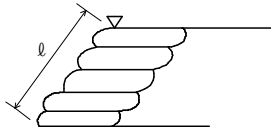
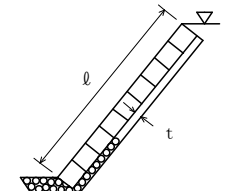
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	6	1	笠コンクリート工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	6	2	笠コンクリート工 (プレキャスト笠コン クリート)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	7	1	法留基礎工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	7	2	法留基礎工 (プレキャスト法留基 礎工)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	3 護 岸 基 礎 工	8		矢板工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-4-3法留基礎工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	4 護 岸 工	3		捨石張り工	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≧ 3 m	－100
						延 長 L		－200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	4 護 岸 工	4		石張り・石積み工			
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	4 護 岸 工	5		海岸コンクリートブロック工	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ	ℓ < 5 m	－100
							ℓ ≧ 5 m	ℓ × (－2%)
						厚 さ t		－50
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3－5－5 石積（張）工に準ずる。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	4 護 岸 工	6		コンクリート被覆工	基 準 高 ▽	±50	
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚 さ t	t < 100	－20
							t ≥ 100	－30
						裏 込 材 厚 t'	－50	
						延 長 L	－200	
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	4 護 岸 工	7		現場打擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						厚 さ t	－20	
						裏 込 厚 さ	－50	
						幅 w ₁ , w ₂	－30	
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≥ 3 m	－100
						延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		

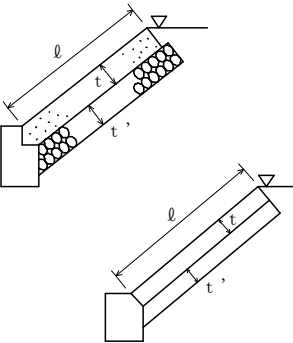
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防・ 護 岸	5 天 端 被 覆 工	2		コンクリート被覆工	基 準 高 ∇	± 50
						幅 w	-50
						厚 さ t	-10
						基 礎 厚 t'	-45
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防・ 護 岸	5 天 端 被 覆 工	3		アスファルト被覆工	基 準 高 ∇	± 50
						幅 w	-50
						厚 さ t	-9
						基 礎 厚 t'	-45
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防・ 護 岸	6 波 返 工	3		波返工	基 準 高 ∇	± 50
						幅 w_1, w_2	-30
						高さ $h < 3\text{m}$ h_1, h_2, h_3	-50
						高さ $h \geq 3\text{m}$ h_1, h_2, h_3	-100
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防・ 護 岸	7 裏 法 被 覆 工	2		石張り・石積み工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さはコアー1000 m ² に 1 箇所		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3－5－5 石積（張）工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	7 裏 法 被 覆 工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロッ ク張り) (コンクリートブロッ ク積み)			
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	7 裏 法 被 覆 工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)			
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	7 裏 法 被 覆 工	4		コンクリート被覆工	基 準 高 ▽	±50	
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚 さ t	t < 100	－20
							t ≥ 100	－30
						裏 込 材 厚 t'		－50
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-5-3コンクリートブロック工に準ずる。		
第1編3-5-3コンクリートブロック工に準ずる。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	7 裏 法 被 覆 工	5		アスファルト被覆工	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≥ 3 m	－100
						厚 さ t	t < 100	－20
							t ≥ 100	－30
						裏 込 材 厚 t'		－50
						延 長 L		－200
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	7 裏 法 被 覆 工	6		法 枠 工 (現場打法枠工) (プレキャスト法枠工) (現場吹付法枠工)			
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	2	1	側溝工 (プレキャストU型側溝)	基 準 高 ▽		±30
						延 長 L		－200
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	2	2	側溝工 (自由勾配側溝)	基 準 高 ▽		±30
						延 長 L		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3-14-4 法枠工に準ずる。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

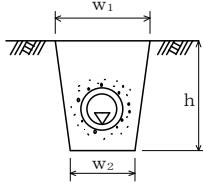
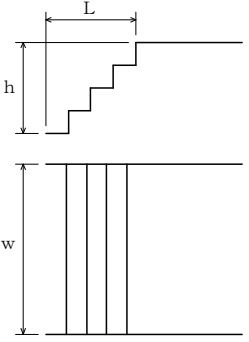
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	3		集水桝工	基 準 高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20
						※幅 w_1, w_2	－30
						※高さ h_1, h_2	－30
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	5		堤脚水路工	基 準 高 ▽	±30
						厚さ t_1, t_2	－20
						幅 w	－30
						高さ h_1, h_2	－30
						延 長 L	－200
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	6	1	暗渠工 (プレキャストパイプ) (プレキャストボック ス)	基 準 高 ▽	±30
						※幅 w	－50
						※高 さ h	－30
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は現場打部分のある場合		
1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	8 水 路 工	6	2	暗渠工 (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-50
						高 さ h	-30
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	9 付 属 物 設 置 工	4		階段工	幅 w	-30
						高 さ h	-30
						長 さ L	-30
						段 数	± 0 段
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	9 付 属 物 設 置 工	5		防止柵工		
3 海 岸 編	1 堤 防・護 岸	10 付 帯 道 路 工	3	1	アスファルト舗装工 (下層路盤)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
1 回 / 1 施工箇所		
第 1 編 3-3-7 防止柵工に準ずる。		
第 1 編 3-6-7-1 下層路盤工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	3	2	アスファルト舗装工 (上層路盤)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	3	3	アスファルト舗装工 (基層)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	3	4	アスファルト舗装工 (表層)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-6-7-2上層路盤工に準ずる。		
第1編3-6-7-5基層工に準ずる。		
第1編3-6-7-6表層工に準ずる。		

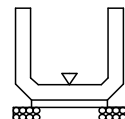
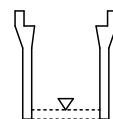
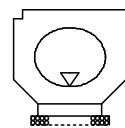
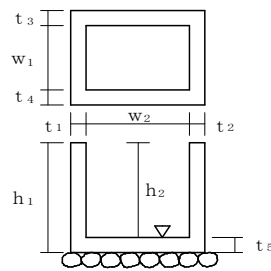
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	4	1	コンクリート舗装工 (下層路盤)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	4	2	コンクリート舗装工 (上層路盤)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	4	3	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装)		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	5		薄層カラー舗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-6-7-1 下層路盤工に準ずる。		
第1編3-6-7-2 粒度調整路盤工に準ずる。		
第1編3-6-7-5 コンクリート舗装版工に準ずる。		
第1編3-6-13 薄層カラー舗装工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	6	1	側溝工 (プレキャストU型側溝)	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	6	2	側溝工 (L型側溝)	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	6	3	側溝工 (自由勾配側溝)	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	6	4	側溝工 (管渠)	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	7		集水枳工	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		

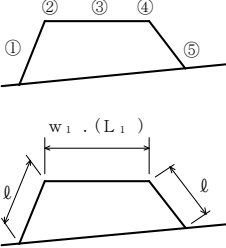
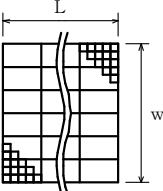
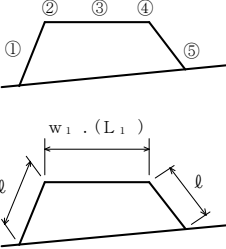
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	8		縁石工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	9		小型標識工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	10		路側防護柵工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	11		区画線工		
3 海 岸 編	1 堤 防 ・ 護 岸	10 付 帯 道 路 工	13		道路付属物工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-5縁石工に準ずる。		
第1編3-3-6小型標識工に準ずる。		
第1編3-3-8路側防護柵工に準ずる。		
第1編3-3-9区画線工に準ずる。		
第1編3-3-10道路付属物工に準ずる。		

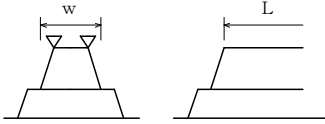
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	3 突 堤 基 礎 工	4		捨石工	基 準 高 ▽	本 均 し	±50	
							表 面 均 し		±100
							荒 均 し	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500
								異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300
							被 覆 均 し	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500
								異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300
						法 長 ℓ		－100	
						天 端 幅 w ₁		－100	
天 端 延 長 L ₁		－200							
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	3 突 堤 基 礎 工	5		吸出し防止工	幅 w		－300	
						延 長 L		－500	
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	2		捨石工	基 準 高 ▽	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500	
							異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300	
						法 長 ℓ		－100	
						天 端 幅 w ₁		－100	
						天 端 延 長 L ₁		－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		

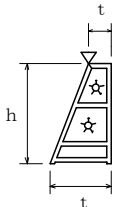
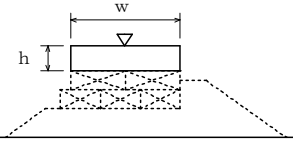
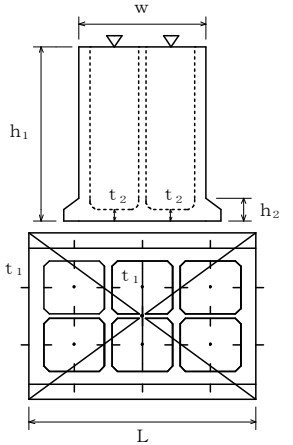
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	2 突 堤・人工岬	4 突堤本 体 工	3		海岸コンクリートブ ロック工	基準 高 ▽ (層積)ブロック 規格 26 t 未満	±300
						(層積)ブロック 規格 26 t 以上	±500
						(乱 積)	±ブロックの 高さの 1 / 2
						天 端 幅 w	ーブロックの 高さの 1 / 2
						天 端 延 長 L	ーブロックの 高さの 1 / 2
3 海 岸 編	2 突 堤・人工岬	4 突堤本 体 工	4		既製杭工		
3 海 岸 編	2 突 堤・人工岬	4 突堤本 体 工	5		詰杭工 (既製コンクリート杭)		
3 海 岸 編	2 突 堤・人工岬	4 突堤本 体 工	6		矢板工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。延長は、センターラインで行う。		
第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
第 1 編 3-4-4 既製杭工に準ずる。		
第 1 編 3-3-4 矢板工に準ずる。		

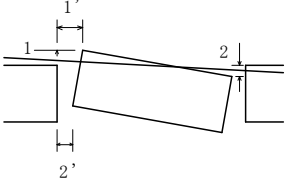
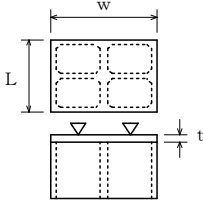
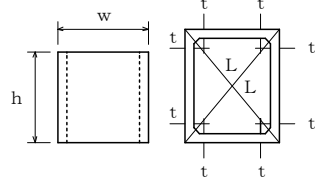
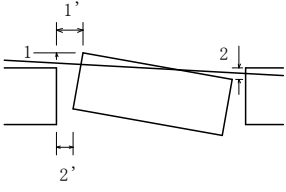
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	7		石 碎 工	基 準 高 ▽		±50
						厚 さ t		－50
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≥ 3 m	－100
						延 長 L		－200
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	8		場 所 打 コ ン ク リ ー ト 工	基 準 高 ▽		±30
						幅 w		－30
						高 さ h		－30
						延 長 L		－200
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	9	1	ケーソン工 （ケーソン工製作）	バ ラ ス ト の 基 準 高 ▽	砕 石 、 砂	±100
							コンクリート	±50
						壁 厚 t ₁		±10
						幅 w		+30, －10
						高 さ h ₁		+30, －10
						長 さ L		+30, －10
						底版厚さ t ₂		+30, －10
						フーチング高さ h ₂		+30, －10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
各室中央部 1 箇所		
底版完成時、各壁 1 箇所		
各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
完成時、四隅		
各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
底版完成時、各室中央部 1 箇所		
底版完成時、四隅		

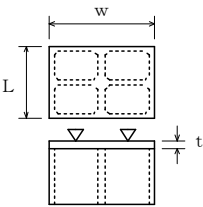
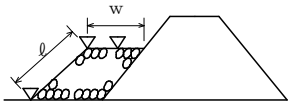
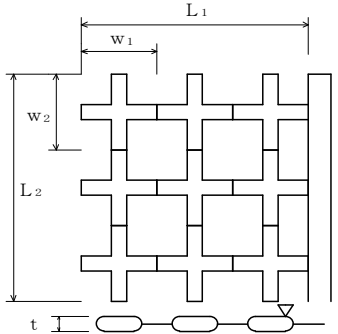
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	9	2	ケーソン工 (ケーソン工据付)	法線に対する出入 1、2	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100
							ケーソン重量 2000 t 以上 ±150
						据付目地間隔 1'、2'	ケーソン重量 2000 t 未満 100 以下
							ケーソン重量 2000 t 以上 200 以下
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	9	3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基 準 高 度	陸 上 ±30
							水 中 ±50
						厚 さ t	±30
						幅 w	±30
						長 さ L	±30
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	10	1	セルラー工 (セルラー工製作)	壁 厚 t	±10
						幅 w	+20, -10
						高 さ h	+20, -10
						長 さ L	+20, -10
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	10	2	セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する 出入 1、2	±50
						隣接ブロックと の間隔 1'、2'	50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
据付完了後、両端 2 箇所		
据付完了後、天端 2 箇所		
1 室につき 1 箇所（中心）		
型枠取外し後全数		
据付後ブロック 1 個に 2 箇所（各段毎）		

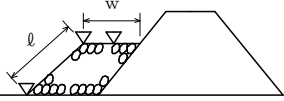
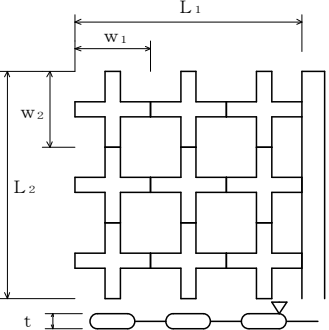
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	4 突 堤 本 体 工	10	3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基 準 高 ▽	陸 上	±30
							水 中	±50
						厚 さ t		±30
						幅 w		±30
						長 さ L		±30
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	5 根 固 め 工	3		捨石工	基 準 高 ▽	異形ブロック据付面 (乱積) の高さ	±500
							異形ブロック据付面 (乱積) 以外の高さ	±300
						法 長 ℓ		－100
						天 端 幅 w		－100
						天 端 延 長 L		－200
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	5 根 固 め 工	4		根固めブロック工	基 準 高 ▽	層 積	±300
							乱 積	± t / 2
						厚 さ t		－20
						幅 w ₁ w ₂	層 積	－20
							乱 積	－ t / 2
						延 長 L ₁ L ₂	層 積	－200
							乱 積	－ t / 2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 室につき 1 箇所（中心）		
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		
1 施工箇所毎		

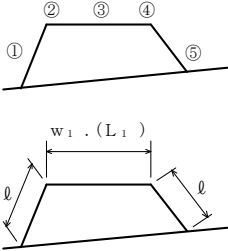
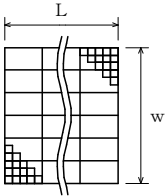
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	6 消 波 工	2		捨石工	基 準 高 ▽	異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300
						法 長 ℓ		－100
						天 端 幅 w		－100
						天 端 延 長 L		－200
3 海 岸 編	2 突 堤 ・ 人 工 岬	6 消 波 工	3		消波ブロック工	基 準 高 ▽	層 積	±300
							乱 積	± $t / 2$
						厚 さ t		－20
						幅 w_1, w_2		－20
						延長 L_1, L_2		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。 幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所。延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 幅、厚さは 40 個につき 1 箇所測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海 域 堤 基 礎 工	3		捨石工	基 準 高 ▽	本 均 し		±50	
							荒 均 し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ		±500
								異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ		±300
							被 覆 均 し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ		±500
								異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ		±300
						法 長 ℓ		－100		
						天 端 幅 w_1		－100		
						天 端 延 長 L_1		－200		
						3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	3 海 域 堤 基 礎 工	4	
延 長 L		－500								

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		

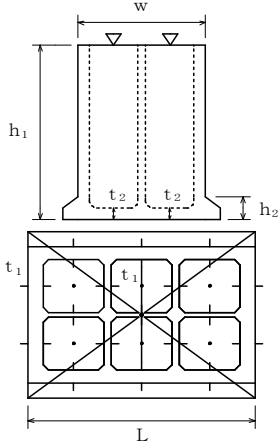
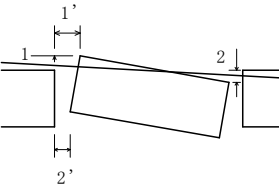
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	2		捨石工	本均し (方塊ブロックの下面)	±50
						表 面 均 し	±100
						荒均① ブロックを 上載する面 (層積)	±300
						荒均① ブロックを 上載する面 (乱積)	±500
						荒均② ブロック被 覆均しの乗らない面	±300
						荒均③ 被覆石の下面	上面被覆均し の精度に合わ せる
						荒均④ 被覆ブロック下面	±300
						被覆均①	荒均①に同じ
						被覆均②	荒均②に同じ
						法 長 1	－100
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	3		海岸コンクリートブ ロック工	天 端 幅 w_1	－100
						天 端 延 長 L_1	－200
						基準 高 ▽	
						層積ブロック 規格 26 t 未満	±300
						層積ブロック 規格 26 t 以上	±500
						乱 積	±ブロックの 高さの 1 / 2
						天 端 幅 w	－ブロックの 高さの 1 / 2
						天 端 延 長 L	－ブロックの 高さの 1 / 2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。		
幅は施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。延長は、センターラインで行う。		

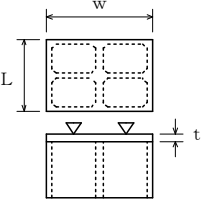
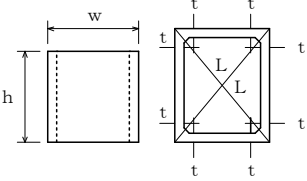
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	4	1	ケーソン工 （ケーソン工製作）	バ ラ ス ト の 基 準 高 ▽	砕石、砂 ±100
							コンクリート ±50
						壁 厚 t_1	±10
						幅 w	+30, -10
						高 さ h_1	+30, -10
						長 さ L	+30, -10
						底 版 厚 さ t_2	+30, -10
						フーチング高さ h_2	+30, -10
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	4	2	ケーソン工 （ケーソン工据付）	法線に対する 出入 1、2	ケーソン重量 2000 t 未満 ±100
							ケーソン重量 2000 t 以上 ±150
						据付目地間隔 1'、2'	ケーソン重量 2000 t 未満 100 以下
							ケーソン重量 2000 t 以上 200 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各室中央部 1 箇所		
底版完成時、各壁 1 箇所		
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
完成時、四隅		
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
底版完成時、各室中央部 1 箇所		
底版完成時、四隅		
据付完了後、両端 2 箇所		
据付完了後、天端 2 箇所		

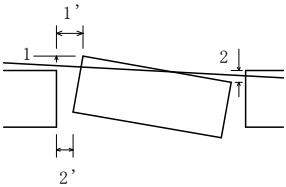
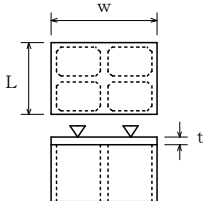
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	4	3	ケーソン工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基準 高▽	陸 上	±30
							水 中	±50
						厚 さ t		±30
						幅 w		±30
						長 さ L		±30
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防（人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	5	1	セルラー工 (セルラー工製作)	壁 厚 t		±10
						幅 w		+20, -10
						高 さ h		+20, -10
						長 さ L		+20, -10

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1室につき1箇所（中心）		
型枠取外し後全数		

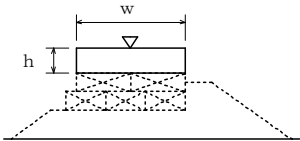
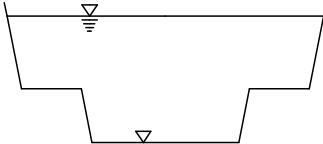
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防 (人工リーフ、 離岸堤、 潜堤)	4 海 域 堤 本 体 工	5	2	セルラー工 (セルラー工据付)	法線に対する 出入 1、2		±50
						隣接ブロックとの 間隔 1'、2'		50 以下
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防 (人工リーフ、 離岸堤、 潜堤)	4 海 域 堤 本 体 工	5	3	セルラー工 (突堤上部工) 場所打コンクリート 海岸コンクリートブ ロック	基 準 高 ▽	陸 上	±30
							水 中	±50
						厚 さ t		±30
						幅 w		±30
						長 さ L		±30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
据付後ブロック 1 個に 2 箇所 (各段毎)		
1 室につき 1 箇所 (中心)		

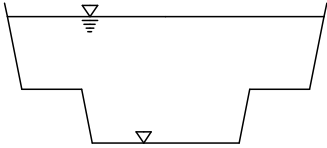
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目			規 格 値	
3 海 岸 編	3 海 域 堤 防 （人工リーフ、離岸堤、潜堤）	4 海 域 堤 本 体 工	6		場所打コンクリート工	基 準 高 ▽			±30	
						幅 w			－30	
						高 さ h			－30	
						延 長 L			－200	
3 海 岸 編	4 浚 渫 （海）	2 浚 渫 工 （ポンプ浚渫船）	2		浚渫船運転工				上限	下限
						基 準 高 ▽	電 気 船	200ps	+200	－ 800
								500ps	+200	－1000
								1000ps	+200	－1200
							デ ィ ー ゼ ル 船	250ps	+200	－ 800
								420ps 600ps	+200	－1000
								1350ps	+200	－1200
						幅			－200	
						延 長			－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 海 岸 編	4 浚 渫 (海)	3 浚 渫 工 (グ ラ ブ 船)	2		浚渫船運転工	基 準 高 ▽	上限 +200
						幅	−200
						延 長	−200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m 毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。		

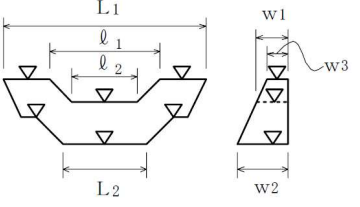
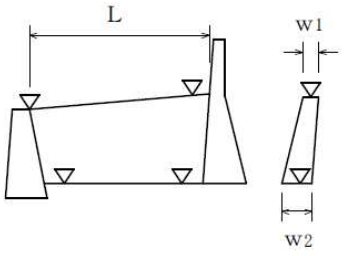
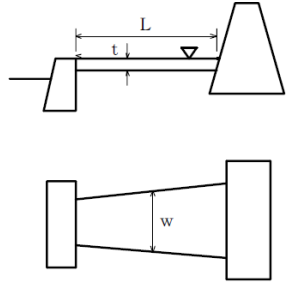
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	3 工 場 製 作 工	3		鋼製えん堤製作工		
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	3 工 場 製 作 工	4		鋼製えん堤仮設材製作工	部 材 部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \dots\dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots\dots$ $\ell > 10$
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	3 工 場 製 作 工	5		工場塗装工		
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	6 法 面 工	2		植生工		
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	6 法 面 工	3		法面吹付工		
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	6 法 面 工	4		法枠工		
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	6 法 面 工	6		アンカー工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-12-3-3桁製作工（鋼製えん堤製作工（仮組立時））に準ずる。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第1編3-12-11 工場塗装工に準ずる。		
第1編3-14-2 植生工に準ずる。		
第1編3-14-3 法面吹付工に準ずる。		
第1編3-14-4 法枠工に準ずる。		
第1編3-14-6 アンカー工に準ずる。		

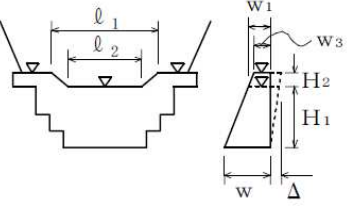
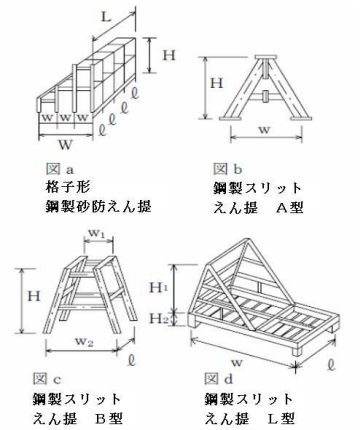
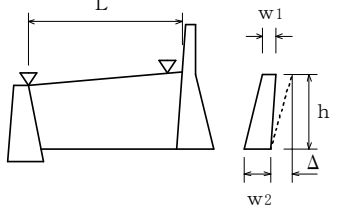
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4	砂防編	1 砂防えん堤	7 仮締切工	2	土砂・土のう締切工		
4	砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤本体工 コンクリート副えん堤工	4 5	コンクリートえん堤本体工 コンクリート副えん堤工	基 準 高 ∇ 天端部 堤 幅 w_1, w_3 水通しの幅 $\ell_1 \ell_2$ 堤 長 L_1, L_2	± 30 -30 ± 50 -100
4	砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	6	コンクリート側壁工	基 準 高 ∇ 幅 w_1, w_2 長 さ L	± 30 -30 -100
4	砂防編	1 砂防えん堤	8 コンクリートえん堤工	8	水叩工	基 準 高 ∇ 幅 w 厚 さ t 延 長 L	± 30 -100 -30 -100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-10-5-4, 5土留・仮締切工（締切盛土）,（中詰盛土）に準ずる。		
図面の表示箇所で測定。		
1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。		
基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鋼 製 え ん 堤 工	5	1	鋼製えん堤本体工 (不透過型)	水 通 し 部	堤 高 ▽	±50
							長 さ ℓ	±100
							幅 w ₁ , w ₃	±50
							下流側倒れ △	±0.02H ₁
						袖 部	袖 高 ▽	±50
							幅 w ₂	±50
							下流側倒れ △	±0.02H ₂
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鋼 製 え ん 堤 工	5	2	鋼製えん堤本体工 (透過型)	堤長 L (m) 格		±50
						堤長 ℓ (m) 格・B・L		±10
						堤幅W (m) 格		±30
						堤幅w (m) 格・B・L		±10
						堤幅w (m) A		± 5
						高さH (m) 格・B・L		±10
						高さH (m) A		± 5
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鋼 製 え ん 堤 工	6		鋼製側壁工	堤 高 ▽		±50
						長 さ L		±100
						幅 w ₁ , w ₂		±50
						下流側倒れ △		±0.02 h
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≥ 3 m	－100
4 砂 防 編	1 砂 防 え ん 堤	9 鋼 製 え ん 堤 工	7		コンクリート側壁工			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
(備考) 測定項目の格, A, B, Lは、 格：格子形鋼製砂防えん堤 A：鋼製スリットえん堤 A型 B：鋼製スリットえん堤 B型 L：鋼製スリットえん堤 L型 を表している。		
1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
第4編1-8-6 コンクリート側壁工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	9		水叩工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	9 鋼製えん堤工	10		現場塗装工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	10 護床工・根固め工	4		根固めブロック工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	10 護床工・根固め工	6		沈床工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	10 護床工・根固め工	7	1	かご工 (じゃかご工)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第4編1-8-8水叩工に準ずる。		
第1編3-3-31 現場塗装工に準ずる。		
第1編3-3-17 根固めブロック工に準ずる。		
第1編3-3-18 沈床工に準ずる。		
第1編3-3-27-1 羽口工（じゃかご）に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	1 砂防えん堤	10 護床工・根固め工	7	2	かご工 (ふとんかご工)		
4 砂防編	1 砂防えん堤	11 砂防えん堤付属物設置工	3		防止柵工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	3		路側防護柵工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	5		アスファルト舗装工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	6		コンクリート舗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-27-2羽口工（ふとんかご）に準ずる。		
第1編3-3-7防止柵工に準ずる。		
第1編3-3-8路側防護柵工に準ずる。		
第1編3-6-7アスファルト舗装工に準ずる。		
第1編3-6-12コンクリート舗装工に準ずる。		

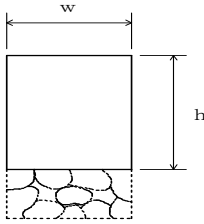
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	7		薄層カラー舗装工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	8		側溝工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	9		集水枿工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	10		縁石工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	12 付帯道路工	11		区画線工		
4 砂防編	1 砂防えん堤	13 付帯道路施設工	3		道路付属物工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-6-13 薄層カラー舗装工に準ずる。		
第1編3-3-29 側溝工に準ずる。		
第1編3-3-30 集水枿工に準ずる。		
第1編3-3-5 縁石工に準ずる。		
第1編3-3-9 区画線工に準ずる。		
第1編3-3-10 道路付属物工に準ずる。		

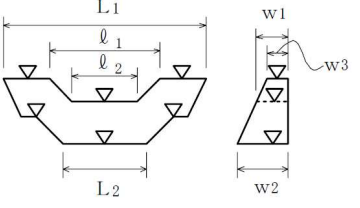
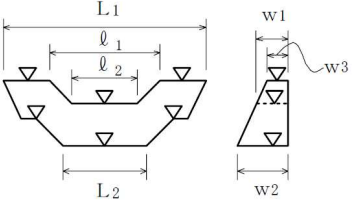
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	1 砂防えん堤	13 付帯道路施設工	4		小型標識工		
4 砂防編	2 溪流保全工	4 溪流保全護岸工	5		コンクリート擁壁工 (現場打擁壁工)		
4 砂防編	2 溪流保全工	4 溪流保全護岸工	6		ブロック積み擁壁工		
4 砂防編	2 溪流保全工	4 溪流保全護岸工	7		石積み擁壁工		
4 砂防編	2 溪流保全工	4 溪流保全護岸工	8		護岸附属物工	幅 w	－30
						高 さ h	－30

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－3－6 小型標識工に準ずる。		
第1編3－15－1 現場打擁壁工に準ずる。		
第1編3－5－3 コンクリートブロック工に準ずる。		
第1編3－5－5 石積（張）工に準ずる。		
各格子間の中央部1箇所を測定。		

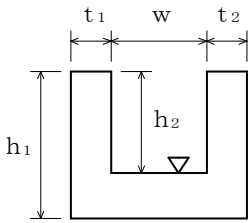
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	2 溪流保全工	4 溪流保全護岸工	9		植生工		
4 砂防編	2 溪流保全工	5 床固め工	4		床固め本体工	基 準 高 ∇	± 30
						天端部 w_1, w_3 堤 幅 w_2	-30
						水通しの幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50
						堤 長 L_1, L_2	-100
4 砂防編	2 溪流保全工	5 床固め工	5		垂直壁工	基 準 高 ∇	± 30
						天端部 w_1, w_3 堤 幅 w_2	-30
						水通しの幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50
						堤 長 L_1, L_2	-100
4 砂防編	2 溪流保全工	5 床固め工	6		側壁工		
4 砂防編	2 溪流保全工	5 床固め工	7		水叩工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-14-2植生工に準ずる。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第4編1-8-6コンクリート側壁工に準ずる。		
第4編1-8-8水叩工に準ずる。		

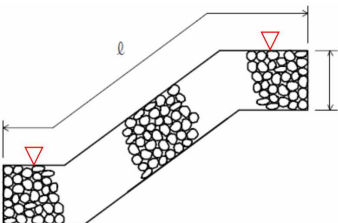
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂 防 編	2 溪 流 保 全 工	5 床 固 め 工	8		魚道工	基 準 高 ▽	±30
						幅 w	－30
						高 さ h_1, h_2	－30
						厚 さ t_1, t_2	－20
						延 長 L	－200
4 砂 防 編	2 溪 流 保 全 工	6 根 固 め ・ 水 制 工	4		根固めブロック工		
4 砂 防 編	2 溪 流 保 全 工	6 根 固 め ・ 水 制 工	6		捨石工		
4 砂 防 編	2 溪 流 保 全 工	6 根 固 め ・ 水 制 工	7	1	かご工 (じゃかご工)		
4 砂 防 編	2 溪 流 保 全 工	6 根 固 め ・ 水 制 工	7	2	かご工 (ふとんかご工)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 4 編 1－10－4 根固めブロック工に準ずる。		
第 1 編 3－3－19 捨石工に準ずる。		
第 1 編 3－3－27－1 羽口工（じゃかご）に準ずる。		
第 1 編 3－3－27－2 羽口工（ふとんかご）に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	2 溪流保全工	6 根固め・水制工	7	3	かご工 (かごマット工)		
4 砂防編	2 溪流保全工	7 溪流保全付属物設置工	2		階段工		
4 砂防編	2 溪流保全工	7 溪流保全付属物設置工	3		防止柵工		
4 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	2		植生工		
4 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	3		吹付工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-26-2多自然型護岸工(かごマット)に準ずる。ただし、基準高の規格値は、-100 mmとし、測定位置は、測定箇所のおりとする。		
第1編3-3-22階段工に準ずる。		
第1編3-3-7防止柵工に準ずる。		
第1編3-14-2植生工に準ずる。		
第1編3-14-3吹付工に準ずる。		

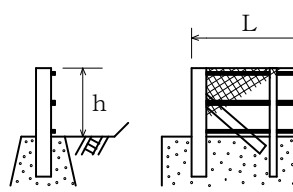
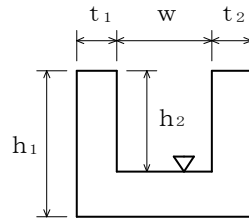
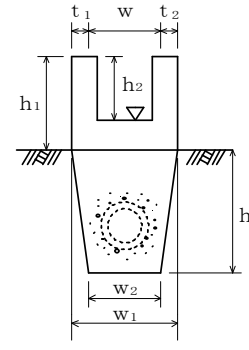
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	4		法枠工		
4 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	5	1	かご工 (じゃかご工)		
4 砂防編	3 斜面対策	4 法面工	5	2	かご工 (ふとんかご工)		
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	3		既製杭工		
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	4		現場打擁壁工		
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	5		プレキャスト擁壁工		
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	6		補強土擁壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-14-4法枠工に準ずる。		
第1編3-3-27-1羽口工(じゃかご)に準ずる。		
第1編3-3-27-2羽口工(ふとんかご)に準ずる。		
第1編3-4-4既製杭工に準ずる。		
第1編3-15-1現場打擁壁工に準ずる。		
第1編3-15-2プレキャスト擁壁工に準ずる。		
第1編3-15-3補強土壁工に準ずる。		

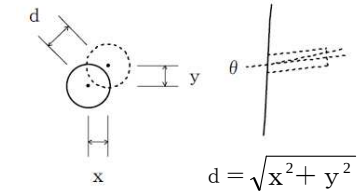
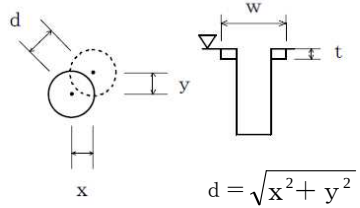
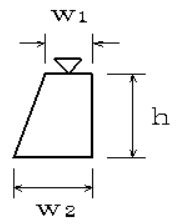
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	7		井桁ブロック工		
4 砂防編	3 斜面対策	5 擁壁工	8		落石防護工	高 さ h	±30
						延 長 L	－200
4 砂防編	3 斜面対策	6 山腹水路工	3		山腹集水路・排水路工	基 準 高 ▽	±30
						厚さ t ₁ , t ₂	－20
						幅 w	－30
						高さ h ₁ , h ₂	－30
						延 長 L	－200
4 砂防編	3 斜面対策	6 山腹水路工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 ▽	±30
						厚さ t ₁ , t ₂	－20
						幅 w	－30
						幅 w ₁ , w ₂	－50
						高さ h ₁ , h ₂	－30
						深 さ h ₃	－30
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－15－4井桁ブロック工に準ずる。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1施工箇所毎		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 山 腹 水 路 工	5		山腹暗渠工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	6 山 腹 水 路 工	6		集水枳工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ ℓ	設計値以上
						配 置 誤 差 d	100
						せん孔方向 θ	± 2.5 度
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	7 地 下 水 排 除 工	5		集水井工	基 準 高 ∇	± 50
						偏 心 量 d	150
						長 さ L	-100
						巻 立 て 幅 w	-50
						巻立て厚さ t	-30
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	8 地 下 水 遮 断 工	3		現場打擁壁工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	8 地 下 水 遮 断 工	4		小型擁壁工	基 準 高 ∇	± 50
						幅 w	-30
						高 さ h	-50
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-29 暗渠工に準ずる。		
第1編3-3-30 集水枳工に準ずる。		
全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
第1編3-15-1 現場打擁壁工に準ずる。		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	8 地 下 水 遮 断 工	5		固結工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	8 地 下 水 遮 断 工	6		矢板工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	9 抑 止 杭 工	3		既製杭工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	9 抑 止 杭 工	4		場所打杭工		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	9 抑 止 杭 工	5		シャフト工（深礎工）		
4 砂 防 編	3 斜 面 対 策	9 抑 止 杭 工	6		合成杭工	基 準 高 ▽	±50
						偏 心 量 d	D/4 以内 かつ 100 以内

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-7-9固結工に準ずる。		
第1編3-3-4矢板工に準ずる。		
第1編3-4-4既製杭工に準ずる。		
第1編3-4-5場所打杭工に準ずる。		
第1編3-4-6深礎工に準ずる。		
全数測定。		

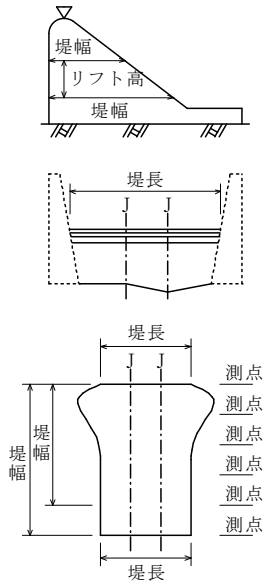
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20
						天 端 幅	±20
						ジョイント間隔	±30
						リ フ ト 高	±50
						堤 幅	－30, ＋50
						堤 長	－100
5 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20
						ジョイント間隔	±30
						幅	±40
						長 さ	－100, ＋60

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（越流部堤頂高を含む）は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 （注）堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。（堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む） ③ジョイント間隔（横継目）は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督職員の指示による。	(注)1. j : ジョイント	
1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高（敷高）、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交点部を測定。 ②長さ、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指示による。	測点 測点 測点 測点	

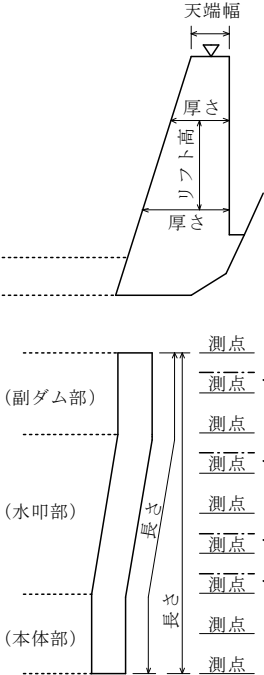
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20
						ジョイント間隔	±30
						リ フ ト 高	±50
						堤 幅	-30, +50
						堤 長	±40

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		

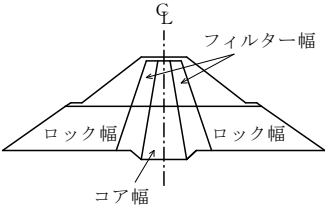
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30
						ジョイント間隔	±20
						リ フ ト 高	±50
						長 さ	±100
						厚 さ	±20

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。		

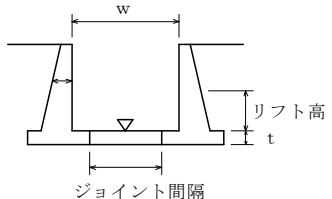
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	設計値以上
						外 側 境 界 線	－0，＋500
5 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	－0
						外 側 境 界 線	－0，＋1000
						盛 立 幅	－0，＋1000
5 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	－100
						外 側 境 界 線	－0，＋2000

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タンピング ローラ）の場合		
各測点について5層毎に測定。		
各測点について盛立5m毎に測定。		

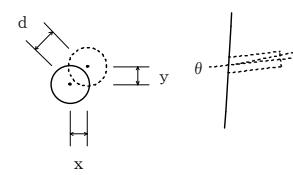
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
5 ダム 編	2 フィル ダム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20
						ジョイント間隔	±30
						厚 さ t	±20
						幅 w	±40
						リ フ ト 高 さ	±20
						長 さ L	±100
5 ダム 編	3 基礎 グラウ チング	3 ボー リング 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上
						配 置 誤 差	100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1 回／1 施工箇所		
ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーテングラウトに適用する。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	1	遮音壁支柱製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
6 道 路 編	1 道 路 改 良	3 工 場 製 作 工	2	2	遮音壁支柱製作工 (工場塗装工)			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	2		植生工			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	3		法面吹付工 (コンクリート) (モルタル)			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	4		法枠工			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	5 7		アンカー工 プレキャストコンクリート板	削孔深さ	ℓ	設計値以上
						配置誤差	d	100
						せん孔方向	θ	± 2.5 度

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第1編3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
第1編3-3-7 植生工に準ずる。		
第1編3-3-6 吹付工に準ずる。		
第1編3-3-5 法枠工に準ずる。		
全数（任意仮設は除く）	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

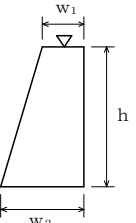
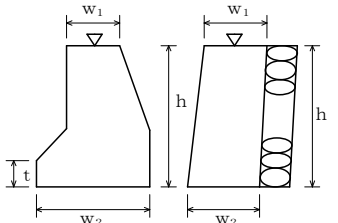
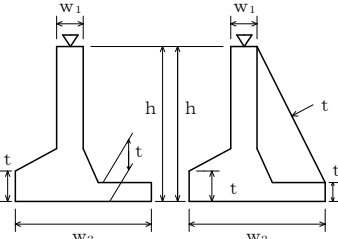
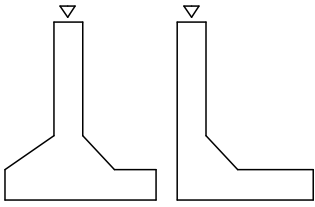
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	6	1	かご工 (じゃかご)	法 長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚 さ t		-50
6 道 路 編	1 道 路 改 良	4 法 面 工	6	2	かご工 (ふとんかご)	高 さ h		-100
						延 長 L_1, L_2		-200
						基 準 高		-100
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	3		既製杭工			
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	4		場所打杭工			

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
第 1 編 3 - 4 - 4 既製杭工に準ずる。		
第 1 編 3 - 4 - 5 場所打杭工に準ずる。		

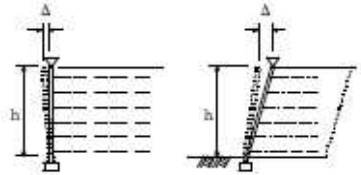
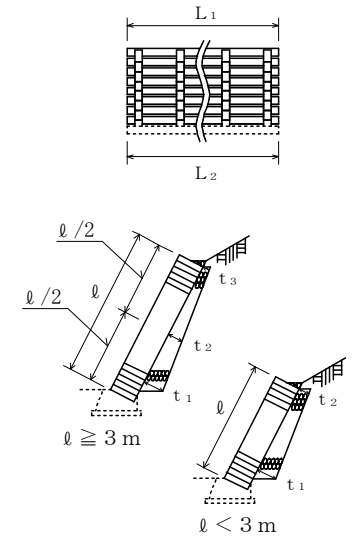
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	5		場所打擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						厚 さ t	－20	
						裏 込 厚 さ	－50	
						幅 w ₁ , w ₂	－30	
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						延 長 L	－200	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	6		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽	±50	
						延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	7		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基 準 高 ▽		－50
						高 さ h	h < 3 m	－50
							h ≧ 3 m	－100
						鉛 直 度 Δ		±0.03h かつ ±300 以内
						控 え 長 さ		設計値以上
						延 長 L		－200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	8		井桁ブロック工	基 準 高 ▽		±50
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m	－50
							ℓ ≧ 3 m	－100
						厚さ t ₁ , t ₂ , t ₃		－50
						延 長 L ₁ , L ₂		－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		

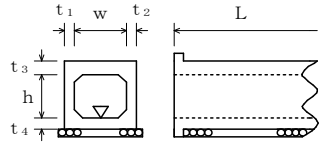
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	5 擁 壁 工	9		土留・仮締切工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－10－5土留・仮締切り工に準ずる。		

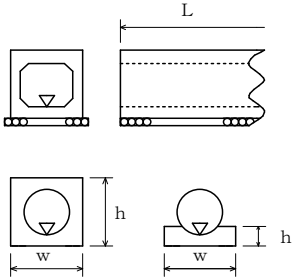
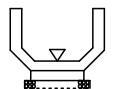
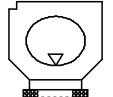
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 カ ル バ ー ト 工	6		場所打函渠工	基 準 高 ▽	±30	
						厚 さ $t_1 \sim t_4$	－20	
						幅（内法） w	－30	
						高 さ h	±30	
						延 長 L	$L < 20\text{m}$	－50
							$L \geq 20\text{m}$	－100

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所 所で測定。		

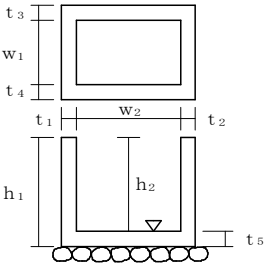
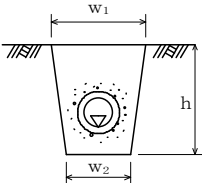
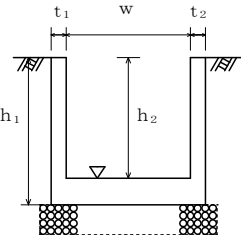
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 カ ル バ ー ト 工	7		プレキャストカルバー ト工 (プレキャストボック ス工) (プレキャストパイプ 工)	基 準 高 ▽	±30
						※幅 w	－50
						※高 さ h	－30
						延 長 L	－200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	6 カ ル バ ー ト 工	8		土留・仮締切工		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 小 型 水 路 工	3		側溝工 (プレキャストU型側 溝) (コルゲートフリュー ム) (自由勾配側溝)	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 小 型 水 路 工	4		管渠工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ※印は、場所打のある場合。 1 施工箇所毎		
第 1 編 3－10－5 土留・仮締切工に準ずる。		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

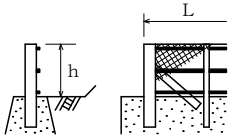
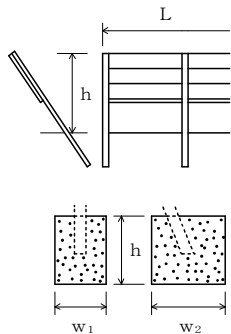
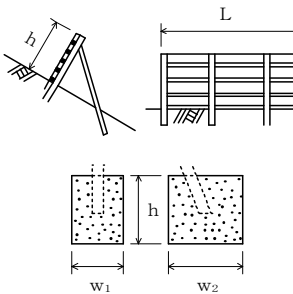
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 小 型 水 路 工	5		集水桝・マンホール工	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 小 型 水 路 工	6		地下排水工	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-50
						深 さ h	-30
						延 長 L	-200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	7 小 型 水 路 工	7		現場打（組立）水路工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高 さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 落 石 雪 害 防 止 工	4		落石防止網工	幅 w	-200
						延 長 L	-200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所毎 ※は、場所打部分のある場合		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
1 施工箇所毎		
1 施工箇所毎		

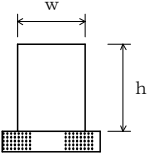
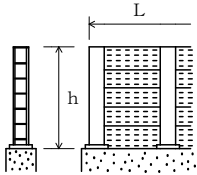
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 落 石 雪 害 防 止 工	5		落石防護柵工	高 さ h		±30
						延 長 L		−200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h		±30
						延 長 L		−200
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	−30
							高 さ h	−30
6 道 路 編	1 道 路 改 良	8 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h		±30
						延 長 L		−200
						基礎	幅 w ₁ , w ₂	−30
							高 さ h	−30
						アン カ ー 長 ℓ	打 込 み ℓ	−10%
							埋 込 み ℓ	−5%

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎 基礎 1 基毎 全数		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 遮 音 壁 工	4		既製杭工		
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 遮 音 壁 工	5		遮音壁基礎工	幅 w	−30
						高 さ h	−30
						延 長 L	−200
6 道 路 編	1 道 路 改 良	9 遮 音 壁 工	6		遮音壁本体工	支 柱	
						間 隔 w	±15
						ず れ a	10
						倒 れ d	$h \times 0.5\%$
						高 さ h	+30, −20
						延 長 L	−200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-4-4既製杭工に準ずる。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、施工延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	－45	－45	－15	－15
						幅	－50	－50	—	—
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－8	－10
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値(X ₁₀)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X_{10})について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	6	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－10
						幅	－25	－25	－	－
						平 坦 性	－		3mプロファイルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		－	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	－	－
						厚 さ	－45	－45	－15	－15
						幅	－50	－50	－	－
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－10
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² 毎に 1 箇所の割でコアー を採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたりの 施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値 ($\bar{X}_{10}$) について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割と し、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り 起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り 起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定処理工	厚 さ	－25	－30	－ 8	－ 3
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	－	－
						▽基準高	±30		－	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X ₁₀)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することができる。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	—	—
						▽基準高	±30		—	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	7	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3
						幅	－25	－25	—	—
						平 坦 性	—		3mプロファイルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		—	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	1	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	－15	－20	－ 5	－ 7
						幅	－50	－50	—	—
						▽基準高	±30		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満)	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコアー を採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X_{10})について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 (X_{10})	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	2	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚 さ	－ 9	－12	－ 3	－ 4
						幅	－25	－25	—	—
						▽基準高	±30		—	
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	8	3	グースアスファルト 舗装工 (表層工)	厚 さ	－ 7	－ 9	－ 2	－ 3
						幅	－25	－25	—	—
						平 坦 性	—		3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾐｰﾀｰ (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	
						▽基準高	±30		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値(X_{10})について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 m ² 毎に 1 個の割でコアー を採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	9		コンクリート舗装工				
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	10		薄層カラー舗装工				

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第 1 編 3－6－6 コンクリート舗装工に準ずる。		
第 1 編 3－6－7 薄層カラー舗装工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—
						厚 さ	－45		－15
						幅	－50		—
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	－25	－30	－ 8
						幅	－50		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 ($\bar{X}_{10}$) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント（石灰）安 定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5
						幅	-50		—
						▽基準高	±30		—
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工	11	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3
						幅	-25		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアーを 採取もしくは掘り起こして測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。	○施工規模の考え方 ・ 中規模以上の工事とは、1 層あたり の施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用す る 基層および表層用混合物の総使用 量が 500t 以上の場合。 ・ 小規模工事とは、1 層あたりの施工 面積が 2,000m ² 未満または使用する基 層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未 満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10 個の測定値の平 均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければなら ない。ただし、厚さのデータが 10 個 未満の場合は測定値の平均値は適用し ない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、 厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアーを 採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割と し、道路中心線および端部で測定。		

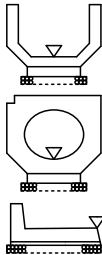
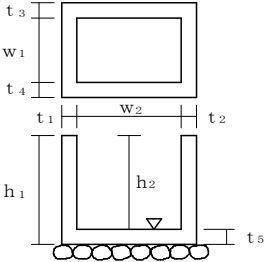
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		—
						厚 さ	t < 15cm	－30	－10
							t ≥ 15cm	－45	－15
						幅	－100		—
6 道 路 編	2 舗 装	3 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	－9		－3
						幅	－25		—
						▽基準高	±30		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は片側延長 40m 毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所測定。 ※両端部 2 点で測定する。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所の割で測定。厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所コアーを採取して測定。 基準高は延長 40m ごとに 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

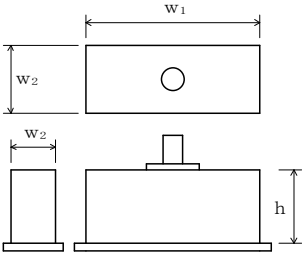
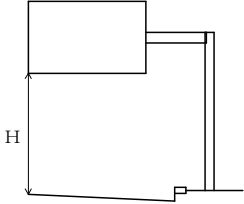
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	2	3	側溝工 (L型街渠工) (L O型街渠工) (プレキャストU型側 溝工) (管 (函) 渠型側溝工) 管渠工	基 準 高 ▽	±30
			延 長 L			－200	
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	4		街渠柵・マンホール工 (街渠柵工) (マンホール工)	基 準 高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	－20
						※幅 w_1, w_2	－30
						※高さ h_1, h_2	－30
6 道 路 編	2 舗 装	4 路 面 排 水 工	5		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	－200
6 道 路 編	2 舗 装	5 防 護 柵 工	2		路側防護柵工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所／1 施工箇所		
1 箇所／施工延長 40m ※は現場打部分のある場合		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 箇所／1 施工箇所		
第1編3－3－11 路側防護柵工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	5 防 護 柵 工	3		防止柵工		
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	3		小型標識工		
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	4		土留・仮締切工		
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	－30
						高 さ h	－30
6 道 路 編	2 舗 装	6 標 識 工	5	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－3－10 防止柵工に準ずる。		
第1編3－3－9 小型標識工に準ずる。		
第1編3－10－5 土留・仮締切工に準ずる。		
基礎一基毎		
1 箇所／1 基		

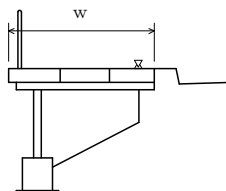
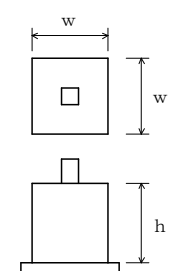
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	3		区画線工		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	4		縁石工		
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	7		道路付属物工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－3－12 区画線工に準ずる。		
第1編3－3－8 縁石工に準ずる。		
第1編3－3－13 道路付属物工に準ずる。		

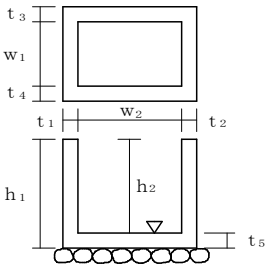
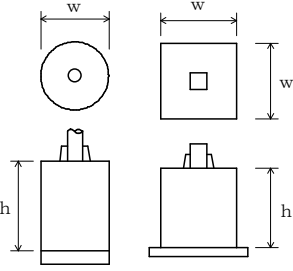
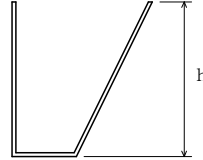
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	8		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	±20
						各 部 の 厚 さ	±20
						各 部 の 長 さ	±30
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	±20
						厚 さ	
					(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	±20
						ア ン カ ー 長	±20
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9	1	組立歩道工	基 準 高 ▽	±30
						幅 w	－30
						延 長 L	－200
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	9	2	組立歩道工 (支柱基礎工)	幅 w	－30
						高 さ h	－30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所／1 踏掛版		
1 箇所／1 踏掛版		
1 箇所／1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		
1 箇所／1 施工箇所		
		

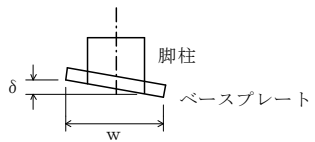
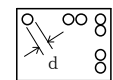
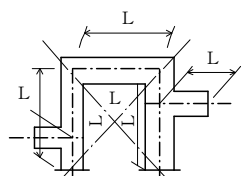
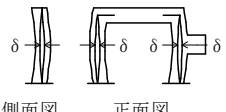
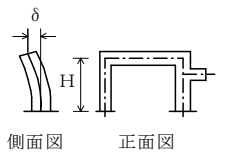
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	1	ケーブル配管工	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	10	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
6 道 路 編	2 舗 装	7 道 路 付 属 物 施 設 工	11		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高 さ h	-30
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	2		刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $h \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < h \leq 2.0$
						外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数		
1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		
1箇所／1施工箇所		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

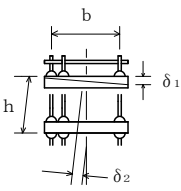
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレート の鉛直度 δ (mm)	w/500	
							ベ ー ス プ レ ー ト	孔の位置	± 2
								孔 の 径	0 ～ 5
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	± 5 … L ≤ 10m ± 10 … 10 < L ≤ 20m ± (10 + (L - 20)/10) … 20m < L	
							はりのキャンバー 及び柱の曲がり δ (mm)	L / 1, 000	
							柱 の 鉛 直 度 δ (mm)	10 … H ≤ 10 H / 1, 000 … H > 10	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。	 側面図 正面図	
各柱及び片持ばり部を測定。	 側面図 正面図	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	4		アンカーフレーム製作工	上 面 水 平 度 δ_1 (mm)	b / 500
						鉛 直 度 δ_2 (mm)	h / 500
						高 さ h (mm)	± 5
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	5		仮設材製作工	部 材 部材長 ℓ (m)	± 3 …… $\ell \leq 10$ ± 4 …… $\ell > 10$
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	3 工 場 製 作 工	6		工場塗装工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	3		既製杭工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸芯上全数測定。		b: ボルト間隔 (mm) h: 高さ (mm)
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第 1 編 3 - 3 - 15 工場塗装工に準ずる。		
第 1 編 3 - 4 - 4 既製杭工に準ずる。		

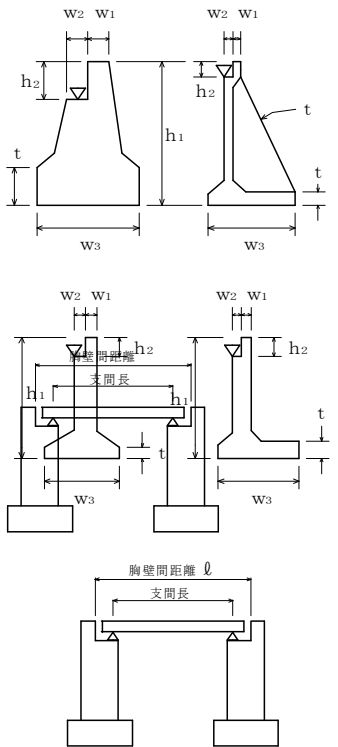
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	4		場所打杭工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	5		深礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	6		オープンケーソン基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	7		ニューマチックケーソン基礎工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－4－5 場所打杭工に準ずる。		
第1編3－4－6 深礎工に準ずる。		
第1編3－4－7 オープンケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－4－8 ニューマチックケーソン基礎工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	8		橋台躯体工	基 準 高 ▽	±20		
						厚 さ t	－20		
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	－10		
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	－10		
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	－50		
						高 さ h_1	－50		
						胸壁の高さ h_2	－30		
						天 端 長 ℓ_1	－50		
						敷 長 ℓ_2	－50		
						胸壁間距離 ℓ	±30		
						支 間 長 及 び 中心線の変位	±50		
						アンカーボルトの箱抜き規格値	鋼製 支 承	計画高	+10～－30
								平面位置	±20
					アンカーボルト孔 の 鉛直度			1 /50 以下	
					ゴム 支 承		計画高	+10～－20	
							平面位置	±20	
							アンカーボルト孔 の 鉛直度	1 /50 以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	9		土留・仮締切工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	10		地中連続壁工（壁式）		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	4 橋 台 工	11		地中連続壁工（柱列式）		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	3		既製杭工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	4		場所打杭工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	5		深礎工		

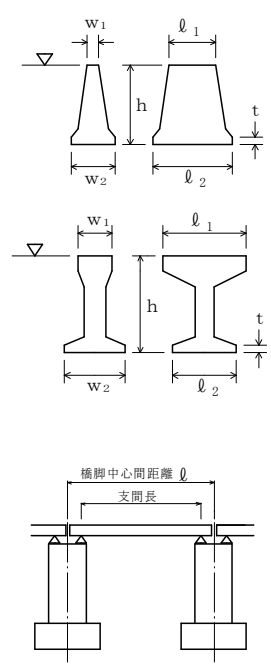
測 定 基 準	測 定 箇 所	単位 要mm
第1編3－10－5土留・仮締切工に準ずる。		
第1編3－10－8地中連続壁工（壁式）に準ずる。		
第1編3－10－9地中連続壁工（柱列式）に準ずる。		
第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
第1編3－4－6深礎工に準ずる。		

単位：mm

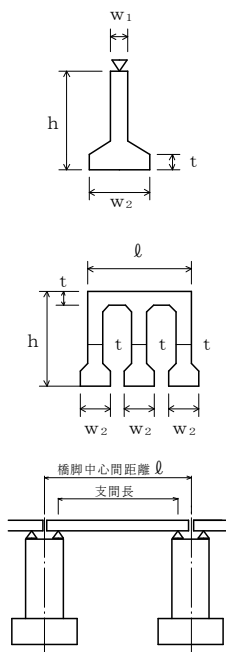
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	6		オープンケーソン基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	7		ニューマチックケーソン基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	8		鋼管井筒基礎工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-4-7 オープンケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3-4-8 ニューマチックケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3-4-9 鋼管井筒基礎工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50
						高 さ h	-50
						天 端 長 ℓ_1	-50
						敷 長 ℓ_2	-50
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	$+10 \sim -20$
						平 面 位 置	± 20
						アソカーボルト孔の 鉛直度	1 / 50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 : mm
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1	-20
						敷 幅 w_2	-20
						高 さ h	-50
						長 さ ℓ	-20
						橋脚中心間距離 ℓ	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
					支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	$+10 \sim -20$
						平 面 位 置	± 20
						ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1 / 50 以下
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	5 R C 橋 脚 工	10		土留・仮締切工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	3		既製杭工		

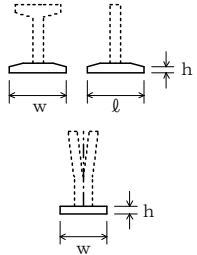
測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 : mm
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		
第1編3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
第1編3-4-4 既製杭工に準ずる。		

6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	4		場所打杭工		
------------------	-----------------------	----------------------------	---	--	-------	--	--

第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		単位：mm
--------------------	--	-------

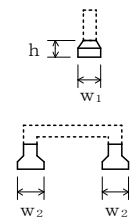
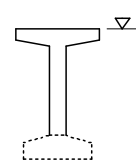
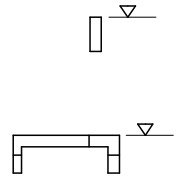
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	5		深礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	6		オープンケーソン基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	7		ニューマチックケーソン基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	8		鋼管井筒基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ▽	±20
						幅 w (橋軸方向)	－50
						高 さ h	－50
						長 さ ℓ	－50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－4－6深礎工に準ずる。		
第1編3－4－7オープンケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－4－8ニューマチックケーソン基礎工に準ずる。		
第1編3－4－9鋼管井筒基礎工に準ずる。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w_1, w_2	-50
						高 さ h	-50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		

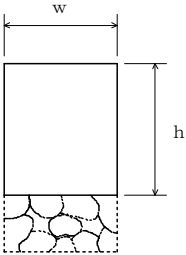
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	12		現場塗装工	塗 膜 厚	a。ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b。測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c。測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	6 鋼 製 橋 脚 工	13		土留・仮締切工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	3 4		笠コンクリート工 法留基礎工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	5		矢板工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	6		コンクリートブロック工		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定する。 1 ロットの大きさは500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
第1編3-10-5 土留・仮締切工に準ずる。		
第1編3-4-3 法留基礎工に準ずる。		
第1編3-3-4 矢板工に準ずる。		
第1編3-5-3 コンクリートブロック工に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	7		護岸付属物工	幅 w	－30
						高 さ h	－30
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	8		石積（張）工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	9		法枠工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	10		植生工		
6 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 護 岸 工	11		覆土工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各格子間の中央部 1 箇所を測定。		
第 1 編 3－5－5 石積（張）工に準ずる。		
第 1 編 3－3－5 法枠工に準ずる。		
第 1 編 3－3－7 植生工に準ずる。		
第 1 編 4－3－5 整形仕上げ工に準ずる。		

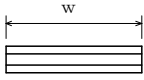
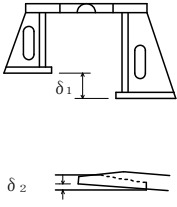
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3 桁 製 作 工	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3 桁 製 作 工	2	桁製作工 (仮組立による検査を 省略する場合)		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-14-1桁製作工に準ず る。		
第1編3-3-14-2桁製作工（仮組 立による検査を省略する場合）に準ず る。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	4		検査路製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	5		鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長 w (m)	0 ～ + 3 0
						仮 組 立 時	組合せる伸縮装置 との高さの差 δ_1 (mm)	設 計 値 ± 4
							フィンガーの食い 違い δ_2 (mm)	± 2
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	6		鋼製耐震連結装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	7		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		

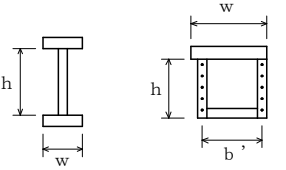
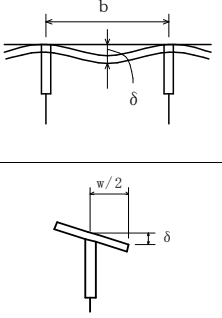
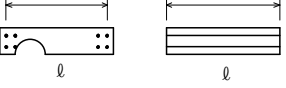
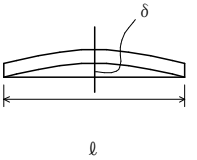
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	8		橋梁用防護柵製作工	部	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$
						材		$\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$
						材		$\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		

単位：mm

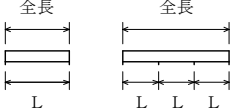
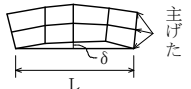
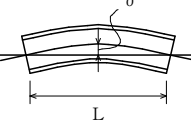
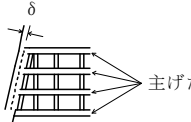
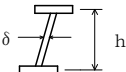
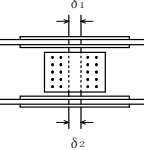
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10		横断歩道橋製作工 （仮組立による検査を 実施する場合） （シミュレーション仮 組立検査を行う場合）	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$	
							板の平面度 δ (mm)	プレートガーター及びトラス等の部材の腹板 箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$h/250$ $b/150$
							フランジの直角度 δ (mm)		$w/200$
							部材長さ ℓ (m)	鋼桁	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$
							トラス、アーチなど	$\pm 2 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell > 10$	
							圧縮材の曲がり δ (mm)		$\ell/1000$

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		 I型プレート ガーター トラス弦材	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h ：腹板高 (mm) b ：腹板またはリブの間隔 (mm) w ：フランジ幅 (mm)			
原則として仮組立をしない部材について、主要部材全数を測定。			
	主要部材全数を測定。		

※ 規格値の w , ℓ に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ , フランジの直角度 δ , 圧縮部材の曲がり δ 」の規格値の h , b , w , ℓ に代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

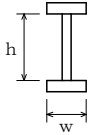
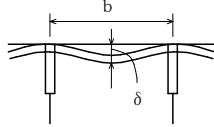
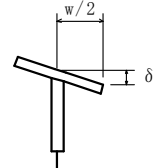
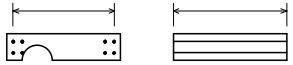
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10		横断歩道橋製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$
						主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots B > 2$
						主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots h > 5$
						仮組立主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$
						主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots 80 < L \leq 200$
						主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10
						主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$
						現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁、主構全数を測定。			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
—	両端部及び中心部を測定。		
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上(m)			
各主桁について 10～12m間隔を測定。 L：主桁の支間長(m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長(m)		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
各主桁の両端部を測定。 L：主桁の高さ(mm)	支点及び支間中央付近を測定。 L：主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※ は耐候性鋼材（裸使用）の場合 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。			

※ 規格値の L, B, h に代入する数値は m 単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値の h に代入する数値は mm 単位の数値とする。

単位：mm

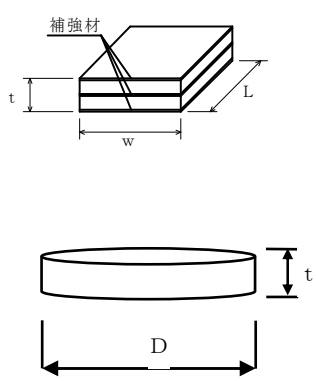
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	10		横断歩道橋製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
						板の平面度 δ (mm)	$h/250$
						箱桁等の及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
						部材長 ℓ (m) 鋼桁	$\pm 3 \cdots \cdots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $\ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要 (仮組立を実施)
主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I 型鋼桁	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h ：腹板高 (mm) b ：腹板またはリブの間隔 (mm) w ：フランジ幅 (mm)		
		
主要部材全数を測定。		

※ 規格値の w , ℓ に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ , フランジの直角度 δ 」の規格値の h , b , w , に代入する数値はmm 単位の数値とする。

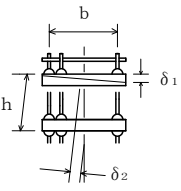
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	11	1	鑄造費 (金属支承工)	上 沓 の 橋 軸 及 び 直 角 方 向 の 長 さ 寸 法	JIS B 0403-95 CT13
						全 移 動 量 ℓ	$\ell \leq 300\text{mm}$ ± 2
							$\ell > 300\text{mm}$ $\pm \ell / 100$
						組 立 高 さ H コ ン ク リ ー ト 構 造 用	上、下面加工仕上げ ± 3
							$H \leq 300\text{mm}$ ± 3
							$H > 300\text{mm}$ $\pm (H/200+3)$ 小数点以下切り捨て
						普 通 寸 法	鑄放し長さ寸法 ※1、※2 JIS B 0403-95 CT14
							鑄放し肉厚寸法 ※1 JIS B 0403-95 CT15
							削り加工寸法 JIS B 0405-91 粗級
							ガス切断寸法 JIS B 0417-79 B級
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	11	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長 さ L 直 径 D	$w, L, D \leq 500$ $0 \sim +5$
							$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$ $0 \sim +1\%$
							$1500 < w, L, D$ $0 \sim +15$
						厚 さ t	$t \leq 20\text{mm}$ ± 0.5
							$20 < t \leq 160$ $\pm 2.5\%$
							$160 < t$ ± 4
						平 面 度 1	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。 ※1片面削り加工も含む。 ※2ただし、ソールプレート接触面の橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		
製品全数を測定。 平面度:1個のゴム支承の厚さ(t)の最大相対誤差		

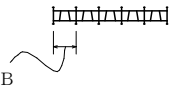
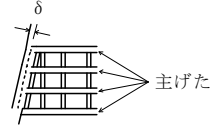
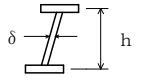
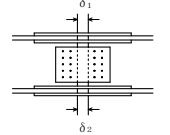
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	12		アンカーフレーム製作工	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$
						鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$
						高さ h (mm)	± 5
	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	13		仮設材製作工	部 材	$\pm 3 \dots\dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots \ell > 10$
						部材長 ℓ (m)	
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	14		工場塗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸芯上全数測定。		b: ボルト間隔 (mm) h: 高さ (mm)
図面の寸法表示箇所にて測定。		
第 1 編 3 - 3 - 15 工場塗装工に準ずる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	4		架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架 設） （ケーブルエレクトシ ョン架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン 架設）	全長、支間長	± (20+L/5)
			5			そ り	± (25+L/2)
			6			通 り	± (10+2L/5)
			7			※主桁、主構の 中心間距離B （m）	± 4 ……B≤ 2 ± (3+B/2) ……B> 2
			8				
			9				
						※主桁、主構の橋端にお ける出入差 δ （mm）	設計値±10
	※主桁、主構の鉛直度 δ （mm）	3+h/1, 000					
	※現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ （mm）	設計値± 5					

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m) 主桁、主構を全数測定。		
主桁、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
各主桁の両端部を測定。 H：主桁・主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

※ 規格値の L, B, に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値の h に代入する数値は mm 単位の数値とする。

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	4 鋼 橋 架 設 工	10		現場継手工	現場継手部のすき間 δ (mm)	5 ※± 5
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 橋 梁 現 場 塗 装 工	3		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗 膜厚平均値 は、目標塗膜 厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最 小値は、目標 塗膜厚合計 値の 70%以 上。 c. 測定値の分 布の標準偏差 は、目標塗膜 厚合計値の 20%を超え ない。ただ し、測定値の 平均値が目標 塗膜厚合計値 より大きい場 合はこの限り ではない。

※

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主桁、主構の全継手数の 1 / 2 を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、 各点の測定は 5 回行い、その平均値を その点の測定値とする。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	6 床 版 工	2		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20
						幅 w	0 ～ +30
						厚 さ t	+20 ～ -10
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋のかぶり	0 ～ +25
						鉄 筋 間 隔	±20
						上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。（床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		

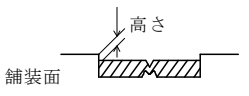
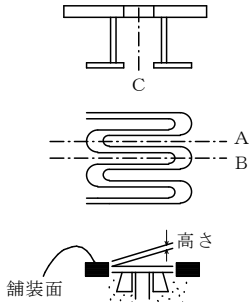
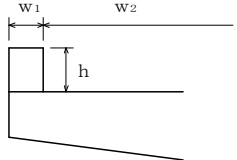
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
							コンクリート橋	鋼橋	
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	1	支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100	
							橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量計 算値の 1/2 以上							
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10		
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300	
							橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量計 算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面、及びゴム支承と台座モルタルと の接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 1) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすことを 確認する。 注 3) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		

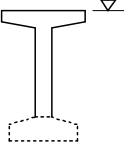
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0～－2
						表 面 の 凹 凸	3
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～－2
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	2	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ イント)	高 さ 据 付 け 高 さ	± 3
						車線方向各点誤差 の相対差	3
						表 面 の 凹 凸	3
						歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	2
						縦 方 向 間 隔	± 2
						横 方 向 間 隔	± 5
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～－2
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	+20～－10
						地覆の高さ h	+20～－10
						有効幅員 w_2	+30～ 0
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅	+10～－ 5

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各 3 点計 9 点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計 3 点。		
1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所測定。		

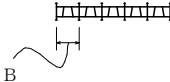
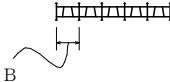
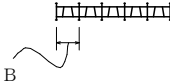
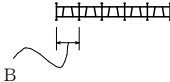
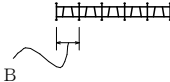
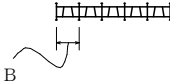
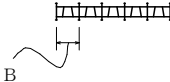
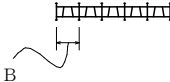
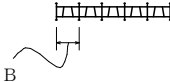
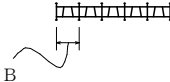
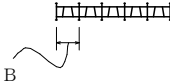
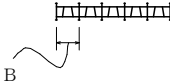
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	± 3
						高 さ	± 4
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	3		既製杭工		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	4		場所打杭工		
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	5		橋脚フーチング工 (I型) (T型)	基 準 高	±20
						フーチング幅 w (橋軸方向)	－50
						フーチングの高さ h	－50
						フーチング長 ℓ	－50

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1ブロックを抽出して測定。		
第1編3－4－4既製杭工に準ずる。		
第1編3－4－5場所打杭工に準ずる。		
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	6		歩道橋架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエクシオン架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全長、支間長	$\pm (20+L/5)$
						そ り	$\pm (25+L/2)$
						通 り	$\pm (10+2L/5)$
					※主桁、主構の 中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots \cdots B > 2$	
					※主桁、主構の橋端にお ける出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	
					※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	
					※現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5	

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)			
主桁、主構を全数測定。			
主桁、主構を全数測定。 L：主げた・主構の支間長(m)			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
			
各主桁の両端部を測定。 L：主桁の高さ(mm)	支点及び支間中央付近を測定。 L：主構の高さ(mm)		
			
			
主桁、主構の全継手数の 1／2 を測定。 δ 1, δ 2 のうち大きいもの 設計値が 5mm 以下の場合は、マイナス 側については設計値以上とする。			
			
			
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。			
			
			

※ 規格値の L, B, に代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値の h に代入する数値は mm 単位の数値とする。

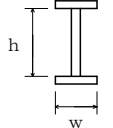
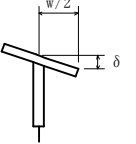
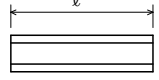
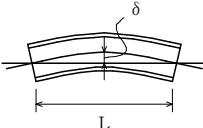
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	9 歩 道 橋 本 体 工	7		現場塗装工（歩道橋）	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の 90 % 以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70 % 以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の 20%を超えない。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは 500 ㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は 25 点とし、各点の測定は 5 回行い、その平均値をその点の測定値とする。		

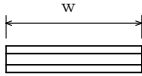
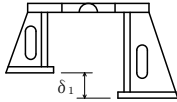
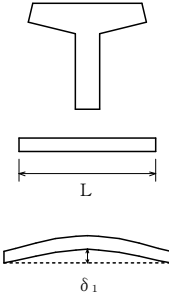
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	2		プレビーム用桁製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$
						部 材 フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
						部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
						仮 組 立 時 主 桁 の そ り δ	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	3		橋梁用防護柵製作工	部 材 長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼桁	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について 10～12m 間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所を測定。		

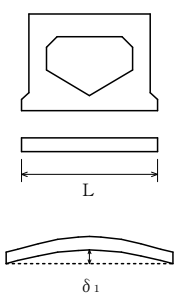
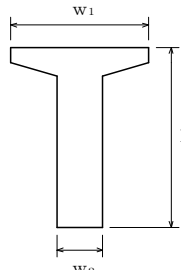
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	4		鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長 w (m) $0 \sim +30$
						仮 組 立 時	組合せる伸縮装置 との高さの差 δ_1 (mm) 設計値 ± 4
							フィンガーの食い 違い δ_2 (mm) ± 2
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	5		工場塗装工		
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	2	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁 長 L	$\pm L/1000$
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。	 (実測値) δ_2 	
第1編3-3-15 工場塗装工に準ずる。		
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	2	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁 長 L	$\pm 10 \cdots \cdots$ $L \leq 10\text{m}$
						断面の外形寸法	$\pm L/1000$ $\cdots L > 10\text{m}$
						断面の外形寸法	± 5
						橋桁のそり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	3		ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	$+10$ -5
						幅 (下) w_2	± 5
						高 さ h	$+10$ -5
						桁 長 支 間 長 ℓ	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ 30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ：支間長 (m)		

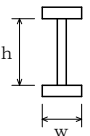
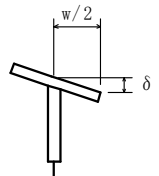
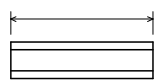
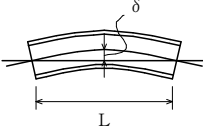
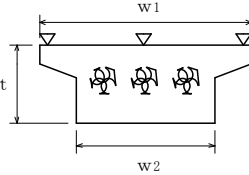
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	4		プレキャストセグメン ト桁製作工 (購入工)	桁 長 ℓ	—
						断面の外形寸法 (mm)	—
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	5		プレキャストセグメン ト主桁組立工	桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell$ — 5) かつ — 30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：スパン長		

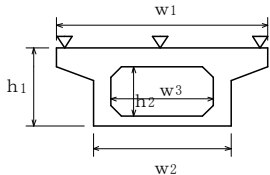
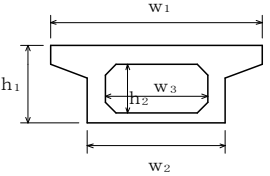
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	6		プレビーム用桁製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$
						部 材 フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
						部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
						仮組立時 主 桁 の そ り δ	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	7		P C ホ ロ ス ラ ブ 製 作 工	基 準 高	± 20
			8		R C 場 所 打 ホ ロ ス ラ ブ 製 作 工	幅 w_1, w_2	$+30 \sim -5$
			9		P C 版 桁 製 作 工	厚 さ t	$+20 \sim -10$
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼桁	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について 10～12m 間隔を測定。		
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ ：スパン長		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	10 11		P C 箱桁製作工 P C 片持箱桁製作工	基 準 高	±20
						幅 (上) w_1	+30～-5
						幅 (下) w_2	+30～-5
						内 空 幅 w_3	±5
						高 さ h_1	+10 -5
						内空高さ h_2	+10 -5
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	4 コ ン ク リ ー ト 主 桁 製 作 工	12		P C 押出し箱桁製作工	幅 (上) w_1	-5～+30
						幅 (下) w_2	-5～+30
						内 空 幅 w_3	±5
						高 さ h_1	+10 -5
						内空高さ h_2	+10 -5
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 ℓ：スパン長		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の 3 箇所とする。 ℓ：支間長 (m)		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	5 コ ン ク リ ー ト 橋 架 設 工	2		架設工（コンクリート橋）	全 長・支 間	—
			3		（クレーン架設） （架設桁架設）	桁の中心間距離	—
			4		架設支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押し出し架設）	そ り	—
			5				

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。		
一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
主桁を全数測定。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 床 版 ・ 横 組 工	2		床版・横組工	基 準 高 ▽	±20
						幅 w	0 ～30
						厚 さ t	+20～－10
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄筋のかぶり	0～+25
						鉄 筋 間 隔	±20
						上記、鉄筋の有効 高さがマイナス の場合	±10

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m ² に 1 箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		

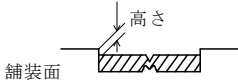
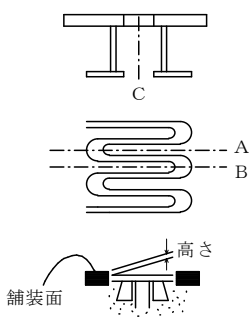
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
							コンクリート橋	鋼橋
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 床 版 ・ 横 組 工	2		支承工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± 5	4 + 0.5 × (B － 2)
						下沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100
						橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差	5	
可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量計 算値の 1/2 以上							
6 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	7 支 承 工	2	2	支承工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5	
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ±10	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	± 5	4 + 0.5 × (B － 2)
						下沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 300
						橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方向の ずれ 同一支承線上の相対誤 差	5	
可動支承の 移動量 注 3)	温度変化に伴う移動量計 算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 4) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 5) 可動支承の遊間(La, Lb)を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。 注 6) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面、及びゴム支承と台座モルタルと の接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 4) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 5) 可動支承の遊間(La, Lb)を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすことを 確認する。 注 6) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		

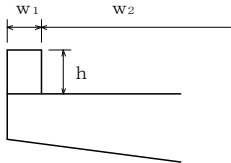
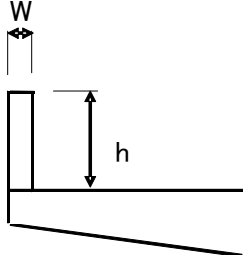
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部	8 橋梁 付 属 物 工	2	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0～－2
						表 面 の 凹 凸	3
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～－2
6 道 路 編	5 コン クリ ート 橋上 部	8 橋梁 付 属 物 工	2	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ イント)	高さ	
						据 付 け 高 さ	±3
						車線方向各点 誤差の相対差	3
						表 面 の 凹 凸	3
						歯型板面の歯咬み 合い部の高低差	2
						縦 方 向 間 隙	±2
						横 方 向 間 隙	±5
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～－2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端及び中央部付近を測定。		
高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隙は、両端、中央部の計3点。		

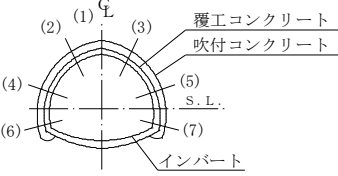
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	+20～-10
						地覆の高さ h	+20～-10
						有効幅員 w_2	+30～0
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	+10～-5
						高 さ h	+30～-20

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	9		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1／3以上を確保するものとする。
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—
						角 度	—
						削 孔 深 さ	—
						孔 径	—
						突 出 量	プレート下面から10cm以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500 m ² とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。		
施工延長40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
施工延長40m毎に断面全本数検測。		

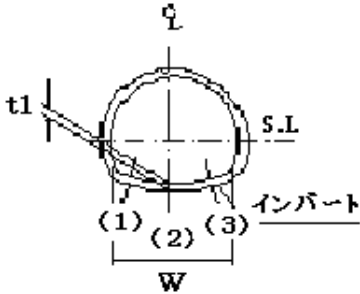
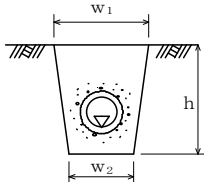
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	3 4		覆工コンクリート工 側壁コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	－50
						高さ h (内法)	－50
						厚 さ t ₁	設計値以上
						延 長 L	—
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	－50
						厚 さ t	－30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
(1) 基準高、幅、高さは、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は 40m に 1 箇所、(2)～(3) は 100m に 1 箇所の割合で行う。 なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。 ・なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50
						厚 さ t_1	設計値以上
						延 長 L	—
6 道 路 編	6 ト ン ネ ル (N A T M)	7 坑 内 付 帯 工	5		地下排水工	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-50
						深 さ h	-30
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
(1) 幅は、施工 40mにつき 1 箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所。 延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		

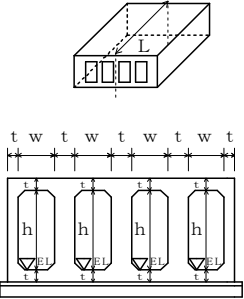
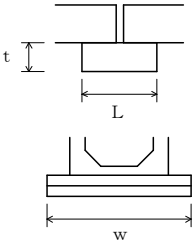
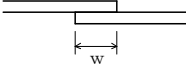
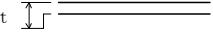
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	11 共 同 溝	3 工 場 製 作 工	3		工場塗装工		

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3－3－15 工場塗装工に準ずる。		

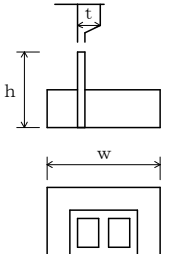
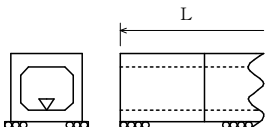
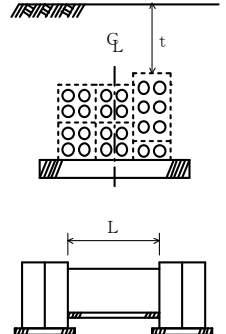
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 ち 構 築 工	2		現場打ち躯体工	基 準 高 ▽	±30
						厚 さ t	－20
						内 空 幅 w	－30
						内 空 高 h	±30
						ブロック長 L	－50
6 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 ち 構 築 工	5		カラー継手工	厚 さ t	－20
						幅 w	－20
						長 さ L	－20
6 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 ち 構 築 工	6	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
6 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 ち 構 築 工	6	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版で測定。		
両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。		

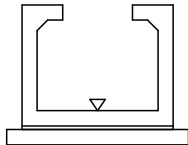
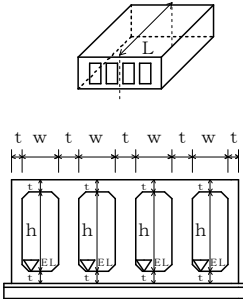
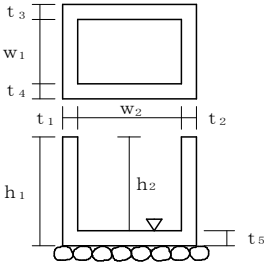
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 ち 構 築 工	6	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	−20
						幅 w	±50
						厚 さ t	−20
6 道 路 編	11 共 同 溝	7 プ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	−200
6 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工（管路部）	埋 設 深	0〜+50
						延 長 L	−200

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。 延長：1 施工箇所毎		
接続部（地上機器部）間毎に 1 箇所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	 接続部 (地上機器部) 接続部 (地上機器部)	

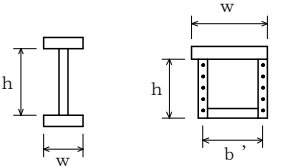
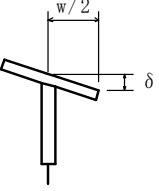
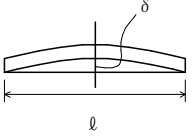
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高 ∇	± 30
6 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	4		現場打ちボックス工 (特殊部)	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						内 空 幅 w	-30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	-50
6 道 路 編	12 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基 準 高 ∇	± 30
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高 さ h_1, h_2	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所で測定。		
1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		

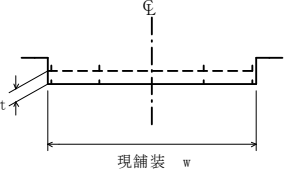
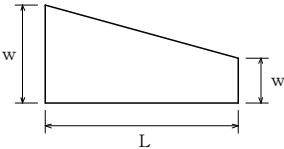
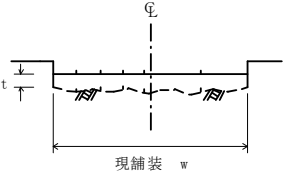
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6	14	3	4		桁補強材製作工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹 板 高 h (m) 腹 板 間 隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell / 1000$

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型鋼桁 トラス弦材	
床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
—	主要部材全数を測定。 ℓ ：部材長 (mm)		

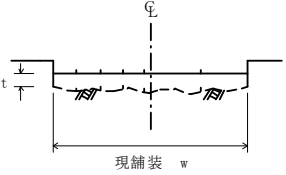
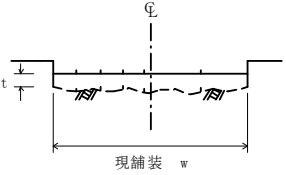
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の 測定値 (X)	平均の 測定値 ($\bar{X}_{10}$)
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 工	3		路面切削工	厚 さ t	－ 7	－ 2
						幅 w	－25	—
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 工	4		舗装打換え工	路 盤 工	厚さ t	該 当 工 種
							幅 w	－50
							延長 L	－100
						舗 設 工	厚さ t	該 当 工 種
							幅 w	－25
							延長 L	－100
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 工	5		切削オーバー レイ工	厚さ t	－ 9	
						幅 w	－25	
						延長 L	－100	
						平 坦 性	—	3mプロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは 40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長 40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎 1 箇所／1 施工箇所		
厚さは 40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、延長 40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。		

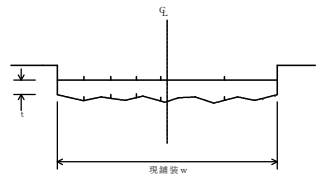
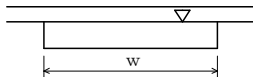
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X_{10})
6 道路編	14 道路修繕	4 舗装工	6		オーバーレイ工	厚さ t	- 9	
						幅 w	- 25	
						延長 L	- 100	
						平坦性	—	3mプロファイルメーター(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下
6 道路編	14 道路修繕	4 舗装工	7		路上再生路盤工	厚さ t	- 30	
						幅 w	- 50	
						延長 L	- 100	

測定基準	測定箇所	摘要
厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1箇所割とし、延長40m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
幅は延長80m毎に1箇所割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		

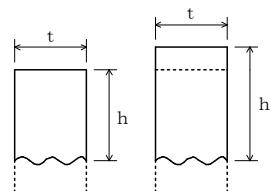
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ($\bar{X}_{10}$)
6	14	4	8		路上表層再生工	舗 設 工	厚さ t	－9
							幅 w	－25
							延長 L	－100
							リペーブの場合 再生表層厚 t ₂	－9
							平 坦 性	— 2.4
6	14	4	9		プレキャストRC舗装 版工	基 準 高 ▽	±20	
						幅 w	±30	
						延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は延長 80m毎に 1 箇所の割で測定。 厚さは、1000 m ² 毎に、現舗装高と舗設後の基準高の差を、車線中心線、車線端及びその中心とする。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、40m（又は 50m）以下は 1 施工箇所につき 2 箇所。		

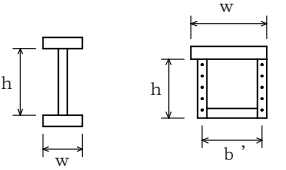
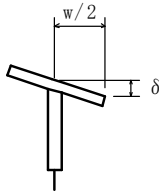
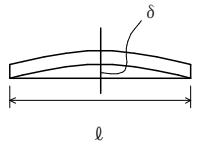
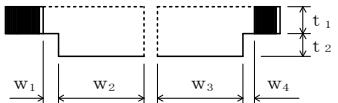
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の 測定値 の平均 ($\bar{X}_{10}$)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 工	10	1	歩道舗装修繕工 (歩道路盤工) (取合舗装路盤工) (路肩舗装路盤工)	基準高▽	±50		—
						厚さ	$t < 15\text{cm}$	－30	－10
							$t \geq 15\text{cm}$	－45	－15
						幅	－100		—
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	4 舗 装 工	10	2	歩道舗装修繕工 (歩道舗装工) (取合舗装工) (路肩舗装工) (表層工)	厚さ	－9		－3
						幅	－25		—
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	5 道 路 構 造 物 修 繕 工	2		排水構造物修繕工	嵩 上	厚 さ t	－20	
							高 さ h	－30	
							延 長 L	－200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は片側延長 40m 毎に一箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に一箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に一箇所測定。 両端部 2 点で測定する。	○施工規模の考え方 ・中規模以上の工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 以上かつ使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 以上の場合。 ・小規模工事とは、1 層あたりの施工面積が 2,000m ² 未満または使用する 基層および表層用混合物の総使用量が 500t 未満(コンクリートでは 400m ³ 未満) ○厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値($\bar{X}_{10}$)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータが 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、片側延長 80m 毎に一箇所の割で測定。厚さは、片側延長 200m 毎に一箇所コアーを採取して測定。		
施工延長 40m につき 1 箇所、延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 取壊し寸法又は嵩上げ寸法が変化すれば、変化点毎に測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	7		鋼桁補強工	フ ラ ン ジ 幅 w (m) 腹 板 高 h (m) 腹 板 間 隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell / 1000$
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	8		伸縮継手修繕工 (ゴムジョイント)	厚 さ t ₁ , t ₂	-20
						幅 w ₁ ~w ₄	-20
						延 長 L	設計値以上

測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
プレートガーター	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I 型プレート ガーター トラス弦材	
床組など	構造別に、5 部材につき 1 個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	主要部材全数を測定。		
伸縮継手の両端部及び中央部の 3 箇所を測定。			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
							コンクリート橋	鋼橋	
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	10	1	P C 橋 支 承 修繕工・鋼桁支承修繕工 (鋼製支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ± 10		
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 100	
							橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方 向のずれ 同一支承線上の相 対誤差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量計算 値の 1/2 以上							
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	10	2	P C 橋 支 承 修繕工・鋼桁支承修繕工 (ゴム支承)	据 付 け 高 さ 注 1)	± 5		
						可動支承の移動 可能量 注 2)	設計移動量 ± 10		
						支 承 中 心 間 隔 (橋軸直角方向)		± 5	4 + 0.5 × (B - 2)
						下 沓 の 水 平 度	橋 軸 方 向	1 / 300	
							橋 軸 直 角 方 向		
						可動支承の橋軸方 向のずれ 同一支承線上の相 対誤差		5	
可動支承の 移動量 注 3)		温度変化に伴う移動量計算 値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m) 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 7) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 8) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすこと を確認する。 注 9) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面、及びゴム支承と台座モルタルと の接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合は、 水平面の高低差を 1mm 以下とする。な お、支承を勾配なりに据え付ける場合 を除く。 注 7) 先固定の場合は、支承上面で測 定する。 注 8) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考慮して、移動可能量が道路橋 支承便覧の規格値を満たすことを 確認する。 注 9) 可動支承の移動量検査は、仮設 完了後に実施する。詳細は道路橋 支承便覧参照。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 道 路 編	14 道 路 修 繕	7 現 場 塗 装 工	6		コンクリート面塗装工		

単位：mm

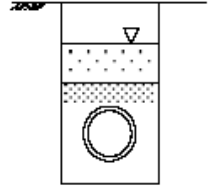
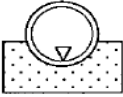
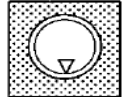
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
第1編3-3-16 コンクリート面の塗装に準ずる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
7 公園 緑地 編	1 基盤 整備	4 敷地 造成 工			公 園 土 工 (広場造成工に適用)	基 準 高		±60
						長さ 幅	L ≤ 30m	－1 %
							L > 30m	－300
						法	L ≤ 5m	－1 %
							長	L > 5m
7 公園 緑地 編	2 植栽	3 植栽 工			樹 木 植 栽 工	樹 高		－0
						目通り周（芝・付周）		－0
						葉 張 径		－0
					地 被 類 植 栽 工	樹 高		－0
						辺	L ≤ 50m	－50
							長	L > 50m
					支 柱 工 (木材、竹材)	長 さ		－0
						径		－0

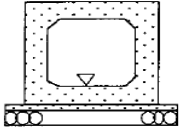
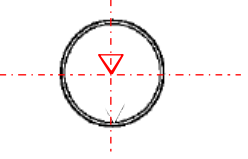
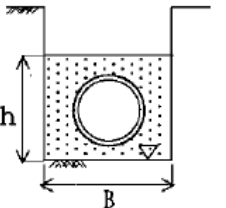
単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 施工広場 3 箇所以上測定し、変化点は変化点ごとに測定する		
高中木 樹種毎 200本未満 5 %以上 500本未満 4 %以上 1, 000本未満 3 %以上		
低木 樹種毎 200株未満 3 %以上 1, 000株未満 1. 5 %以上 2, 000株未満 0. 8 %以上		
総辺数の1／3以上		
樹木植栽工に同じ		

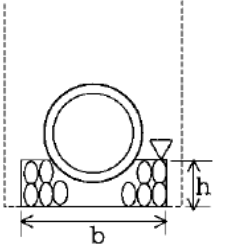
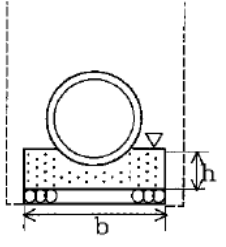
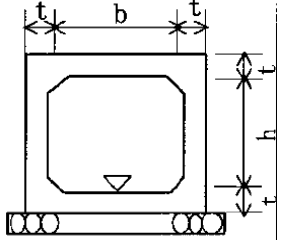
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	3 管路土工		管路埋戻	基準高▽	±30
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工		管布設 (自然流下管)	基準高▽	±30
						中心線の変位 (水平)	±50
						勾配	逆勾配としない
						延長	-200
						総延長	-200

測定基準	測定箇所	摘要
各マンホール間ごとに1箇所測定する。		
マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
延長はマンホール間を測定する。		

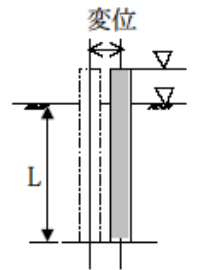
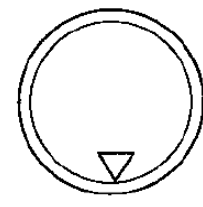
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工		矩形渠 (プレキャスト)	基準高▽	±30
						中心線の変位 (水平)	±50
						勾配	逆勾配としない
						延長	-200
						総延長	-200
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管布設工		圧送管	基準高▽	±30
						中心線の変位 (水平)	±50
						総延長	-200
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管基礎工		砂基礎	基準高▽	±30
						幅 b	-50
						厚さ h	-30

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長20mにつきスパンの中央部及び両端部等を測定する。 延長はマンホール間を測定する。		
施工延長おおむね40mにつき1箇所の割合で測定する。		
各マンホール間につきスパンの中央部及び両端部等を測定する。		

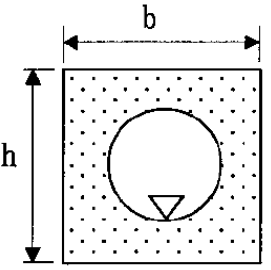
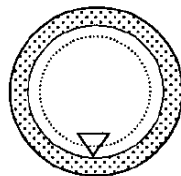
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管基礎工		砕石基礎	基準高▽	±30
						幅 b	-50
						厚さ h	-30
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	4 管基礎工		コンクリート基礎	基準高▽	±30
						幅 b	-30
						厚さ h	-30
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工 (開削)	6 水路築造工		現場打水路	基準高▽	±30
						中心線の変位 (水平)	±50
						幅 b	-30
						高さ h	±30
						厚さ t	-20
						勾配	逆勾配としない
						延長	-200
						総延長	-200

測定基準	測定箇所	摘要
各マンホール間につきスパンの中央部及び両端部等を測定する。		
各マンホール間につきスパンの中央部及び両端部等を測定する。		
1 打設長ごとにスパンの中央部及び両端部等を測定する。		
1 打設長が20m以上の場合は、20mにつきスパン中央部両端部を測定する。		
延長はマンホール間を測定する。		

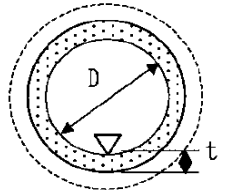
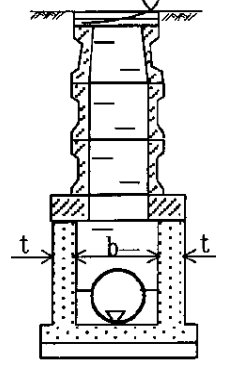
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	3 管きよ工（開削）	7 管路土留工		鋼矢板土留	基準高▽	±50
						根入長 L	設計値以上
						変位	100
8 下水道編	1 管路	4、 5 管きよ工（小口径推進、推進）	3 推進工		推進工	基準高▽	±30
						中心線の変位（水平）	±50
						勾配	逆勾配としない
						延長	-200
						総延長	-200

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工単位につき2箇所測定する。		任意仮設の場合は除く
推進管1本毎に1箇所測定する。 延長はマンホール間を測定する。		

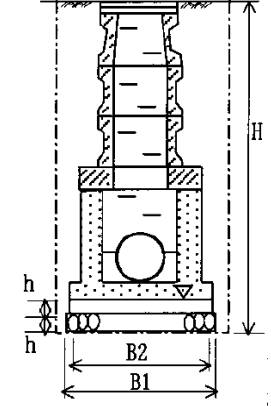
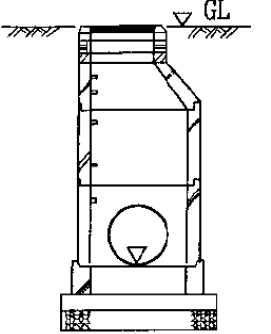
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	4、 5 管きよ工（小口径推進、推進）	4 立坑内管布設工		空伏工	基準高▽	±50
						幅 b	-30
						高さ h	-30
						中心線の変位（水平）	±50
						延長	-50
						勾配	逆勾配としない
8 下水道編	1 管路	6 管きよ工（シールド）	3 一次覆工		掘進工	一次基準高▽	±50
						一次中心線の変位	±100
						延長	-200
						総延長	-200

測定基準	測定箇所	摘要
1 施工箇所毎に測定する。		
セグメント5リングにつき1箇所測定する。		
延長はマンホール間を測定する。		

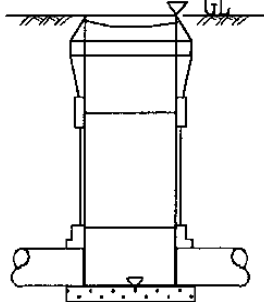
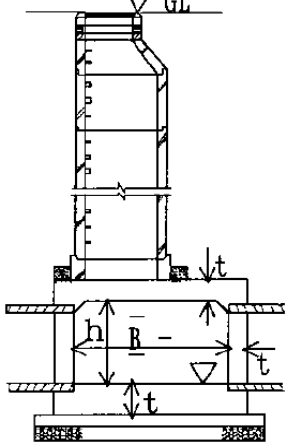
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	6 管きよ工 (シールド)	4 二次覆工		二次覆工	二次基準高▽	±50
						二次中心線の変位	±50
						二次覆工厚 t	-20
						仕上がり内径 D	±20
						勾配	逆勾配としない
						延長	-200
						総延長	-200
8 下水道編	1 管路	7 マンホール工	3 標準マンホール工		標準マンホール工	基準高▽	±30
						幅 b (内法)	-30
						壁厚 t	-20
						人孔天端高	±30

測定基準	測定箇所	摘要
基準高、中心線の変位、仕上がり内径は、おおむね施工延長40mにつき1箇所測定する。 二次覆工厚、1打設ごとに端面で上下左右4点を測定する。 延長はマンホール間を測定する。		
マンホールごとに測定する。		

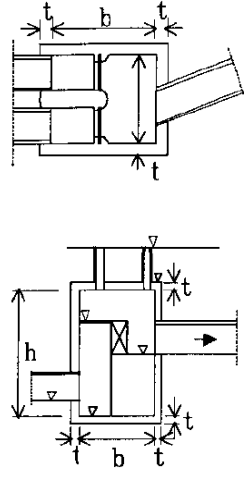
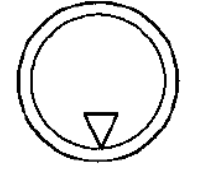
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	7 マン ホール 工	3 標準 マン ホール 工		マンホール底部工	基準高▽	±30
						床掘深 H	±30
						基礎工幅 B1	-50
						基礎工高 h1	-30
						コンクリート工幅 B2	-30
						コンクリート工高 h2	-10
8 下水道編	1 管路	7 マン ホール 工	4 組立 マン ホール 工		組立マンホール工	基準高▽	±30
						人孔天端高	±30

測定基準	測定箇所	摘要
マンホールごとに測定する。		
マンホールごとに測定する。		

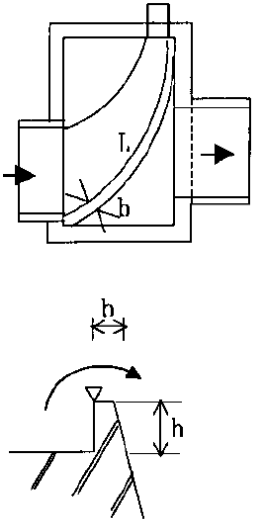
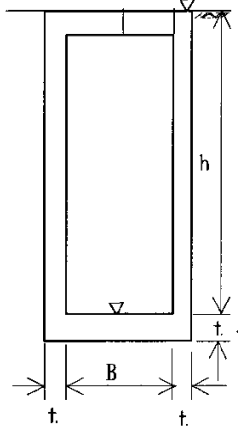
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	7 マンホール工	5 小型マンホール工			基準高▽	±30
						人孔天端高	±30
8 下水道編	1 管路	8 特殊マンホール工	4 躯体工		現場打ち特殊人孔	基準高▽	±30
						幅 B	-30
						高さ h	±30
						壁厚 t	-20
						人孔天端高 (GL)	±30

測定基準	測定箇所	摘要
マンホールごとに測定する。		
特殊人孔ごとに測定する。		

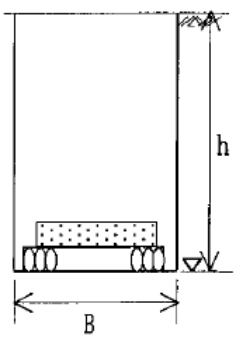
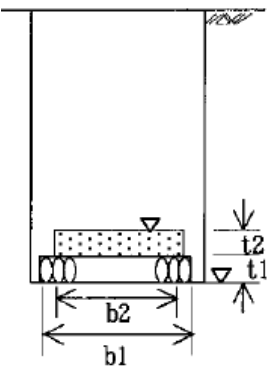
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し室・雨水吐室工			基準高▽	±30
						幅 b (内法)	±30
						高さ h	±30
						厚さ t	-20
8 下水道編	1 管路	8 特殊マンホール工	伏せ越し管工			基準高▽	±30
						中心線の変位	±30

測定基準	測定箇所	摘要
箇所ごとに測定する。		
箇所ごとに測定する。		

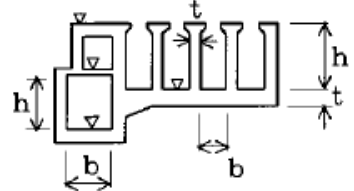
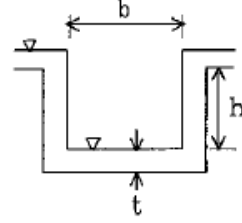
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	1 管路	8 特殊マンホール工	越流堰（雨水吐室）			基準高▽	±10
						幅 b （厚さ）	±20
						高さ h （深さ）	±30
						延長 L （長さ）	-20
8 下水道編	1 管路	8 特殊マンホール工			中継ポンプ施設	基準高▽	±30
						幅、長さ B	-30
						深さ h	-30
						壁厚 t	-20

測定基準	測定箇所	摘要
基準高は、中央および両端部を測定する。 幅、高さ、長さは、箇所ごとに測定する。		
ポンプますごとに測定する。		

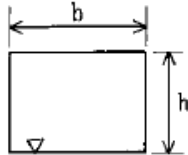
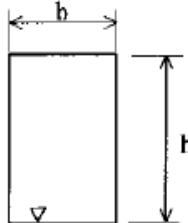
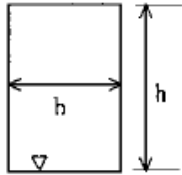
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下 水 道 編	1 管 路	1 2 立 坑 工	4 土 留 工		立坑工	基準高▽	±30
						立坑寸法 B	±100
						立坑深さ h	±30
8 下 水 道 編	1 管 路	1 2 立 坑 工			立坑土工	基準高▽	±30
						立坑碎石基礎幅 b1	-50
						立坑碎石基礎厚 t1	-30
						立坑底板コンクリート基準高	±30
						立坑底板コンクリート幅 b2	-30
						立坑底板コンクリート厚 t2	-10

測定基準	測定箇所	摘要
立坑箇所ごとに測定する。		
立坑箇所ごとに測定する。		

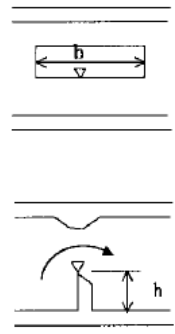
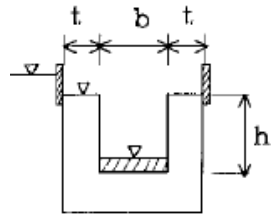
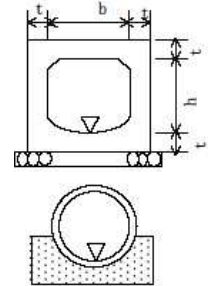
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工		池・槽の主要構造物	基準高▽	±30
						幅 b	±30
						高さ h	±30
						壁厚 t	-20 ただし床版厚 -10
						長さ L	±50
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工		池・槽の付属構造物	基準高▽	±20
						幅 b	±20
						高さ h	±20
						壁厚 t	±10
						長さ L	±50

測定基準	測定箇所	摘要
1池（又は1槽）について、図面の主要なる寸法表示箇所を測定する。		
箇所ごとに主要なる寸法表示箇所を測定する。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工		開口部	幅 b	±20
						高さ h	±20
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工		ゲート用開口部	基準高▽	-20 +0
						幅 b	-0 +20
						高さ h	±20
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	躯体工		可動せき用開口部	基準高▽	-20
						幅 b	-0 +20
						高さ h	±20

測定基準	測定箇所	摘要
永久開口部ごとに測定する。		
開口部ごとに測定する。		
開口部ごとに測定する。		

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	越流堰板工		越流堰	基準高▽	±20
						幅 b	±20
						高さ h	-20
						長さ	±20
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	越流樋工		流出トラフ	基準高▽	±20
						幅 b	±20
						高さ h	-20
						厚さ t	±20
						長さ	±50
8 下水道編	処理場・ポンプ場	本体築造工	管布設工		流入渠・流出渠	基準高▽	±20
						幅 b	±20
						高さ h	-20
						厚さ t	±20
						延長	L<20m -50 L≥20m -100

測定基準	測定箇所	摘要
基準高は、中央部及び両端部を測定する。 幅・高さを箇所ごとに測定する。		
基準高は、とい（樋）ごとに交差点等を測定する。 幅、高さは、各池、1 樋について 3 箇所測定する。 長さは、各池外周部の 1 樋について測定する。		
設計図の寸法表示箇所を測定する。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					浚渫	水深（土砂・岩盤）	+0 －規定なし
						斜面（土砂・岩盤）	+0 －規定なし
9 港 湾 編					床堀	床堀高は 計画面に対して	±300
						床堀斜面は 計画面に対して	外側 2m 内側 300
9 港 湾 編					埋立	平坦性	設計図書 による
9 港 湾 編					置換え	幅	+規定なし －0
						延長	+規定なし －0
						天端幅	±500
9 港 湾 編					敷砂	幅	+規定なし －0
						延長	+規定なし －0
						天端幅	±300
9 港 湾 編					捨石本均し	基準高	±50
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100

測 定 基 準			測 定 箇 所	摘 要
1) 測深線の間隔は砂または泥質海底の場合、下表の未測深幅とする。 2) 岩盤質海底の場合の間隔は、下表の2倍以上の密度とする。				
水域の種別	海底の状態	水深による区分	未測深幅	
航路	船舶のために掘り下げ工事区域	計画水深 4m を超える区域	6m 未満	
泊地		計画水深 4m 以下の区域	10m 未満	
計画高の断面形状については 10m～20m ごとに 1 箇所				
測線間隔 20m 以下または設計図書による				
計画面の幅延長については 10m～20m ごとに 1 箇所				
計画面の幅延長については 10m～20m ごとに 1 箇所				
測線、測点間隔は 10m 以下				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					捨石荒均し (被覆 BL 据付面・ 形状が平型以外で 整積の場合)	基準高	±300
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100
9 港 湾 編					捨石荒均し (岸壁前面)	基準高	+0 －200
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100
9 港 湾 編					捨石荒均し (異形 BL 据付面・ 乱積) (上に被覆石が載 る場合)	基準高	±500
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100
9 港 湾 編					捨石荒均し (被覆 BL 据付面・ 形状が平型で整積 の場合)	基準高	±100
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100
9 港 湾 編					捨石荒均し (洗掘防止捨石の 場合)	基準高	±500
						延長	+規定なし －100
						幅	+規定なし －100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
測線、測点間隔は 10m 以下	法面に直角	
測線、測点間隔は 10m 以下	法面に直角	
測線、測点間隔は 10m 以下	法面に直角	
測線、測点間隔は 10m 以下	法面に直角	注) 本規格値は、単層整積において被覆 BL の形状が平型(脚が短い)のものを使用する場合とする。
測線、測点間隔は 10m 以下 ①：本均し ±5cm ②：荒均し ±50cm	法面に直角 	基礎工と洗掘防止工が同時施工の場合、基礎捨石と洗掘防止捨石が接する面については、均しを行わないものとする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					被覆石均し	天端及び法面の均し面の高さ	±500
						岸壁前面の天端の均し面の高さ	+0 -200
						異形ブロック据付面(整積)の均し面の高さ	±300
						天端幅	+規定なし -200
						延長	+規定なし -200
9 港 湾 編					裏込	均し（天端）	±200
						天端高	+規定なし -100
						天端幅	+規定なし -100
						法面（法面に直角）	±200
						延長	+規定なし -100
9 港 湾 編					アスファルトマット 合成繊維マット	敷設位置	
						重ね幅	500 以上
						延長	+規定なし -100
9 港 湾 編					合成樹脂型マット	敷設位置	
						重ね幅	300 以上
						延長	+規定なし -100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
測線、測点間隔は 10m 以下	法面に直角	
測線、測点間隔は 10m 以下		
始・終端及び変化する箇所毎並びに 20m に 1 箇所以上		
1 枚に 2 点		
マットの中心を区間毎及び全長		
始・終端及び変化する箇所毎並びに 20m に 1 箇所以上		
1 枚に 2 点		
マットの中心を区間毎及び全長		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					帆布	敷設位置	
						重ね幅	500 以上
						延長	+規定なし -100
9 港 湾 編					ケーソン製作	長さ	+30 -10
						幅	+30 -10
						壁厚	±10
						高さ	+30 -10
						対角線	+40 -10
9 港 湾 編					ケーソン据付 2000t 未満	法線に対する出入り	防波堤±200 岸壁 ±100
						据付目地間隔	防波堤 200 以下 岸壁 100 以下
						天端高さ	—
						延長	—
9 港 湾 編					ケーソン据付 2000t 以上	法線に対する出入り	防波堤±300 岸壁 ±150
						据付目地間隔	防波堤 300 以下 岸壁 200 以下
						天端高さ	—
						延長	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
始終端及び変化する箇所毎並びに 20m に 1 箇所以上		
1 枚に 2 点		
マットの中心を区間毎及び全長		
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
各層完成時に中央部及び底版と天端は 両端		
各層完成時、各壁 1 箇所		
完成時、四端		
最下段及び完成時		
据付完了後、両端 2 箇所		
据付完了後、天端 2 箇所		
据付完了後、四隅		
据付完了後、法線上		
据付完了後、両端 2 箇所		
据付完了後、天端 2 箇所		
据付完了後、四隅		
据付完了後、法線上		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					鋼杭	杭中心位置	100 以下
						杭天端高	±50
						杭の傾斜	斜杭 3° 以下
							直杭 2° 以下
9 港 湾 編					鋼矢板	矢板壁延長	+1 枚幅 －0
						法線に対する出入り	±100
						法線に対する傾斜	1/100
						法線方向の傾斜	1/100
						矢板天端幅	±100
9 港 湾 編					コンクリートブロック 製作（L型セルラー）	幅	+20 －10
						高さ	+20 －10
						長さ	+20 －10
						壁厚	±10
						対角線	－
9 港 湾 編					直立消波B L 製作	幅	+20 －10
						高さ	+20 －10
						長さ	+20 －10
						壁厚	±10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
打ち込み完了時、全数		
法線に対する出入り傾斜、天端高については、打ち込み完了後全数量を確認し、20 枚に 1 枚及び変化点。 法線の方向の傾斜は打込完了時（両端）。		
型わく取りはずし後、全数		
型わく取りはずし後、全数		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					コンクリートブロック 製作（方塊）	幅	+20 －10
						高さ	+20 －10
						長さ	+20 －10
						対角線	－
9 港 湾 編					コンクリートブロック 据付（L型セルラー）	法線に対する出入り	±50
						隣接ブロックとの間隔	50 以下
						延長	－
						天端高	－
9 港 湾 編					コンクリートブロック 据付（方塊）	法線に対する出入り	±50
						隣接ブロックとの間隔 （目地間隔）	30 以下
						延長	－
						天端高	－
9 港 湾 編					コンクリートブロック 据付（直立消波B L）	法線に対する出入り	±50
						隣接ブロックとの間隔 （目地間隔）	30 以下
						延長	－
						天端高	－

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
型わく取りはずし後、全数		
据付ブロック1個につき2箇所 （最下段、最上段）		
据付完了後、法線上（最上段のみ）		
据付後ブロック1個につき2箇所 （最上段のみ）		
据付ブロック1個につき2箇所 （最下段、最上段）		
据付完了後、法線上（最上段のみ）		
据付後ブロック1個につき2箇所 （最上段のみ）		
据付ブロック1個につき2箇所 （各段毎）		
据付完了後、法線上（最上段のみ）		
据付後ブロック1個につき2箇所 （最上段のみ）		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					蓋コンクリート	天端幅 (場所打コンクリート)	±30
						厚さ	+30 -0
9 港 湾 編					水中コンクリート	天端高	+50 -20
						天端幅	+50 -30
						延長	+規定なし -0
						法線に対する出入り	±50
9 港 湾 編					防波堤上部工	天端高 ・ 厚さ	W ≤ 10m ±20
							W > 10m +50～-20
						延長	+規定なし -0
						法線に対する出入り	±50
						天 端 幅	W ≤ 10m ±30
							W > 10m +50～-30
9 港 湾 編					係船岸上部工	延長	+規定なし -0
						天端幅	±20
						法線に対する出入り	±30
						天端高又は厚さ	±20

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1室につき5箇所		
天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上		
1スパン3箇所		
法線上		
1スパン2箇所		
天端面は1スパン4箇所以上 パラペット頂部は1スパン2箇所以上		
法線上		
1スパン2箇所		
1スパン3箇所		
—		
1スパン3箇所以上		
1スパン2箇所		
1スパン3箇所、ただし、測定間隔が、 5mを超える場合は5m毎1箇所		

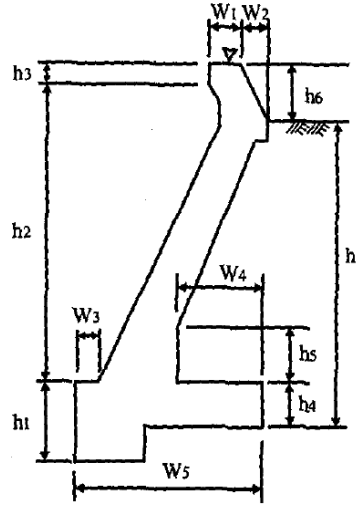
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
9 港 湾 編					岸壁（物揚場）	天端高		±20
						厚さ		±20
						天端幅		±20
						延長		+規定なし －0
						法線に対する出入り		±30
9 港 湾 編					けい船柱	天端高		±20
9 港 湾 編					車止め	法線に対する出入り		±30
9 港 湾 編					船揚場	基準高		水中±50 水上±20
						長さ	水中	+50 －0
							水上	+50 －0
						幅 （延長）	水中、水上	+規定なし －0
						厚さ	水中、水上	+規定なし －0

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
係船岸上部工に準拠		
据付完了時、中心部、全数		
取付完了後、中心部を1点		
測線 10m 間隔以下前面 B L～止壁張ブロックは両面		

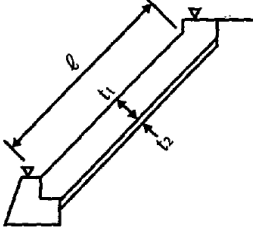
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
9 港 湾 編					異形ブロック製作	型枠形状寸法		観 察
						ブロック外観		観 察
9 港 湾 編					異形コンクリートブ ロック据付 (海岸、港湾工事)	乱 積	基準高	ブ ロ ッ ク 1 ケ 据 付 高 の ± 1 / 3
							幅	± 20%
							延長	+ 2%
						層 積	基準高	26t 未 満 ± 300 26t 以 上 ± 500
							幅	+ 2%
							延長	+ 1%
9 港 湾 編					直立提	基準高		± 50
						幅 W W1～Wn		-30
						高さ h<3m h1～hn		-50
						高さ h≥3m h1～hn		-100
						縦長 L		-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
型枠搬入後適宜		
全数		
測線 20m 間隔以下 1 工事 3 箇所以上		
施工延長 40m につき 1 箇所、80m 以下のものは 1 施工箇所につき 3 箇所		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 港 湾 編					斜提 (直接打設方式)	基準高	±50
						法長 $\ell < 3\text{m}$	-50
						法長 $\ell \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ t	-30
						延長 L	-200
9 港 湾 編					斜提 (異形ブロック方式)	基準高	±50
						法長 $\ell < 5\text{m}$	-100
						法長 $\ell \geq 5\text{m}$	$\ell \times (-2\%)$
						厚さ t	-50
						延長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m につき 1 箇所、80m 以下のものは 1 施工箇所につき 3 箇所。		
施工延長 40m につき 1 箇所、80m 以下のものは 1 施工箇所につき 3 箇所。	